

慶長
業末

新刀辨疑

一

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5



LAM
7

不許翻刻

慶長以來

新刀辨疑

藤原魚妙藏版

新刀辨疑序



新刀者何。別古刀也。辨疑者何。為世
辨似而非者也。何謂古刀。十握族雲
尚矣。自昔天治氏奉

制。為族雲造副也。子孫十數世。守業
不墜。京関備前諸州刀匠。嗣出。至元天

年。間。殆。二。子。有。餘。載。數。百。子。之。是。為。古
刀。慶。元。撥。亂。而。來。四。海。無。事。建。國
三。百。無。國。不。有。良。匠。而。數。十。百。之。是
為。新。刀。何。謂。似。而。非。者。母。貝。草。已。歸。戢
囊。刀。劔。之。為。漸。走。浮。華。龜。文。漫。理。
以。眩。衆。目。者。注。之。而。然。女。姦。商。乘。之。競。為

奇。貨。所。倩。校。焉。之。匠。唯。贗。是。力。欲。希
翼。鳳。鸞。愈。務。愈。遠。是。謂。似。而。非。者。
滕。九。年。氏。惡。彼。姦。黠。謬。世。誣。衆。又。傷
韜。幹。家。認。沽。為。良。所。騙。不。警。於。是。也。
明。真。贗。之。疑。具。眼。而。后。可。辨。焉。并。為。良
工。雪。其。寃。云。夫。良。工。之。治。樸。也。百。鍊。為。鑄。

新刊雜錄
卷之二
淳祐清泉。拭諸志土。苦心而后成。得於
手。應於心。有不啻扁之於輪者。而存其
如與天成。其象與神化。非復厲之所
能為也。滕君益有見於斯。潛心多
年。於鍛與磨之技。而親為之。能窮
其所。嗚乎。勉矣。而后真之。与厲一見則

知焉。如歆之於馬也。其班七等。隨能品
第。雖錯諸觀。美與舉。法斷割乎。大冶
之造。未嘗不文理精妙。星動龍飛。如沸
如出也。大非蹈齧。剝而獨而成者。以君少
曰。妙處每在如沸如出之間。徒論刀笠。歛
識抑末也。所謂具眼而后定之者。其則益

不遠焉。庶於玄黃。精於神駿。君之
於刀六云。余已序此編。及其重刻。更序
為贈。

安永八年歲在己亥夏六月念八日

四明井仲龍撰



東江源 辨書



新刊神皇正統記序

予以素心高の鴻緒を承るに云 邦ハ金皇
業方下り神皇上世能むり 源冊乃三そる天の
浮橋乃く人に立一なり 隆牙をゆお路一後海
越抄了終ひ予の滴り凝り望りて島と暮るあまよ
り海くを生まる皇統下り天ハ海の國と奉 大方已
貴言無 御子千三能國を彌けあふ其古十握
ハ握乃神勅有抄又 素心高言ハ候乃大坂を
討ふ向ハ尾又あり神勅ハ一神統らる尾の中

辨せ給れ又治平自心造りて以て其の相ある
 予説を待たざるもつらや五段入道西宗無徳國
 在體歴し金蓮乃家系或は持方越考記一守
 回明記と題せるもの者西宗たの良良宗九百三言
 秋廣高徳某守都某之河入道也徳へ来りて此
 八道ハ赤山教の比乃人ヤ價時とあるものなり
 持方の子始れりといふ事ハ此の如き事ハ此の
 傳を受くつら由本河原の先祖無徳と稱乃如と
 初を廢るるは業とすも如本河原源佛といふ事

何れに思ふ高相の精しき事廣りしとある
 是の代の孫清位祖業を無徳と稱し本光
 とす方の子光の字哉用ゆりて奉りて此は
 世の初の子方也乃其跡を定むるを孫とす世
 目利のちと題せるものなり相なり多しと云ふ
 事又云ふなり一江府神田持久といふの事長
 お及の物を持刀と稱し持刀鑑考と著し難波
 乃數世を度集を求むと云ふ事近代の治王也
 此の事の者なりを知らざらん其乃功ある事

予此年より高相を更じし遊ひを本を及
 以て末を弄好を教ふ美志を有する人新刀
 辨劣或は執を端すれは是は彼より優劣
 人れは是より劣ありは是より優あり
 乙然り七世は成河の白子に此を實り
 人乃迷ひを釋り是れは空むあり君人や
 是れは公もよと勤む事再ひに之は然るは
 高子乃空の枝折深きことこの楯を宗
 子よは幸あり人と空の娘りも越梓り

懐くあり備へ越世へ新刀能輪と号あり
 是れは美つる志に或問りありおとせり
 是れは美つる志に或問りありおとせり
 是れは美つる志に或問りありおとせり
 是れは美つる志に或問りありおとせり
 是れは美つる志に或問りありおとせり

徳田三良大夫

高子乃美の亥秋

高子乃美の亥秋



新編 和語 卷之六 六

文人 我々も亦 抄寫 始末


凡例

一 勝久が新刀銘盡及び大板の後集出てより今世も亦
 上工数家者、と評する所、故に堀川國廣大板生及助廣江戸所
 出、其の刀匠、ハ實物以て人を惑す多し、故に其の
 出、すといつ、凡、眞偽を辨、ずる、爲、に、世、に、賞、受、の、刀、匠、ハ、其
 國、の、序、以、て、正、し、其、物、を、數、毎、圖、して、辨、明、の、爲、に、
 爲、尋、常、の、刀、匠、ハ、惟、獨、考、證、定、する、の、み、敢、て、中、心、を、出、す、が、又
 何、圖、する、も、早、撫、て、圖、する、所、撰、寫、の、乃、も、之、を、彫、刻、の、程、も、又、多
 かる、を、見、し、え、る、人、は、其、辨、也

一 萬集、國、の、志、を、さ、る、鍛、治、又、ハ、漏、る、刀、匠、或、ハ、其、以、後、の、治、工、等
 多、し、今、亦、又、及、不、必、ハ、其、之、を、載、す、
 一 角野、書、見、正、久、と、考、者、の、一、書、あ、り、上、應、永、の、故、を、温、紙、下、享、保、十

新編 和語 卷之六 六

七年小隆と海治の信本往不昔詳不記也。然其代開信不書
 之るもや。辨疑多し。一書の中は、此を記して一書の説とあは
 一彩刀の位を記するも、百集に定る不し。彩刀は、七書と
 す。能く其うち、格也。實ハ、剣刀の成る成を鑑考するの
 一鍛煉の事ハ、其傳大同小異あり。格ハ、古書を記して、考家
 たりよりす。

一研法ハ、利徳の頭を利鈍の如く、所小して、中業聚る。故、た
 一、格の次第を記して、考家より使す。
 一、百集の半、漏又ハ、一書の説を、予未だ、不ざる。物言、辨て、附録
 とす。凡、又、板、成て、後、不、足る、不ハ、國の、次第、は、六の、卷、尾、の、書
 一、先、不、彩、刀、辨、疑、五、卷、成、す。一、代、開、信、不、違、あ、す。其、傳、不、彫、刻、せ、し、む
 刻、成、す。是、其、代、開、信、不、違、と、せ、ざる。考家、は、あ、し、故、再、考、再、刻、して、七、卷、と、る。

新刀辨疑目録

卷一 或問

相劔 砥磨次第

鍛煉畧記 諸系圖

卷二 位列

上上作 上之中作

上之上作 上之下作

卷三 位列

中之上作 中之下作

中之中作

卷四

刃鑑 中心軌範

畿内

新刀辨疑卷之一
或問
新刀辨疑卷之一
或問
新刀辨疑卷之一
或問

卷五 中心軌範

畿内

東海道

卷六 中心軌範

東山道
山陰道
西海道

北陸道
南海道
國不知

卷七 附録

角野壽見一書

以上

新刀辨疑卷之一

或問

或問神田勝久享保の末新刀銘書其巻を著し相續て難波の後集出
しよる凡慶長の以より享保迄は國鍛冶の勝劣ハ無知す一し然れ
ども中心の形と所作との可否を論ずる所至らざるの故上下の品
別分ると云物為此書も似令下作も世小賞契未記鍛冶ありた
悉く中心の抽形出すべきありあらん欲

卷云先板後集に心と申ひ下作も諸人賞契未記の如も銘中心
心の及ふかけ眼の見るた多ハ著しやりと元ゆきと其切を速うに
せんともよくや写し誤れる所の多し故不今世人の賞契あるを以て
修物と作り世を迷すこと多き所憂て正しく起を数示出す考也併
筆力の及ぶざる所或無彫刻の誤り有べし真偽一変ハ切者不何す

一と云きるるの由也故云相と目利とハ異名同意と知るをたしと
 或曰勝文新刀は心切用ゆるる物也其著す所の書ハ繁慶虎徹堀
 川の國廣把前ひげんの忠吉たけよし九字くじ若字わかしの包保ふくぼ昔の數筆すうひつを上作うわとす大坂の
 後集こうしゅうハ津田助廣すけひろ新刀の冠かんとせり包以薩州さつしゅうの正清安代せいせいあんたいを最上
 ありといふ人も又多し其攻うごを大坂の正宗せいしゅうと云人もあり然るを今
 助廣すけひろ第一だいいちとして真改まかいハ平次へいじとして國廣くにひろ以下以下又平次へいじハ出せし
 ハ大坂の後集こうしゅうより少所近すくなところき也

答云勝文の新刃銘盡ハ海内うみうちを求めて能集よくと云と云べし後集ハ其
 不ふ又悉しつして廣ひろくぬ所ところ有ありぬし其兩部りょうぶの切切きりぎりあり考か且かつ金氣かねき
 の金かね備ひり地織ぢおの蹄か能よく鋭えいいさましく白しろひ至いたる白しろくいさるも
 物もの深ふかくして刃やいばと地織ぢおの整ととのへ聲こゑハ虹にじの蔚うするが如ごとく爽さわくして麗うるはし
 切きを上うへ作つくと定めたり國廣くにひろ忠吉たけよし席せき徹てつ繁慶はんけい昔むかし作つくるも死しざる上うへ作

一と云とくとも津田助廣希首けうの上手うでずにして猶なほ平へい中ちゆう又勝かたたると云
 つづし

或曰井上和泉守國貞くにさだ老後らうごの作つくを忠改ちゆうかいと号なづけ然しかるに國貞くにさだ價あひ言ことわら
 ぬ極ごくふ心得こころえ真改まかいハ別わかけ又價あひ貴たかし助廣すけひろを後のち近ちか衛流ゑりゅうの銘めいなるを重おも
 寶たからとす同一どういつ人の造つくる事こと知し銘めいの前後ぜんご又拘かると不審ふしん老後らうごハ其功そのこう
 も至いたるる日ひやぬ素もと

答云井上和泉守と銘するも助廣の楷書かいしよの銘めい共ともふ壮年しょうねんの作つく故ゆ地織ぢお
 の鍛か締ぢと老後らうごの作つくすをハ勝かれたる方かた也唯ただ其道具もとのぐ又またよりて甲か乙おつハ
 論ろんずべし壯年しょうねん老後らうご又後のちての勝か劣せつハ皆みなしと知るしるををし其その何なにの作つく
 日ひても見み不ふ准ちんすべし

或問新刀銘物と見らるる勝かと上手うでずと出でせるにふのふのと宜よろうら
 ぬ者もの大鉢たいはちの作つくと出でするも又また平へい中ちゆうと申まをすも勝かて出で來きの純物じゆんぶつ

多しは度次第を定むといふも是又其益未だのまにあは諸人の迷ひも未だ起り

答曰此論高しといふし只先板西部の力が仮積年考す所の多きを以て仮極すのみ上作と極す中にも取用するは禮の物も有し下作の中よりも好みの小撈るを起物も出づし未だから偽の二つ三つを取らば七つ八つの多きは是を位を極す也

又同井上生及ハ大坂より宗より相物正宗ふ比した家ハお似る不者も只大坂の其所の上工ゆへ尔云も也

答云真改が能なる也其能の是もあまるとも入道正宗の後一人ある者能ふ尔いふある也

又同然ハ正宗よりする生及を第一とす能なるあるに却て助廣の次は並たるハいけん

答云能ハ次より自ひハ劔の魂也亦自ひハ先小して能ははは為也を目利者流ハ能の善悪を以作の高下を定め正宗ハ古今能の名人地鉄の能又事に自ひも至て深く實なる名も起上工也亦名人を考すも又栗田吉光國吉善佐高の友成長光以下の能治の能をわ悉くせず能ハ能之鐵の火は燒きて沸ゆる津の心也自ひハ火又過及の過おくして鐵の精分を備りしをを顯きする金氣の本然を望みの能ふして能の魂也亦自ひハ能すも大事ある能なり凡鉄刀の能治數百家有といふも助廣う如く鐵の善より能すも又の上能しく自ひ深く深や加又白く小能くも自ひを拘いりるも物深く地鐵剛くも柔かすも火加減を極す所のを得たる名人ハ有るうす能ふ能道をまもるも自ひ深きハ物よく切る多し亦大和吉道河内守國助等名堂の一族佐高の能也亦

自ひふ起物無物切あてりい首てなる也泥と自ひハ車の両輪
の如くして合使ゆる以上作とせし鈍自ひ共又鐵の魂ふきとも
火過れハ鉄の多く出さ地鐵又の上せし乾き出る也名人の業と
する所ハ自ひ日と泥を包むを最とす自ひ厚く泥多きハ裸鉄と
嬌也鉄自ひせし揚ふとつととも生出來弱く沈むるハ是又忌
嫌ふ也唯浮き強く強壯と善とす也物鉄見事あるハ粟田口相州の
直三人郷義弘中古關和ある善定中流生及善是也國廣明書忠告警
慶善の鈍ハ光薄くして少しうも又助慶席徹助直善の鈍ハきもの
光りハせれども自ひ深起ぬ又善あり正法安代以下薩あ物の鉄ハ
光有とつと力為し又糸田の鈍ハ甚荒くして中佐早し物自ひは
も色ハあま第一浮やう又白く物深くして焼又地鐵爽よりて
又方ハ虹の如くむらあく顯るを善とす江戸法城寺の一類又上

上総女兼重大和吉安定安備岩城の國席善の自ひハ深しとつと
色重く卑し又黠くと集まると所ある自ひハ松以早起物也

或問地肌ハ摺て世の常美する亦也物多ふく好むをうくと云ハ
いけん

答云根元の鐵ハ乳赤し船治の家流およりて板目松目と品異之
とつととも鐵を數篇船るハ本地鐵知ぬ矣又し飽せて造く造んが

為也數百葉の度自然に船目顯る為針物なれども是等ハ同く
ハ地鐵の透るやなく堅ハ羽二重の如くはあまはけを始す乳

物と造るを立るハ船治の心も好む人の心も善くすと云座起也乳若
鐵の煉者をも亦より別るといふて近うとたう又刃先と乳立

りのハ松更直うぬる也
或問此其ある者書と著して中ハ新刀銘書無燒土し物といふ

夫と有是を炮物といふ一皮焼するは皮如く燒すをいふ也多
 少異なる物也用ゆづるは是を一偏の偏也其辨治の心は應ぜ
 ざる出来ハ何篇も燒直す事也然れハ種種の事も火災不達之
 ハ切先の又上り又為刃の背くを好むと志するは上手の辨を
 せよ事の燒直す、と志何れ度燒直すとも道具の為不思き、と
 能出来た系ハ上作もあるもの也乃其の害ふあざる考念じ
 又燒直しおぼろざる道具も刃の中ハ弱業あるハ切先は弱氣出
 する物ハ同焼をく用控すと云りは言ぬ何

答云是大又初心の迷ひ取直すと也精々に辨治して又を
 焼直す聊ハ火氣の過不及も刃味差別いらく、上手鐵ハ火日
 燒度、とに弱るりのあまざるも鈍す、お火退れ、と鐵蹄を
 て元ハ疾る心也燒直の時火火して燒のみ、と強く鈍す、と打る

ハあざる物ゆ、火氣の鐵如、澄りたる、匠、と火退れ、と鐵蹄の
 火氣に奪り、汁をて更、強くある、る、理、ふし、古人も又燒直ハ
 馬、ハ、傳、ハ、中、者、の、説、取、直、と、志、と、也、志、あ、り、純、道、具、を、焼
 直した、ん、ハ、一、向、の、好、打、世、不、い、と、生、く、物、を、為、務、中、ぬ、を、上、作
 にもなる、とい、ハ、大、又、笑、を、起、る、也、燒、直、物、ハ、一、射、ハ、乾、有、て、銳、力
 あく中心も乾ありて察し易いもの也

或同辨治の後又元祿の比、日本ハ諸國の鐵山、を、出、す、鉄、性、を、造
 て、宜、く、ば、夫、故、む、り、の、如、く、ハ、出、来、く、や、と、云、り、此、後、い、う、ん
 答云鐵の出、平、ハ、先、名、州、出、羽、播、州、出、粟、及、び、千、草、牧、ハ、南、蠻、鐵、を、和
 蘭、人、の、齋、渡、る、本、の、系、形、瓢、草、形、の、鐵、を、以、て、造、り、又、ハ、御、鉄、を、造
 る、知、ず、す、何、れ、昔、ハ、劣、ま、る、也、吾、等、併、ら、是、辨、治、の、務、劣、ふ、り、て、鉄、の
 善、悪、を、為、す、と、云、る、一、し、り、時、薩、州、又、正、良、安、在、安、明、元、平、清、方、若、が、作

を以て見るに粗中亦を得ずりともいふし予を以て鐵性を考るに
 子字穴粟出羽の鉄を擗て火加減小心を以て相繼も治治の力と為
 者を得ぬ火の度如程よくせむふご上作の出来ざる事々者如火
 氣を回さば一之鉄の細美又疎るべし能考一知を治治のたると
 するまき也良鉄といつても火の過る時ハ弱り出ると乾りのおはる
 治として勵ますんむ者なかりは是鍛冶不在て鐵少のすさ知し
 或の傍久ハ疵の見難素一く出せを夫より前ハ疵ある道具ハ忌む
 産起るとし近比あるてハ少の疵も産起るに皆をぬハ如何
 第曰叙ハ疵の勢を思ふ其勞實不空ありあらず又切敷張又意以
 下於て切先の内横ハ隙ある疵者小き連も極子によきて許し
 縁又切敷たるも押て消産起疵ハ許し用ゆづたる也残りたり我
 弱りハ疵あるも亦用ゆる起之産下少カも疵なきハ稀也此也

長叙也鐵の堅固は續ておざる道具ハ起分ゆるすべし小疵の
 以味よりハ叙の手要たる所を能く治後者も起る也
 或の如の形又摺て九疵ハ強く我ハ時多折易し故ハ鉄鐵端の方
 鐵を加へおざる為り又貴金を加へ造るも有はるぬふ
 若云九疵ハ上作の起しして尋常のおもあへば又水田の折ると云
 も偏論也地鉄五線なくして強起叙の折る事何すおざる為らづ
 く古鐵加ると更におおたる也厚地の中起るても鐵の弱ふと
 ハ折る事とあし荒線一面ハ焼たふハ用控者産起也物黄金を加
 必細考ると地鐵を造るおせん為らざるし前もいふ如く古作の
 自然不出る肌さくせよハ志うす好む能物造るの上者重を加
 造るの意味拙との甚し起あへば右傳ハ楚王鄭公は金を加
 置中ハ悔て五物ハ作るるふれと譽ふ中注ハ言の杜預が云楚の

地務れ金利が志うり小牧古ハ銅を以て物又作さし又一説
小金ハ銅鉄の類と又洞冥記ハ武帝首山の銅抄採て始て鑄て刀と
すとあり予按るに日本の銅と異邦の銅と剛柔利鈍同くさるべ
し既又雲南の地銅知出すと夥多とつごも日本の銅をかされ
ハ其用をささずと能き他邦の銅ハ強くして刀劔又作るとい
とも唯人知刺のとも老用知為る也其以昔の説又從て黄金を加
る又ある一説又ハる産ふ金を以て造る等といふの説又さすし其金
ハうまの撫名也是又物りて苦ふあるとい得てハ大又遠て天國正
宗及ひ助廣以下世又名ある上ユ黄金加かく造るる一とるて其
難く亦今の世のユふして古ハ優へる夫其黄金の用をさし鐵
ハ鐵の用知するといふして剛也抱て物の堅固ふして飽まて剛
を用る其本とすと知るを

或同先小疵の一絲ハ端ずといつごも世小地金の疵ハ許す事阿
て又中の疵ハ少しの疵も忘るふあるは子然るを起
答云又ハ物知断を主とし敏しと指悉る起るハあハ地鐵其五
抱一堪るの力とある也志うれハ又の中の疵も地中の疵を忘
し無疵の道具ハ稀あるりの也聖令始の聖疵あるも後ハ孔る疵も
有るし又取れたる疵を隠す術も數有べし切者あはざれハ見
かふし又又通彫物あるるも劔の全鋒開る意あるあるハ地
又其小小疵の物ハ用ひて國用知さすべし
或四作の真偽を辨ひて正し其物知用ゆるハ當然たるたさハ似物
をささるも其功の功復すく成就せハ何ぞ其偽不泥ん其既小疵
とて始貞宗と極し其正宗と極直しとさするも其者といつごも其作の
物たる其辨ひ得ずハ偽作の宜むを得て其銘を削去て其料と為

て可あらずや専ら忠偽を辨する時ハ一旦後ある人の手に偽物
とかなんとも老子載の後まで埋まらん歎くすやいん
若云劔を相する干要の事案は者劔八角といふに通じ人
の身ハ獣の角の如く人の角也又牙也白石の祝不越の敦賀の郡古
八角鹿郡といひし切つるがといふあまはつる也八角といふ通
し獣の角の尖ある不切つる也といふある屋しと志うまハ人
の身も生るる如たの重き也牙の及ぶを祝ハ心切用ひ能く撰
祇造る者の優劣を自得し心ハ一懸の疑なく鑑令りある強敵
鬼神たもはは劔を以て降伏すべしと一変する程の劔あらず
ハ身守るの悪ハあまうらん歎く是は辨治の名のともはみ
用る時ハ偽物も劣る者者し美上作の良劔を得るも末うま
ハ外に價の貴うるや中にも撰取を其工たふ記す

山城

金道伊賀守 久道近江守 正俊越中守 正俊石堂右 吉道丹波守

至六代之間 金道和泉守 在吉阿波守 國路出羽右 信吉信濃守

金道川条坂 國義高井豊 國時城州住 義國川条坂 則國平安城

長吉上同 弘章上同 重次鞍馬 慶次鞍馬 元道平安城

忠國信濃右

大和 國武和州住 包國越中入 助包上野守 國吉越中守 包重和州住

攝津 國平真改弟 貞則真改門 貞次伊賀守 國康肥後守 國重鬼神丸

輝政陸奥守 清信正田 助廣ソボロ 國貞初代 助高津田之

助宗上同 廣政若狭守 吉道丹波守 兼道丹後守 吉行陸奥守

吉國上野守 兼光但馬守 包貞越後守 忠綱粟田口 正綱一子

長綱上同 忠行上同 康廣大坂名堂 為康陸奥守 康永河内守

康綱又任干 長章多羅 信吉高井 包宗上野守 兼増播磨守

包道 伊賀守 國維 相摸守 宗重 常陸守 弟二代 貞廣 高柳 祐國 花房

弘包 信濃守 國幸 根州住 則廣 相摸守 忠重 生玉

武藏 正國 法城寺 正弘 上同 貞國 上同 吉次 上同 國光 上同

是 一 石堂左 光平 出羽守 近 常光 對馬守 吉武 出雲守 安室 大和守

安倫 元奧州 兼重 上總介 繼平 弟代 秀辰 山城守 吉正 武州住

守久 石堂秦 守正 和泉守 東連 石堂秦 正照 法城寺 廣國

加賀 勝國 陀羅尼 勝家 上同 兼若 加州住 兼卷 上同 清光 播磨守

越前 兼定 上野守 國清 山城守 重高 播磨大 掾 宗次 下坂 康繼 上同

兼中 武藏守 正則 大和 貞次 日向守 永國 河内守 光廣 下坂

因幡 兼光 有二代 兼次 有二代

尾張 信高 伯耆守 弟二代 信照 伯耆守 氏房 飛騨守 氏善 若狹守 盛道 武藏守

貞廣 大山 盛道 駿河守 盛道 加賀守 自廣 大山住

美濃 照門 丹波守 吉門 武藏守 兼高 陸奥守 清宣 備中守 清宣 近江守

兼信 陸奥守 康道 大和守 正全 豐後守 金藏 大和守

播磨 金重 迷陽 氏重 大和 國重 津田 右作 又曰宗 兼 貞重 播磨住

備前 祐宣 兵衛二人 上野大 掾 河内守 永正九代 末 國宗 茂右衛 門

正成 又銘多門 兵衛 正次

安藝 輝廣 肥後守 則房 源 幸慶 輝廣 播磨守 廣隆

筑前 守次 是次 實次 安吉 源 重宗 信國

吉包 信國 吉貞 信國 重包 上同 吉次 上同

豐後 重行 高田 義行 上同 自行 上同 國行 上同 統行 上同

豐政 上同 行長 上同 吉行 上同 國平 上同 國際 豐後國 森住

肥前 忠吉 二代 以 忠廣 近江大 掾 數代 正廣 河内大 掾 正永 備中大 掾 行廣 出羽守 世

菊草 伊賀守 吉廣 伊勢大 兼廣 遠江守 宗次 伊豫守 宗安

土を懸て大練し取出し葉灰をくもて得と練合て地又打合す此
標之度小しと一川ふなる也

○第五上鏢 三度ぐり鏢すをいふは時ハ鏢土赤し不灰けを付
るやめ也

○第六伸鏢 軽く焼て打伸し又軽く焼てハ打伸る也は時ハ鏢土
を申ひす灰け加付るとその如し凡式尺五寸の鋳を造んとあ
む式尺三寸余少伸し幅ハむかり厚四分程又尺毫を双方の角
平める如錫の角を来て惣幅凡毫寸式分程又赤して鋳の姿鋒の形
造立る也

○第七水打 少しつ焼てハ復鏢小ぬ加付打はの如して欲する
所の寸尺少伸る也ぬ打ハ本鐵をぬ小ぬが為也ぬ又是れを
鏢能練り潤も出る也一人の小鏢を打亦お能加する有り

は不至るまで束の事如述る也板目柾目の子本捲半捲甲伏居造
等の仕方あり又地鏢ハ種々加つ造る事有る鏢ハ良鏢ハ非
為切がし故又鏢ハ精粗ありといふとも畧せる不五七度良鉄
を鏢ひ用ゆ是甚ぶ畧法也

○第八鉄透 夫より寸尺姿を極て鉄よりくむるやく削立る也

○第九又土 土を能く摩ぬ飛して粘力有粘りして用ゆを大少油
氣を忌削立たる刀より手油の氣の赤起やうに吹味すべし叔斯の

如くふして刀不土如塗好む所の模様ニ双方の土如竹篋を以て
す土の赤起種ハ又とむる土の有ふハ地鏢とあるは時専ら土と金
との合不台土の厚薄篋かけ不ありとむる様不考不模様能出来て土
水を落くして又の上一面不流し懸起分むる如起様不する也土に
か入りの平儀象不すありて如ある屋し懸起とも土より金とる也

摸標の事昔ハ大子不_レした里近世不_レ至_レて失_レたるが如_クし御_レ久_クの番銀
治を以_テて見_レれハ丁子乱_レ御_レ大事とす

○第十又渡 先火御改_メめ齋_シあ毎_レ不_レ清_ルあ七八分湛_レて並炭を山の
如_ク積_リ火を熾_ク不_レ興_ス甚_ク大切_ノ所也_ト扱_レ治_ルあま_レハ水火_ノ力_ハ迅_ク
又_レ如_クれ_ルあ_レ四季_ノ違_ヒ有_リてあ_レ如_ク温_ルせ_ル星_ヲを燒_ク又_レの湯加減_ト号_ス
扱_レ鈕_本す_レ全_ク能_マす_レて材_亦く_レ燒_ク如_ク湛_ルあ_レあ_レ子_ニ入_ル此_ノ如_クして
燒_クあ_レ渡_レ終_ル也_ト扱_レの大成_ハ誠_ハ天人_妙合_ノ業_神力_ノ加_ル所_性さ
る_レ登_けん_或扱_レ及_レの過_タる_ハ火_ヲす_レ間_ヲして_レ及_レを度_ス又_レ味_ノ利_純
も_レは_レ間_ヲして_レ差_有あ_レる_也

○第十一中心 銳_マて格_好よく_レ削_リ至_テ燒_クあ_レ終_ル鑑_子を懸_ク右_鑑尤
鑑_磨羽_志の筋_遠き_至海_昔あ_レあ_レ中_ノ傳_ノ後_世不_レ残_ル物_為鑑
加_以て_レ尺_所の一_ヲす_レ意_ヲ用_ヒず_レん_も有_レる_レ凡_ハ中心_傳來_ノ如_ク

摩_立て目_釘穴_ヲを_指鑑_以て_レあ_ける_{目_釘穴_古て_モ目_貫元_とい_ふ}

○第十二銘切 平_鑽小_{して}磨_クあ_レ磨_キ有_レ細_鑽少_く細_く深_きあ_レ彫_彫
銘_又する_も逆_撥隠_撥して_レ目_鑑こ_{する}鑑_治も_あり_さう_くと_をる_る
手_ノ鑽_者深_く掘_付し_切あ_レ至_レ文_堂の_肩下_りか_いより_有何_もも_作
者_ノ尺_亦と_いう_も也_は小_至て_生十五_枚刀_劍成_就す_後久_ハ新_刀の_打
却_よ至_能切_る也_後世_不至_く思_未ふ_しと_論じ_又後_集す_鉄御_鑑也
の_術ハ_中家_又あ_レも_れハ_善しか_らば_とは_二説_止く_と道_辭不_似た_ら
至_予扱_不扱_を相_する_也扱_を鑑_ひ造_るの_術に_似た_らず_んも_有る_也
らす_磨ハ_射者_ノ弓_製を_志す_醫師_ノ藥_製を_知る_が如_し仍_て今
子_々同_又愈_且日_好初_心不_示すと_云爾

磨事

夫_磨ハ_劍の_利純_得失_ノ繫_多所_あれ_ハ磨_師の_上手_トして_志る_も

ノ百_餘年_下
子_々同_又愈_且日_好初_心不_示すと_云爾

直ある者か撰でしてを不^ふ但^たて價^{あひ}を^と取^とるもむづし然^{しか}る時^{とき}ハ砥^あ磨^ま法の^り
如^{ごと}く者^{もの}が十^{じゅう}條^{じょう}日^{にち}を^へ磨^ぐる佳^よ作^{さく}の妙^{めい}不^ふ知^ち頭^ずし實^{じつ}毛^{もう}を吹^ふか如^{ごと}く米^{こめ}就^す
す^し不^ふ直^{ちやく}なる者^{もの}に磨^ぐる或^{ある}ハ米^{こめ}價^{あひ}の如^{ごと}きハ大^{おほ}又^{また}又^{また}の利^り切^き失^しふの^り
とあらず砥^あ磨^ま法^りを思^{おも}ひ或^{ある}ハ大^{おほ}知^ち以^もて燠^{あつ}め利^り劍^{けん}を鈍^鈍りし^る磨^ぐを速^{すみ}く
し世人^{よじん}知^ちして殆^{たいてい}ど迷^{まよ}ハし或^{ある}ハ直^{ちやく}を貪^{あま}る故^{ゆゑ}不^ふ良^{りやう}器^きを得^えんとあらず必^{かならず}
其^{その}人^{ひと}を撰^{せん}で平^{へい}意^いを利^りし磨^ぐ者^{もの}も亦^{また}其^{その}法^りを述^{のたま}へば價^{あひ}を求^{もと}め敢^{あへ}て法^り則^{すべ}
不^ふ肯^{けん}うさざるあり本^{ほん}意^いあらずんか
又^{また}肉^{にく}のすり又^{また}上^{じやう}工^{こう}の磨^ぐ不^ふ得^えざるハ利^り切^き失^しひ至^{いた}る精^{せい}神^{しん}を隠^{かく}す板^{いた}
の如^{ごと}く不^ふ肉^{にく}の磨^ぐ道^{みち}たるを落^おれま^まくし損^{そん}多^たし又^{また}又^{また}肉^{にく}丸^{まる}きハ喰^く留^{りゅう}
る心^{こころ}者^{もの}切^き鈍^鈍し又^{また}肉^{にく}の西^{せい}きハ多^たくハ地^ち鉄^{てつ}を強^{つよ}く磨^ぐるし又^{また}鐵^{てつ}の方^{かた}
むりりして丸^{まる}く米^{こめ}たるりの如^{ごと}く切^きすか^か奴^{やつ}也^{なり}根^ね切^き者^{もの}不^ふ使^たるを^し

砥礪次序

折^お枕^{まくら} 京^{きやう}大^{だい}坂^{ばん}よりハ荒^あ砥^{てい}といハ深^{ふか}き磨^ぐハ打^{うち}下^げの草^{くさ}押^{おし}又^{また}ハ漆^{しやく}漆^{しやく}

如^{ごと}く磨^ぐる次第^{しだい}後^ご昔^{せき}より出^いるといハ

神^い子^{この}濱^{はま} 志^し志^し志^しの砥^{てい}目^めを磨^ぐす也^{なり}は磨^ぐ京^{きやう}師^しよりハ專^{せん}ら^ら用^{もち}ゆれど

江^え都^とよりハあ^あびあ^あといハあ^あの石^{いし}の物^{もの}あり

ウナカミ 京^{きやう}大^{だい}坂^{ばん}の又^{また}大^{だい}の濱^{はま}の代^{しろ}ハ用^{もち}ゆ^ゆ冥^{みやう}本^{ほん}より用^{もち}ゆ^ゆ枕^{まくら}

の砥^{てい}目^めを磨^ぐす也^{なり}

常^{じやう}見^{けん}寺^じ 神^い子^{この}の濱^{はま}よりハこの砥^{てい}目^めを磨^ぐす也^{なり}横^{よこ}手^て志^しの砥^{てい}目^めの磨^ぐすに^ち

なり越^こ前^{ぜん}の園^{えん}より出^いるといハ

名^な一^{いつ}倉^{くら} 二^に品^{しん}あり申^{まを}あ^あぐ^ぐハ備^び違^{ちが}ふ磨^ぐる者^{もの}の砥^{てい}目^めを磨^ぐす

細^こ名^な倉^{くら}ハ磨^ぐる者^{もの}の砥^{てい}目^めを磨^ぐす也^{なり}

研^{けん}といハ上^{じやう}品^{しん}の細^こ名^な倉^{くら}よりハ世^よより磨^ぐる者^{もの}の砥^{てい}目^めを磨^ぐす

浅^あ黄^{わう} 昔^{むかし}ハ上^{じやう}品^{しん}多^たくは^は地^ち磨^ぐる者^{もの}の砥^{てい}目^めを磨^ぐす

不ふ起故地又其又白礪を以て
枇杷砥 林礪ともいふ浅黄の地礪上糸ふき故不此砥を代小用ゆ
是上品ハハなし

内一曇 且又近世上品出せりるる三糸以來中糸出ると以て刃礪
小用ひぬ礪小從てハ地礪とも用ゆ因らり室ハ古風又
研の礪也

白一礪 浅黄枇杷田墨昔の上品得るはゆは礪を以て合を研
を田等す

上引 あせだうも早も白木の波を一つらく小磨く多る也每面
より望氣の石肌を摩磨し指先ふりけ望礪に用ゆ切先
のあるものも用ゆる也

對馬礪 對馬の海邊より出るは砥礪末又して故麻の油小合せて

磨 芳堅砥より絞里中油を以て拭を入る也
對馬礪のけりて拭をうき細礪の研針少く鉏と筆と研磨
あり打彩も油氣取て老磨き乾ゆるまで磨也

研法ハ古作新刀小すべし色以墨法教品者と鎌倉古法ふる可
らす近世鑄肌拭といふ事あり是ハ鋸の耐鑄石の邊へ散たる鉄皮
へ換鑄縁鑄を加へ焼細末よして油小合を對馬礪の代小を以て拭速
よ入る仕方也は又の本鉢を失ひ恐むる程の甚しき也從て今古法
の畧も書す

刃一躰の格好ハうさうみ常々を以て刃肉切先ハ克定ぬ相名念
を以て古法の如く漆を染めぬまで常々寺の礪目残りづる標小磨又白
肉曇よて名念の飛目強くする標又研地礪よ上糸の浅黄り又ハ
浅黄あうんむ上糸の標礪を指の先小付又の模標ハかしも懸るが

新抄辨疑

卷一

一六

水音書藏

新抄辨疑

云然るべしハ拭き入るる故也拭ハ多る程の上品製出来たる也
 奉書紙の切木跡ハ浸し指して又ハ拭き入るるやうに地艶ハ入る也
 拭速まつべしハ又の上様で思き故地艶別々念を入る也拭ハ
 為る入るを磨し磨上ると拭ハ濃くゆるると心得磨し又又の上ハ又艶
 を初め又白内墨を研しおろして研ハ拭の色移らざるをよし
 ます斯即方信のち也

劔工畧系

三条小鍛冶宗近嫡流埋忠明壽門葉系

○橘宗近

父ハ從四位下播磨守橘仲遠ト云宗近始ハ仲
宗ト云信濃大掾ニ任ス法貞院兼家公ニ任フ

吉家

大和掾ニ任ス上東
門院ニ任工奉ル

吉輔

右兵衛尉
奉仕上同

仲義

帶刀ヲ
預ル

義近

山城

義利

山城

大目利重

左京

重道

右衛門尉後道ヲ元ニ改
△入道忠實公ニ奉仕ス

重家

關白忠道
公ニ奉仕

家義

瀧口ヲ預
奉仕上同

近重

兵庫外
上ニ同シ

重遠

宮内
ト号

稻荷社抽
宮ヲ預ス

重仲

彦次郎後兵庫外ト
云富小路御所ニ任

重定

後宇多院衛
士右衛門

重昭

彦次郎六
波羅住

重光

宮内
六波

羅住
重正

伊織後彦次郎ト云足利
將軍義詮公ニ奉仕ス

重義

彦次郎義ヲ吉ニ改義満
公ノ命ニ從テ鐔多造ル

重宗

彦之進義持公
義教公ニ奉仕

ス刀劔多
ノ造ル

重近

彦次郎ト云義
教公ニ奉仕ス

重久

彦次郎ト云義政公
義尚公ニ任一奉ル

宗重

彦左衛門尉ト号ス義植
公義澄公ニ任一奉ル

重之

彦右衛門尉
義澄公ニ任

重隆

彦次郎ト云義晴公義輝
公義昭公及ヒ信長公ニ任

○重吉

宗近二十五世也明壽彦
次郎ト云足利義昭公及

豊臣秀吉公秀次公ニ奉仕ス堀川國廣肥前忠吉
大坂國貞國助等ノ師也 門人ノ系列ニ記ス

家隆

彦次郎ト云法橋明真ト改
△劔刀鐔ノ銘ハ重義ト云

重長

彦右衛門尉
宗之

彦左衛門尉
門尉

宗茂

七左衛門尉
鐔ノ上手也

重幸

儀左衛門
同鐔ヲ缺

重榮

信濃後頼母ト改
此亦鐔ヲ鍛フ

良久

梅忠權左衛門
今時ノ人

右系ハ安永六丁酉の癸六月良久自書テ以贈ス

明壽國廣國貞國助等系

○明壽 宗近九五世胤重吉也
即埋忠之祖也平安
西陳ニ住ス秀吉公四糸室町
ニテ居所ノ地ヲ給フ慶長以
來新刀之始也

忠吉 橋本新左衛門尉肥
前國住人也系列在

國廣 洛陽一糸堀川住信
濃守藤原國廣來ノ
未ニテ埋忠ノ門人トナル

國安 國廣カ弟ト云疑ラ
クハ國改ト同人歛

國改 國安ガ
初名欽 正弘
大隅守世ニ
國改カ子ト云

國貞 和泉守藤原國貞於大坂造之ト銘スルモ同人也國廣
カ弟子ニテ真改カ父也入道シテ道和ト号ス

國儔 越後守藤原國儔也子孫ナシ平安
城ノ住ニテ國廣カ門人ナリ

在吉 阿波守在吉國廣カ弟子
ナリ京都ニ住ス

埋忠吉信寛永中ノ作有又埋忠大和守吉信元禄中
ノ作有長壽ニテ同人ノ作ナルヤ大和守ハ二代目
ナルヤ未詳 埋忠彦兵衛 埋忠彦市 右三人ハ
明壽明真二代ノ次男三男又ハ門人ナルヤ未詳
梅忠傳三郎美平埋忠門人ニテ若年ノ比ハ埋忠同
居後洛北塔壇ニ住ス故アリテ師ト義絶ス又東山
菊水井邊ニ移居ス仍テ東山美平ト銘ス老後大江
慶隆ト切ル小早川隆景ノ遺流ト云梅忠良久曰美
平ハ明壽カ門人ニテ受領ノ故アリテ勘氣スト予
按ニ然ラサル乎明壽ハ寛永七年七十三也美平ハ
正徳中迄存生也然ハ明壽カ子法橋明真重義カ門
人ナルベシ重義ヲ家隆ト云ハ師ノ一字ヲ用シカ
小早川ノ隆ヲ用シカ可否知ベカラズ

真改 井上和泉守國貞
カ道号也

國貞 國右衛門ト云
子孫日州飯肥
ニ在

貞則 鈴木加賀守後奥州へ下ル佐右衛門ト
云子孫彼所ニ住スト云

真了 土肥真了後肥前平戸へ行子孫相續テ
肥前ニ在

國助 弟子也大坂之初代ナリ摂州住
助廣之師也

國路 右ニ同出羽大掾初代
藤原來ト銘スルハ出來物也

國幸 右ニ同摂州尼ヶ崎住藤原國幸

國武 右ニ同平安城住國武

國路 二代父ニハ劣レリ

國路 三代父同様

國助 小林河内守世ニ中河内ト称ス

國次 武藏守
國康 銘父ニ
同文字

國康 肥後守上作也
父ヨリツマレリ
後江戸ニ住ス

國輝 小林伊勢守若年ノ比隼之進ト
銘ス又國英ト切シコトアリ

治國 八幡北窓治國ト銘ヲ切摠兵衛ト云
貞則ト同ク真改カ地録ヲ鍛フ

國平 真改カ弟子後
日向へ行

國富 右ニ同日向國住人大坂ニ
於テ打シモノ多シ

國義 右ニ同下總守ニ任ス
伴之丞ト云

貞國 右ニ同弟子中ノ下工也
摂州住藤原貞國ト銘ス

貞信 右ニ同但馬守橋貞信ト銘ス
世ニ希ナリ

貞次 右ニ同伊賀守貞次ト切鈴木加賀
守貞則カ弟ニテ甚右衛門ト云

國義 和田彈正忠源國義
後ハ和泉守トモ切

國助 三代

國義 門人也摂州住源國義ト銘ス後ハ備
前守ト切鎗長カノ上作

○助廣 撰州住藤原助廣ト銘ス後ハ越前守ト云世ニソボロト云

助廣 甚之丞初ハ越前守助廣ト銘ス父ノ銘ニ殆ト似タリ見分ル所アリ寛文中ハ楷書迄寶二年ヨリ近衛流ニ銘ヲ切ル

助直 本近江國野洲郡高木邑人也孫大夫ト云仍テ江州高木ト銘人助廣之妹智トナル正宗貞宗ホカ傳ニ似タリ

助政 淡路國ノ住人ナリ鉦木大和守助政ト銘ス

○輝廣 肥後守藤原輝廣ハ藝州播磨守カ父也或曰本國尾張ニテ福嶋家ニ從フ後又上京シテ埋忠明壽カ弟子トナリシトキク其作國廣明壽等ニ似タリ或人ノ説是ナラン

肥前國忠吉等系譜

國重 右ニ同池田鬼神丸撰州住ト銘スル多シ後奥州ヘ下ル

國隆 右ニ同豊後國森住山上播磨守也久留嶋ノ上工也

助包 撰州住助包權兵衛ト云後上野守菅原助包ト銘ス和州郡山ノ本多家ノエタニ時ハ大和守國武トキル

助信 右ニ同出羽守助信ト銘ス矢根ノ上手

助重 出羽守矢根ノ上手也

廣政 弟子也若狹守源廣政ト銘ス源廣政トノミモ切シ

助宗 右ニ同撰州住助宗ト銘ス後備後福山ヘ行

助高 助宗カ弟ニテ助廣カ門人也亦後ニ福山ヘ下ル助宗ニ優ル助廣見物有

○道弘 橋本壹岐守ト云是忠吉家ノ祖也元龜天正ノ頃肥前國上佐賀長瀬ト云所ニ住ス今ハ昔長瀬ト云天正ノ末ヨリ佐賀城下今ノ長瀬町ニ住ス

忠吉 慶長元年上京埋忠明壽弟子ト成同年ヨリ新左衛門尉忠吉ト改寛永元年武藏大塚ニ住シ忠廣ト改是ヲ世ニ前ノ忠廣又武藏忠廣ト云寛永九年八月十五日死時ニ六十八歳

正廣 武藏大塚忠廣嫡女ヲ以弥七兵衛吉信ニ妻ス吉信カ嫡子佐傳次郎ハ忠廣カ外孫ナル故相續シテ忠吉ト云寛永二年ヨリ太守ノ命ニ從テ正廣ト改同十八年河内大塚ト受領ス寛文五年二月五日死時ニ歳五十

正廣 河内守 正永 備中 正廣 河内守

○行廣 弥七兵衛吉信カ二男九郎兵衛ト云寛永十六年ヨリ名乗ヲ切正保五年出羽大塚ニ任シ寛丈三年出羽守トナル天和三年五月廿七日死時ニ六十六歳

正次 右ニ同興左衛門ト云

廣次 右ニ同徳右衛門ト云

正秀 右ニ同傳右衛門尉ト云

忠廣 武藏大塚忠廣カ妾服ノ男也平作郎ト号ス寛永九年父武藏大塚死シ後名ヲ忠廣ト改此時十九歳是ヲ初代忠廣ト云肥前國近江大塚

行廣 出羽守 行廣 治部丞後出羽守

廣任 初代行廣次男忠吉 孫一文字廣任ト銘 廣任 肥前國廣任ト切

行永 初代行廣弟子忠右衛門 尉ト云肥前國行永ト銘 行永 銘父ニ同

行滿 初代行廣門人 忠太夫ト云

藤原忠廣ト切寛永十八年近江大椽ニ任
シ元禄三年忠廣正廣行廣ト同ク御長刀
ヲ作ル元禄六年五月廿七日死時八十歳

忠吉

平作郎嫡子也新三郎ト云萬治三年陸奥大
椽ニ任寛文二年陸奥守ニ轉ス貞享三年

正月二日死時二五
十歳勝タル上手也

忠吉

新三郎ト云元禄六年忠廣ト改同十三年近江大椽ニ任シ寶永七年
朝鮮信使ヘ下サル御太刀并ニ長刀ヲ忠吉正廣行廣三人ニ鍛ハ令

給フ式云右二代初
忠廣後忠吉ト改ト

忠吉

按ニ陸奥守ハ一生忠吉ト切シナルベシ其故イカントナレハ父近江大椽
元禄六年迄存命陸奥守ハ貞享三年父ニ先達テ死爰ヲ以考ヘ見ルベシ

忠廣

新左衛門ト云享保元年近江
大椽ニ任ス後ハ近江守ト切

忠吉

今ノ近江守也 此系明和中得タリ按スル
ニ今弥五郎ト切シハ此近江守カ子ナルベシ

忠吉

初代武藏大椽忠廣ト改暫ク土佐守ヲ忠
吉トス是世ニ土佐忠吉ト唱フ

忠吉

土佐守カ子ニテ
同國長崎ニ住ス

廣貞

相右衛門尉
國廣 六郎左衛門尉

兼廣

大和
兼廣 遠江守

吉住

越中
兼長 嘉兵衛尉

吉貞

初代忠吉別腹ノ兄
兵部左衛門尉

吉貞

内藏
吉貞 助

吉久

太郎兵衛尉

廣貞

相右衛門尉

忠清

新右衛門尉
忠清 下総大椽

忠宗

相模
忠宗 儀右衛門尉

忠政

織部丞

吉長

五左衛門尉
吉長 武左衛門尉

吉房

浅右衛門尉
吉房 七郎左衛門尉

忠政

源兵衛尉

吉廣

伊勢大椽

氏廣

越前大椽
吉左衛門尉

吉行

新兵衛尉

勝廣

六左衛門尉
廣國 正右衛門尉

吉清

千左衛門尉

廣重

左馬丞

吉信

初代忠吉聲跡七兵衛尉
正廣行廣力父也

宗長

肥前彫工埋忠明
壽弟也寛永頃

吉長

宗長カ子也トイフ
彫上手明曆萬治比

忠長

吉長カ弟子トイヘリ
寛文延寶元禄ノ頃

忠吉初代之銘

橋本新左衛門尉忠吉
肥前國住人忠吉作

肥前國忠吉

肥前國武藏大椽藤原忠廣

二代

肥前國住近江大椽藤原忠廣
忠吉ト切シコトナシ

三代

肥前國住陸奥守忠吉
忠廣ト切シコトナシ

按スルニ河内嫡子タル中ノ作ハ忠吉ト切リ又古佐ノ初銘ニ
忠吉ト切者本家ノ家督ノ後ハ極テ忠廣ト改ルト見ヘタリ
薩摩新刀畧系

氏房

丸田兵右衛門ト云先祖ヨリ關ノ傳ヲ継キ江都ヨリ竹屋某十九者行テ相州正宗
ノ傳ヲ説示シ書ヲ與エシヨリ其傳ヲ轉セシト也或云若狭守氏房濃州岐阜ヨリ

正房

丸田兵右衛門ト云薩州住藤原正房ト切又伊豆守藤原正房トモ銘ス後集ニハ惣
左衛門ト出タリ何レカ是ナルヤ此作薩州ノ冠タリ亦直モ貴トシ

正房

九田孝兵衛薩州住藤原正房ト銘
ス主水正清ト同時代ナリ

正房

九田惣左衛門ト云シハ恐ラクハ此正
房ガコトナラン薩州住藤原正房ト切

安行

伊豆守正房門人也橋口三郎兵衛ト云波平大和守安行ト銘ス大和鍛冶ノ傳ナリシ
ガ正房ガ門人ト為テ兩流好ニ隨ト也其國ニ於テハ直賤シカラズト也菱桓ヤスリ

安正

二男也橋口兵右衛門ト云先祖正國以來ノ大和傳
ヲ鍛ヒ相州傳用ヒズ波平安正ト四字銘菱桓鑑子

安廣

橋口清左衛門ト云安
正カ嫡子也波平安廣
ト銘ス安周カ弟子ニ
テ大和傳ヲ鍛フ

安明

次男也橋口伊兵衛ト云銘ハ波平安明ノ四字師傳安廣
ト同波平ハ薩州谷山郡谷山郷ノ地名ナリ

安國

四男也橋口三郎兵衛ト云安行ガ家督ト見ヘテ波平
大和守平安國ト銘ス強キ出来ニテ尤上手也

安常

橋口四郎兵衛銘ハ
波平安常

安周

橋口四郎左衛門
波平安周ト切

安充

橋口四郎左衛門銘ハ
波平安充

安氏

橋口甚之丞銘ハ
波平安氏

安代

門人也薩州喜入郡喜入ニ住ス玉置小市郎又一平ト云主馬首ニ任ス薩州住一平
安代ト切後ハ主馬首一平安代又ハ藤原朝臣ト銘スルモ有國人喜入ノ一平ト
ヨブト也尤上工也

安貞

安代ガ子也山城守一平安
貞ト切或安代ガ父也ト云

清方

伊勢守藤原清方ト銘ス目釘宛ノ上二十六葉
ノ菊ヲ切京伊賀守金道ガ弟子トナルト云今
年老ト聞

安有

薩州住一平安有

正清一家

正清

正房カ弟子也宮原清右衛門又ハ覺太夫ト改シト見ヘタリ初
ハ薩州住正清ト切後ニ主水正正清ト銘ス故正房ヲ移セリ

正良

伊地知平覺ト云正良ガ門人也
薩州住正良ト切當時ノ鍛冶元
平正良別テ上手也

清一

正清門人也奈々目木太藏ト云薩州清一
ト銘ス尤上工也一代ニシテ後ナシ

奥之氏族系

忠重

奥小左衛門ト云銘ハ奥和泉守忠重ト切若年ノ頃ハ秀興ト切後集ノ銘蓋ニハ主左
衛門ト見ヘタリ是非知ベカラズ薩州鹿兒嶋ノ城下ニ住ス國人呼テ奥トイフ

元貞

奥次郎兵衛銘ハ
薩州住元貞ト切

元平

奥小左衛門銘ハ
薩州住元平ト切

國平

奥惣兵衛ト云薩州住國平ト銘ス後集ニハ次郎左衛門トモ云忠重ガ甥ナリト出
タリイカバ有ヤ

正貞

奥小左衛門ト云ヨシ若忠重カ嫡子ニテ元貞カ兄ナラン乎銘ハ薩州住正貞ト切
忠重以下都テ奥一家ハ銘ヲ継シ刀モ継切ル也

國貞

深川某若ハ後集ニ出シ奥幸左衛門ト同人ナルヤ國平ノ子ナルヤ不審

元武

薩陽士元平カ弟也

新刀ノ列位定ル後正房カ作敷品ヲ視ル又薩州新刀ノ系圖ヲ得實ニ正房正清ニ勝タルヲ知ル伊豆守正房ハ薩州中新刀ノ冠タル者ナリ

○重鎌 隅州高隈郷東次郎左衛門ト云 重鏡 重近 重吉

○國富 日向國 國義 國次 末次

備前國長船横山氏畧系

崇神天皇六年己丑春二月初テ劔ヲ鑄テ奉ル同秋八月再 勅ニ依テ造ル 天氣ニ協ニヨリ位録ヲ給フ夫ヨリ代々宝劔ヲ作ル備前國湯掛郷板屋ニ居ル即今ノ長船是ナリ 仁德天皇御宇湯掛郷ニ崇神天皇ヲ勸請シ我業ノ祖神ト仰奉ル此年五穀大饒也所民大二統ヲ今猶松林ノ中ニ在リ古代ノ劔ニ銘ナク握テ後世柄ヲ用ル故中心ヲ摺作リ目貫穴ヲ穿ツ又諸國刀鍛治ヌクナリシ故我家ニハ中心ニ横山形ヲシルヌ是横山銘ノ縁也延徳ノ祐光ハ 一条院ノ御宇ノ友成二十三代ノ後胤也

○祐定 横山與三左衛門備前國住長船與三左衛門尉又備前國住横山與三左衛門尉トモ銘ス是則延徳ノ祐光カ嫡子ニテ祐定ノ初代永正中ノ鍛冶ナリ

祐定 長船源兵衛尉也 與三左衛門嫡子大永中

祐定 長船七郎右衛門ト銘ス 源兵衛嫡子也金吾中納言二百石ヲ給フ弘治中

祐定 長船藤四郎ト銘ス 實ハ源兵衛四男ヲ七郎右衛門養子トス天正比

祐定 横山重兵衛尉ト銘ス与三左工門次男

祐定 横山與三共衛尉後大坂住藤四郎ハ源兵衛カ四男ニテ七郎右工門養子トス今按城家督故有シ

祐定 長船七兵衛尉 藤四郎嫡子 寛永ヨリ萬治寛文中也延宝二年甲寅六月十日死時二十九八歳

祐定 長船權左衛門作州 一行農具鍛冶ト成

祐定 天正比阿州徳嶋池 田城主中村右近臣

祐定 横山五郎

祐定 長船惣左衛門寛文 中也次男六左工門 三男八左衛門皆作ナシ

祐定 長船源左衛 門寛永比嫡 子平左工門農具鍛冶 トナル次男孫四郎無 作三男房四男房六男 源七郎無作七男源右 工門農具鍛冶トナル 八男源藏無作

祐定 仁左衛門作州津山 仁テモ鍛フ元録中

祐定 五男横山源 之進享保七 年壬寅十月七日死時 二十七歳次男安次 郎他家ヲ継三男源左 衛門無作

祐定 横山七郎右衛門享 保比也

横山孫太夫 長刀アリ無銘 上野同位也常 念ト改ム

祐定 横山忠之進ト云大 和太孫養子トナル 弟横山辰右門無作

祐忠 七太夫 後岡山住喜入ト改

祐定 横山七郎右衛門享 保比也

祐信 七之進ト稱ス七兵衛五男 上野養子トナル七兵衛ト

祐定 横山七郎右衛門享 保比也

祐信 七之進ト稱ス七兵衛五男 上野養子トナル七兵衛ト

〔祐定〕 横山忠之進實八河内守源祐定が次男也延享二年乙丑二月二十七日死歳六十七也

改父上野老後ハ父が受領ヲ銘ス正徳六年丙申六月朔日大和探藤原祐定ト受領ス

〔祐定〕 横山後七兵衛宝曆二年二月太守繼政朝臣ノ命ニ仍テ壽光ト改銘ス明和八年辛卯四月廿一日死時二十五歳

〔壽守〕 横山定治實ハ忠之進次男也後七兵衛養子トス後七兵衛ト改ム

〔壽吉〕 備前國長船住横山宅之進壽吉ト銘ス明和六年己丑六月十三日死又時三十三歳

〔祐定〕 源八郎横山下銘ス寛保三年癸亥七月廿七日死時三十二歳

〔祐定〕 横山安次郎父死スル時僅十一歳仍テ後七兵衛門人ト為テ業ヲ務ム

備後國三原正近流

〔壽次〕 横山源八郎今時ノ治工也

○〔正家〕 播州姫路黒田助六

〔正家〕 黒田助六 〔信利〕 清左工門子黒田城守

〔正家〕 黒田仁 〔正家〕 黒田源右

〔正家〕 二代目黒田源左工門 〔正實〕 黒田源右 〔正實〕 黒田源右

〔實宗〕 黒田太郎 〔兼重〕 黒田源三郎

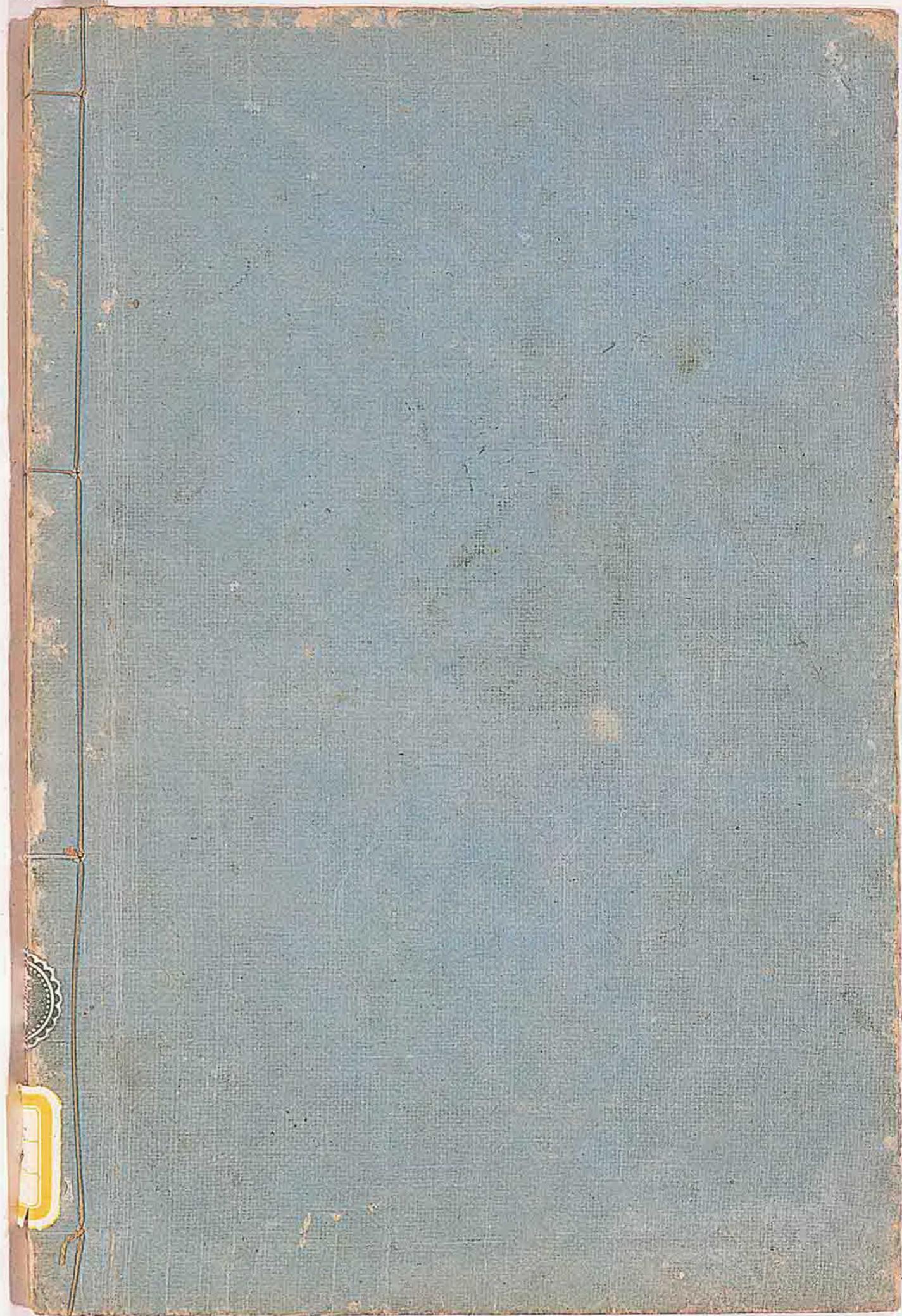
〔實宗〕 黒田久兵衛 〔正實〕 黒田源右 〔正實〕 黒田源藏

〔鷹謀〕 黒田左兵衛今ノ鍛冶也摂州大坂鎗屋町ニ住地鉄細ニ荒鈍小鈍有白深シ上工ナリ

〔實宗〕 黒田久兵衛 〔實宗〕 黒田久兵衛

新刀辨疑卷之一終

魚妙按 一書二ハ 藤三郎 次郎三 即源三 即九郎 左衛門 下見ハ 夕レ氏系 圖ノ外 也未ダ 詳ナラズ



唐長
以來
新刀辨疑

二

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5





6203

新刀辨疑卷之二

上く作列



助廣

根州大坂の任人津田越前守延寶二年より近衛流小銘を切を親助廣も越前守と切ゆゆの銘ハハ又中ノ者白小秀たる作也

真改

攝州大坂の任人井上和泉守國貞ハ道号也同銘之代あり其及ハ二代目寛文延寶天和申の人也銘ハ類ハ類ハ如名人也

國廣

山城國洛陽一条堀川の任信濃守藤原國廣二字銘或ハ藤原國廣と四字も切芝長年の作多し形物ハ明壽ハ似たり

忠吉

枡本氏道弘ハ子肥前國忠吉也慶長元永上系して埋忠の壽ハ人々ある寛永元武藏大塚と云ふ忠廣と改物左衛門と稱す

明壽

山城國西陳任埋忠の祖祖子忠吉ハ師也重吉と切一も者久孫芝長元和寛永中の人也宗吉も切一と切

助直

本國近江國高木の人也津田越前守ハ人ト云後妹智とあり津田近江守助直と切初ハ近江國任也或ハ近江守と云後妹智とあり切

一竿子

招津國大坂の住人栗田口二代近江守忠綱の道号也を親も後ハ近江守と切取不又亦あり萬大夫と云彫物の名人世不知る所也薩摩國住人宮原江島守と稱す初ハ薩州佐伯藩と切取ハ水正正清と切一葉の葵と切ハ堂島守藩ハ堂太夫と稱し

正清

薩州谷山波平の末主馬首安代初ハ玉置小布郎或ハ平と号一葉葵を目行宮の上切取を平安代と云大の平也本國駿河後江戸少佐す銘前編ハ委し西に稱ふる物也は作多し依物多し銃炮の銘ハ清覺と切銘多く自派し弱きが如し

安代

武藏國江戸の住江州書名松村の生あり後一移ハ江戸一移銘松と書寛文近寛平の人自派と稱す物也備中國お田のと代大月與平又大と本國重とも切寛平の人正宗義弘も弱し程の出来も書那つまハ物と書とす

帛徹

山陰國西條の住堀憲重義ハ明弄子也そ又寛永の比の人切物の名人あり作那おせふおふと書り也揚州大坂の住人少林伊勢守初集進と切も初代孫本國助ハ四男少と申河内と末男也

重義

國輝

吉道 吉道 吉道 照包 重國 包保 興正

京師丹波守の初代ありは作多刀ハ多し平作多し至て上手也茶子丹の人也地氣強く銘自派し強きたる物多し

揚州大坂の住人世不祖父丹波と号す初代丹波守吉道ハ見也初代の大和守と号仰も有公廉又の在連人也

揚州大坂の住人初代の大和守也銘の形ち小さく庵派し丁子龍又の名人あり一書云云京守書那つと稱す

揚州大坂の住人二代目河内守也世不中河内と云丁子龍又逆是或ハ重花古龍文ハの物也書同銘數人又定る亦有

揚州大坂の住人越後守の二代目坂倉と進と云丁子龍又逆是海大龍文數る大いづれの名人と云

紀伊國の住人初代ハ於南紀重國造之と切本國ハ薩州中世人跡何多珠と云直又小出来物多し龍又又ハ来の如し

初代包保子揚州大坂の住人也陸奥守包保と云子大銘不切世又と知左陸奥守と云銘つまハ

初代住吉守初代住吉守と云子或ハ子ありと云中心銘形扉後ハ似てたうと云とく賤し

國安

後陽一系堀川の佐人國廣の弟ありと云至銘中心又定多ふあり
國及とも切しと云

國傳

山城國堀川佐藤系國傳と切二子銘もあり若し國廣の門人
ありん又平家城佐國傳と切多し又山城守代切しと云

國改

一条堀川の佐人國廣の弟ありと云大隅守佐藤系西弘の父也至て上
子守至國改は其の作りも多しと云

正弘

一条堀川佐藤系西弘四字銘多し大隅守佐藤系西弘と切る國改
の子國廣の弟ありといふ大隅守也切

美平

山城國福園河原系美平の弟ありと云少佐す故小銘も東山佐美平と切或
ハ平家城佐大内美平或ハ大内の弟隆とも切る傳之即と云

上作列

吉道

振州の佐人二代目大和守銘大字也二代目佐藤と云作も有至
至て是より也之系の良三國傳佐藤の事と云

包保

和州佐人久珠陸奥大掾とも陸奥守代切二子守銘或ハ和州佐包
保ともたふありと云

貞則

井上貞改の弟子鈴木加賀守也依る書つと云鈴木と切寛文延寶
天和等の事号あり如書多す岩城とて打しと云水と云見ゆ

治國

井上忠政の門人の幡小憲治國と切時代書亦同し鎌大其目より
見ゆ也忠政を能うつと云

秀興

薩州の佐人也興和系忠重と同人よりと云秀興ハ其の弟あり
鎌ありと云平たう和より見ゆ也

真了

井上忠政の門人子忠生と云切肥前平戸松浦家の治也数代有
と云つたり實み出する初代あり

吉道

京丹波の二代目此作ハ十六の葉を切を少ありあり麓
の上守銘大字切

國路

京國廣の弟子出羽大掾系京國路と銘す数代あり初代ハ上手
あり二代三代ハ大内守よりて京國廣の弟子と云大内守も佐藤

國助

振州忠政の代河内守也重系丁子龜文の上守丁子龜文ハ其の作
よりハ大内守ハ其の如きハ其の如きと云

久道

京近江守源久道親ハ菊一輪切切ハ之道ハ二代目あり其の葉を切
海軍と云ハ其の事あり父子其の事あり

國光

本國領中のふりよて播州と備前及び江都並ふ又佐治の天満水田
或ハ江戸水田と云細瀬より天満領と切し不出年物多し

正則

薩州佐正則ハ正清よりハ古く又ゆふ物也薩摩打の中よりハ
細くあり著し正房ハ正則の弟也

國平

薩州佐國平奥惣と云地鉄細くありてあり振る也此作國人
の當夏多しして江府少を掃あり

國貞

薩州佐國貞ハ奥幸左衛門と云國平とは為人ハ忠言ハつくと
又つたり作る也同し忠言ハ能ハた也

正房

薩州の佐正房老田伊豆吉又惣左衛門其ハつお著鏡あり地鉄細也
此作正清の上より著し死物あり薩州打も著し

國平

井上貞政ハ弟子ニ云國平作と切る多し此作中心の佐正也
よてやまを大掃也川崎作と云和泉守國義ハ父也

吉道

古坂二代目吉道也薩大筋通業ハ切らず業又業ハ切しと也
おふもあつとせし

祐國

紀伊國の人よて古坂佐佐守花房佐佐守源祐國と切古坂又お
當夏す古坂又古坂又古坂又古坂也

久道

京師五穀治の一人近江守源久道と切つ稱業切を二代目よ
業一稱を付る回銘とつとも称あり二代目前ふえつたり

忠綱

播磨國姫路の生業田口國綱の末業の信を交代し業田口綱以て稱号
とす前近江大掾よりと云はると忠綱井氏也

忠吉

肥前國佐陸奥吉藤原忠吉ハ二代目也万治三年陸奥大掾寛文二年
陸奥吉と称を新と云と云はると忠吉ハ忠綱と改めす

直道

振州大坂の佐人初代丹波吉つり人也丹波吉藤原直道と切寛文延
寶の年号業一と云を切後ハ兼道と切る之京吉と云と稱す

正俊

平家陸佐正俊ハ初代越中守藤原正俊也同銘初代者藤原と切業
長の年号あるを當夏す

信吉

大坂の佐人ヨ井誠吉源來信吉延寶と和貞享の比也京師五穀治
の信吉ハ弟也村の介手利よてと云出来つりあり

包保

振州大坂人也後信別初平つ稱す此奉の比ハ左字ハ陸奥守包重
とも打又右銘ハ包保也切是吾陸奥吉あり右方丈と云

忠廣

肥前國佐近江大掾藤原忠廣ハ武元大掾子よて二代目也此年
の比ハ忠吉とも切平作郎と云寛永十八年よりと云はると忠吉

忠綱

播磨大坂の住つ字子子子として二代目近江守忠綱之孫と云
大龜文の上赤也

金道

山州の住京五郎治の一人初代伊賀守金道八寛永中の人あり
同格代あり初代ハ古作の如くとして上赤也

正近

薩摩の正清の一人之孫作と云ふは作も亦るなりとす
録多き物あり

國重

根州の中河内ウ門茅池田鬼神丸國重根州住國重と切る多し
戸もも住し又奥州岩井及ひ羽州秋田少住守薩州も下りしと

國康

大坂中河内ウ茅伊勢守國輝と云也肥後守國康同格二代有初代
ハ録アリ

忠行

大坂初代忠綱の孫子播磨住藤原忠行と切同格代人有互の各
人あり六字録をよとす

國包

美濃國分多林住山崎大藤藤原國包也聖徳天皇自孫く松目の
至て尺事あり

清信

播磨大坂の住正田ウ多守清信と切以作互成七と云ハワと云
有丁子龜文ハ忠綱の初代ハ似て有六和守吉道ハ似て有者ハ非也

右作

播州住鈴木五郎右作の初宗宗本平良とも又右作とも切住居一
ハ小あし住ありとも打

長旨

武州の住小笠原昌長旨或ハ長宗其切聖徳松目孫多し細直
又の名人あり小笠原藤九郎と云池端又住二代目ハ住多しと云

綱宗

仙臺綱宗侯海賊の作也録多し有佐村ありし安備の作と同一
ハ録アリ

正廣

肥前國河内大藤藤原正廣二代目忠吉是也寛永十八年河内大藤
正廣と切代ハ正廣と云と録す仍て河内守と云

行廣

飛前の國出羽の大藤寛永十六年より名系切切寛文三年出羽守
小任す孫七も吉代ウ二守として正廣の弟也初ハ康廣と切しと云

重次

少藤國頼の住人として其長年中の事也二守録多し世人も其録
多しと云と考ふす其録多しと云谷部如し

國重

備中國荏原住國重大日與五郎ウ祖父として其田の事也末一の
水田よりハ守常の出生多しと云ふあり

國重

備中國多田住國重二代目三郎多田と稱す同格初代は作ハ同
し

忠國

肥前國位攝磨大極忠國ハ武藏大極忠廣ノ末子廣久ノ子也同銘
數代あり初代上弟也

國次

薩州唐見府位孫系國次は作あり孫小みえ多く自派し國平の作
又似たり

國重

備中國の國重ハ四代目より興平の孫子大月積之國と云ふ
と云ふ事あり

忠廣

肥前國近江大極忠廣四代の忠吉也元禄六年より忠智と云ふ此
作父陸奥守よりハ忠吉も孫小みえ物あり

國虎

東奥磐城位人根本和氣守孫系國虎ハ井上生政の門人あり云
二代も有り

宗重

播磨大板位人宗重也播磨大板位或ハ若州少後より任せし
と云ふ事あり

國貞

播磨大板元祖和氣守孫系國貞ハ元和寛永正保其末の事の上也
井上生政の父より孫川國廣の弟子と云ふ事あり

助廣

大板位人津田越前守の父也播磨大板位孫系助廣と云ふ事あり
切お子の作又云ふ事あり

輝廣

尾州の生より後藝州に任す肥後守孫系輝廣作と云ふ事あり
廣の父より福治正則の治上と云ふ事あり

包貞

播磨大板後ち包貞初代の孫ハ播磨大板位孫系包貞或ハ孫後ち包貞
と切お子より進守の孫ハ云ふ事あり

安定

薩州位安定は作ハ寛久近實より古く見ゆる物也又孫一而
より云ふ事あり

為康

播磨大板位富田陸奥守播磨為康或ハ富田為康於大板位造之と云
ふ事あり

歳長

京師の生より勢州津位人陸奥守孫系歳長と云ふ事あり
弟あり

弘幸

平安城位藤原弘幸と云ふ事あり洛陽洛川に任す凡其長元和寛永の比云
ふ事あり

上之中作列

包宗

播磨大板位上野守管系包宗ハ地味至て割く孫自者て佩刀と云ふ
事あり

加卜

大村加卜銘りりく小切有偏小妻しを未焼ある多し又其地地の内一面小やきし者

重包

筑前國行國一赤原田西尾の耐重包は作小丸文中丸文並五何事も小録自記して深く火加減能ほり者上多やつ不焚つるを切ると未だんす

紀克

河州横小路哉ハ和州郡山小住す大坂城中と包國う子尚井越中守輝邦の道は作ハ大丸文並五湾敷く者並又湾ハ小録有て了り也

助宗

播磨住由宗ハ作田西尾の弟也信州信田小切分ふ別ノ地以作おし津田の作の道有て大丸文あるとのよし

吉信

山城國住由吉信と切は作由壽つづ人未だ焼似りり並又隣籠小しと定りしなり

長幸

播州の住人也於播磨國長幸作之或ハ多し羅氏と切しも有は作兼鏡よしと信有丸文の名人也権の附ハよしとく代

重國

紀伊國の住也於播磨紀伊保重國作之と切二代目金助と云は作友ら直又ある録有又す地録細よしと信有

金道

東伊賀守系急道よし日本秘伝物語道切兼大丸文あり二代目とすは作地録よしと定りしと大丸文あり並又ハ父ハ大丸文あり

方清

長州の住人也玉井州部左衛門尉二王方清と切を常又す寛文中の工あり地録細よしと小録自深く大標よしと花や歩物也

廣政

播磨住人長狭と源廣政ハ津田西尾のつ人も源廣政と切り多しは作津田の住有てよしと録のありハ宮よしとす

康廣

紀州播磨守又住由守も播磨廣政ハ紀伊國康廣と切弟を分るは多田彼中守土代有也と録す為康の父よしと大坂石堂の代也又系師よしと信す

兼若

加州住系兼若と切は作地録細よしと一面小肌者砂流ある地系取れて了り多しと云登りし又ふ出多あり

信高

尾張國の住人也伯耆守系信高希信始山月と道は切は作地系細よしと直又湾大丸文並五又のよしと宣ハ大丸文ハ細よし

信高

二代伯耆守系信高也は作父小同く地録ハありやまきもハ是なりよしと云よりハ是なり也

安定

武州江戸住人大和守安定と切は作地せんりとして録自深し湾直又丸文ありと有富田と稱する堂の一家あり

安倫

奥州仙臺住安倫と切は作安空小同し綱宗公の住ありハは安倫の作ありと云上り也

光平

是一

勝國

安國

包國

助高

兼道

輝廣

江戸住日並光平又ハ出羽守法橋源光平昔稱多ク少切は作多分
 之平杉又して關孫六の作の上型本物の如し然し龜文更大らぬ
 江戸住武蔵大振孫宗一又た近是一切光平の作又同一大龜
 文より稱多ク又子如かて早昔の龜文を名堂とてこれと云
 加州住地孫及孫國又任孫孫も切は作石堂龜文彦安のつら
 有地録孫の上手也孫宗の末子てお幣と云昔本より今小七代お孫
 薩州の住人也波平安國と打鐘菱垣也地録さんごまこして其孫
 自ひ者上げし記出来多し

振お住自傳其打鐵申吉自國立切其波ちりつ人もは作丁子龜文
 大龜文彦安又子有自保く上手也山内久吉のつらと云
 津田助高の弟子孫お住助多と切は作の後後福山つらして作ハ
 師の風骨を出来傳し上手也中心ハ師孫孫也
 子後吉の二代目也菊つをハ切らず及は戸つ下は作父少似下り
 去おぐり兼道ハ亦し大龜文多し助高の龜文不似下り
 薩州住人松慶也孫宗輝廣と切其振及も子なるつ地子細又孫
 自り上手也火加減さる方と云つた也

弘包

元道

則廣

歳長

康永

兼光

國康

貞次

振お住人ハ左衛門と云信濃守弘包和物を振包永十代孫と切
 を賞多す二代目ハ江戸でもりしと云仲重又の上手也
 山城國住孫元道と切丁子龜文の上手也は作地録とてつらり大
 坂初代忠經の丁子龜文少能似下り傳及も本もの多し
 振則住丹羽相模也孫則廣と切記おるも信をりは外地録細不孫
 自保し亦多しつらも有

平あ味山城守孫宗兼長河あまて二村左近廣次也打也は作地
 録細ふしつら龜文又打子ありし
 振おの住人やつた書つと稱す河内守孫康永と切初代康廣の弟
 子也孝の師也は作地録細不孫自保し大龜文少打つと云
 三品但馬守兼光二代目子後吉也道つら人も源兼近門平とも切
 は作地録細不大龜文多し子後吉もハ亦れ也
 振後吉の二代目也又まのつらびつらあもまも父の作よく
 似下り丁子龜文ハあつたり
 振則住貞次或ハ伊賀守貞次と切也井上吉及も弟子もて切也
 貞則の弟也

輝政

摺州及び孫州相山に任ず陸奥守攝輝政と切伊孫が國輝の子也故に孫ハ和永大孫國輝也打里二代目ハおより教代有

兼先

因州の任人也初代因州任藤原兼光と切中江孫也忠政のよみ地鉄細かして小孫自り陸奥守と成りし也

吉行

摺州任後土州一り向す陸奥守吉行と切そのも大孫初代大和守吉道守子と吉行と見也作吉道と見し

吉國

肥前任源信國重包地鉄細小自守くよあり原田守左衛門と見別人より古く見ゆ

重包

肥前國任伊勢大孫孫系吉廣と切也其母とよしと見孫文ハ賤しき中身也

吉廣

肥前國任大和孫孫系兼廣と切其母も右小日し二代目ハ吉道と見其母ハおより吉道と見し

兼廣

和州自承永孫河内守包定江戸の任と見孫あり地鉄細小守く吉あり孫孫小孫と見し

包定

山城國任人後因州一り向す信濃大孫孫系忠國と切其母地鉄細又因孫文の如く又ハ一子孫文も子孫初代と見し

忠國

肥前國源吉貞ハ竹園一系也小孫自小孫文と見し上手也信國一孫ハ上手と見し

吉貞

肥前任信國源吉包は作右と見し重包は作小似て小孫文のよみと見し

吉包

肥前國源信國重宗は作右と見し別ては作ハ陸奥守と見し

重宗

摺州と見し任國重ハおより大月守大孫子孫と見しと見しは作右と見し

國重

肥前國源常光ハ江戸の任人石堂の一人也其母地鉄細と見し自孫と見し

常光

倭中國ハ田大月守常光ハ左衛門と見し大と見しと見し後土孫大孫と見し

國重

肥前國源常光ハ江戸の任人石堂の一人也其母地鉄細と見し自孫と見し

自行

肥前國源常光ハ江戸の任人石堂の一人也其母地鉄細と見し自孫と見し

祐春

招洋任源祐春ハ花房祐國ノ甥也地録ありと云々と信國ハ似たり
中亮文のつれ又多し小宮美濃源祐春切久左衛門と稱す

一峯

江州住人傳々木入道源一峯地録ざんぐりとして強く其流傳者
云峯げしと云ふ多し後ハ江戸赤坂に住す

一峯

吾一峯の子也言四郎と云江戸赤坂に住す其父の作也
やと物也

國正

伊豫國宇和嶺住人後河守國正初代上手也又よして小録
出米物多し數代又河原比多守と付ふるも連綿す

延房

丹波守藤原延房地録細又細い等とあり小録者上手也尾
物傳傳の住人として手正す其長子ありて

正勝

大隅守藤原正勝其不知ず塘川の正弘とていありて
大正又の能生ありて其子取物あり

康繼

越前康繼於武州江戸以重聖職作之と切藝抄打取藝下坂と号す
地録細又小録者として自保し物す切也

國正

江戸住法城寺住人但も藤國正と切此作地録と云と勇力も小録
其流傳自ありて上も地録生ありて其流傳者數代連綿す

國光

江戸住法城寺掃國光と切此作右の國正も亦と云と上手也
其流傳あり物也

正弘

江戸住法城寺正弘と切此作も右小日し流傳り自保し中
又小出米りの多し

吉正

武州住上野女吉正と切此住直又強く出米て地録り
其の也

國清

越前の人也山崎守藤原國清と切兼も務兼と切此作ハ地録
てつまつて細又其流傳と云流傳又ハあり

金道

京和名守藤原金道の二代目榮泉の子也此作父より地録ハ
と云ゆれ其大流傳ハハ花や、米と出米者

正俊

京越中守正俊の二代目ハ兼と藤原あり此作ハ地録つ
深く中亮又よして強き出米多し

兼増

大坂住人播磨守兼増と切此作地録ありて
てとげし物多し

包道

大坂住人伊賀守源包道一書又中川包康の
包信自則越前守包貞ホウ師也自昌と云と号也包昌後包道二代歟

重虎

摺物住源重虎と切は作地と申す又つて小糸尾録ある烈一
起物也此田宅を周耐と云

秀辰

山城守秀辰大坂住人抱後古切色江重子とて元禄比也
二代目ハ江廣と申す一と末持弓町住す父よりおれり

宗重

大坂常陸守宗重の二代目嘉重共打江戸も住すは作父の作小
似り地録のうらあひハおとれり

正道

大坂住人播磨守孫系正道と切は作地録細よりて小録自あは
白保の生息又似り

國幸

摺物住源重國幸ハ堀川國廣の弟子古川小地録細よりて小録
自ひ有り伊藤の初代國幸と似り摺物住録又末も住元系重水比

在吉

平安城住阿波守孫系在吉國廣の弟子也は作系物の申すてハ
出末の物也

則定

平安城住則定と切は作地録細よりて又つて小録自有て
曾て申す又古又多し

助宗

信州住助宗は住地録細よりて小録自有て常孫系又古
又も住曾て古作と名ゆり物也小糸尾仁左衛門と似

則房

藝州住源則房作と切地録細よりて小録自有て住あり紀
安初代の重國と似り

菊平

加阿住源菊平ハ地録細よりて録自有て上手也似立りもある
りの也

安吉

筑前源安吉作地録細より録自ひ深く龜文又多しおまも古住の如
き物也

吉次

信國源吉次は作古又同じ小龜文常孫系ある出末有又細古又も
あり七郎と申す

國綱

阿州住源國綱は作地録細より録小録自有て中龜文多し

國吉

武州住源城守國吉は作地録細より録自深く有る
廣重又出末物曾て色江重と申す神田住天和子元禄比

助重

出羽守助重是根の上手也中河内より人志丁子龜文小録し
よて龜文の御きりの也

助信

出羽守源助信是根の上手中河内より弟子也は作右同位也小糸丁
子より多し小林ハ左衛門と申す近衛比

國助

大坂四代目河内守也六つ子と國助長子と本は伴地鉄ハ終つて其世強かゞ自も其祖よりおこりし

金道

京都に居城後守孫系本金道と切地鉄だんくろりと統自方て中島文忠より或云慶長のはりまをたの堀川住と同人くも志づら

長吉

平安城住長吉と切地鉄能つち多て出又多し自深くよ手也一書云夷川に住るを南尉と稱取物と終す

國義

三井田より長吉孫系國義ハ京行徳吉行吉より大坂高井徳吉行吉より京江州彦根より小坂より住す其統あり其若と凡

義國

三條堀川住豊後守義國と切地鉄細ふ打也其き龜文多し少終自あり

信吉

行徳吉孫系信吉ハ三井田國義住吉若く父也高井信吉ハ源行吉より其出本物多しよ手也

則國

平安城住則國は伴のより後集小妻し其伴を足す終水たるよ手とりの細心て整くよ手也

金道

三條堀川住金道と切地鉄細ふ打也其き龜文多し少終自あり其手の伴也其扱ふ所日代伊州を傳て三條堀川と切地鉄後小住す其

國路

出羽大掾國路二代目本の子ふしは住地鉄細又終自若て大龜文多し

廣賀

伯州道祖屋與く通慶賀と切地鉄細く白く自若備有龜文と其出本多し

廣吉

伴州住及祖屋孫十郎廣吉は伴若小同し小龜文少しと自深く見事本物有伯耆國住と斗も切し也

廣賀

伯耆國倉吉住見田之郎を廣賀は伴若小同備有龜文と其自深し備有よ手也地鉄赤くけ又ゆも也

廣賀

伴州倉吉住又田五郎左馬の廣賀は伴若小同し志の如きしと備有龜文多しと其若とも切

廣賀

伯耆國倉吉住廣賀は伴若小同し志の如きしと備有龜文と其自深し備有よ手也地鉄赤くけ又ゆも也

廣賀

伯耆國住廣賀は伴若小同し志の如きしと備有龜文と其自深し備有よ手也地鉄赤くけ又ゆも也

兼重

上総守孫原三郎兼重は伴若小同し志の如きしと備有龜文と其自深し備有よ手也地鉄赤くけ又ゆも也

氏房

氏房

盛道

盛道

正全

廣重

義助

家包

尾州住人飛澤守孫系氏房此作地鉄志すて強くいりく刀粗
いす大氣文多し

若狹守氏房尾州濃州志すて強く此作地鉄堅くつまに自保く
関いづれの大いなる物多し尾州濃州此

お先も若原志道是又尾州住人也此作地鉄ハ壽命のつ家も似
て直又の力強きとすし氣文又ハ勝しき物多し

尾州住人若原河守入道志道是尾州住人も強く室屋兼者て又中子並
道波卓つ来る元日強河守ハ天正此之末より武元強河守長河守系兼代者

豊後守源正全美濃國住人此作地鉄の甲乙何れ能く出来し直
又強して古國の如き物有尾州濃州此作地鉄

因幡守廣重ハ志すて尾州濃州此作地鉄切武別下系強河守此作地鉄
強又中又強しして自保くを何れとす強河守の者

駿州此河住源義助此作地鉄いすて尾州濃州此作地鉄又つ面少て長谷部
のこも此物有尾州濃州此作地鉄

尾河國住家包地鉄細小強自保く直又の上手なり氣文も似
いす大氣文多し

助宗

助宗

卜傳

廣助

國照

東連

守久

吉武

豊後探孫系助宗ハ尾州住人也此作地鉄堅く細く強く自保く
直又ハ又中又強し物あり

播磨大探孫系助宗若原此作地鉄濃小しと自保く直又の上手なり
四の真行々めきりの上上手也

常州水戸住坂本直鎮正刀道卜傳ハ尾州濃州武元志道吉武の後の
強也吉つと打し時出物多し強又の強也ハるつと強也

尾河守若原住廣助志道尾河也此作地鉄細小しと自保く直又ハ
直又ハ

尾州大探孫國照ハ尾州住人也此作地鉄細小しと自保く直又ハ
多く自保く直又の上上手なり

武州住石堂系東連此作地鉄強く細く是一つは自保く
物能く直又ハ是れ代の守久もつと強し寛永此也

武州住石堂系守久此作地鉄強く細く自保く直又ハ是れ代の守久も
又直又ハ是れ代の守久もつと強し寛永此也

出雲大探孫系吉武ハ尾州住人也川手出雲守也切地鉄細く
細く自保く直又ハ是れ代の守久もつと強し寛永此也

吉正

上野女吉正武州住と申すも切關善兵衛吉正の末孫源左衛門尉と
云ふ才女ありし物あり

廣國

武州住廣國ハ務久りて武州守と云ふなりといふ者も在りし
實録多しと云ふ廣國ハ多しと云ふ廣國といふ人未だ見し

安國

武州守安國ハ住吉村加トツ子と云ふと云ふ見あらずし
名才又又ハ本村多しと云ふ見あらずし實録多しあり

守正

和泉守守正ハ子守正といハ別人と見たり地録細かくハ小
録自深く奉りたるなり

安永

武州國樺山の人ありハ名多しと云ふ地録細かくハ永と譯せし
如く武州守永と云ふ小録あり

照門

丹波守照門ハ武州國樺山也實録多しと云ふ地録多しと云ふ
勢州常名と云ふ小録ハ丹波守と云ふ

吉門

越前守吉門吉門若小同し武州守ハ後 水戸公と云ふてト傳と
及む所外と云ふ照門ハ小録あり

兼信

陸奥守藤原兼信ハ美濃の人也此ハ外地録多しと云ふ小録自深
く實の妙刀の中と云ふ小録ありと云ふ兼信ハ小録あり

政常

相模守奈良方郎兼常が末武州守國常と云ふ國常住く進子子お
接ち政常と云ふと云ふは同録ハ代有少刀の事也

政常

美濃守藤原政常右刀通子也是又少刀の上子也刀通差と云
つハ父が作らし書と云ふし中直又多しと云ふ代目也

清宣

近江守藤原清宣ハ住吉村と云ふ強く御して廣く又治を力て荒
録小と云ふ自深くと云ふ也

清宣

備前守藤原清宣者と云ふ子と云ふと云ふ出本お似たり能出あり
直又小ハ陸奥守と云ふ小録ありと云ふの事

兼定

奥州住兼定ハ志津二郎兼氏十代信濃守と云ふ孫藤原と云ふ
二代古川と云ふハ志津の以也和泉守ハ志津と云ふ子と云ふ代遠孫す

長道

陸奥大掾三善長道ハ奥州守信濃の治子也地録の志多しと云ふ
て小録自深く申直又又ハ小録又多しと云ふ大加減と云ふ事也

道長

陸奥守信濃道長ハ住吉の住も者の長道同位と云ふて地録細かく
と云ふ事也

政長

奥州守信濃政長者松島守と云ふもハ住吉と云ふは住吉と云ふは
又又多しと云ふ人の作お似たり物也

國重

國重

國重

國重

國重

國重

國重

國重

備中國水田任國重ハ其のたき子もてとすしは作も
小同し物打のそは録ふく録えす切先中て録あつたはとす
備中國くも任國重ハ倍名市と備とをたき子也は作も
同し録の録えすし録あつたはとす

備中國水田任國重ハ治者あつと録す市と備とをたき子也は作地録あ
しと録あつたはとす

備中國くも任國重ハたき子と録す市と備とをたき子也は作地録あ
しと録あつたはとす

二代目越前大掾國重ハ平九郎と云はれ父のあき肌物も青又地
録あつたはとす

備中國水田任國重ハ治者あつと録す市と備とをたき子也は作地録あ
しと録あつたはとす

備中國水田任國重ハ治者あつと録す市と備とをたき子也は作地録あ
しと録あつたはとす

備中國水田任國重ハ治者あつと録す市と備とをたき子也は作地録あ
しと録あつたはとす

國綱

國次

廣隆

守次

吉種

吉政

吉寛

吉國

備中國水田任國綱ハ備國と云ふは治者あつと録す市と備とをたき子也は作地録あ
しと録あつたはとす

備後國福山任國次ハ治者あつと録す市と備とをたき子也は作地録あ
しと録あつたはとす

備前國福山任國次ハ治者あつと録す市と備とをたき子也は作地録あ
しと録あつたはとす

備前國福山任國次ハ治者あつと録す市と備とをたき子也は作地録あ
しと録あつたはとす

備前國福山任國次ハ治者あつと録す市と備とをたき子也は作地録あ
しと録あつたはとす

備前國福山任國次ハ治者あつと録す市と備とをたき子也は作地録あ
しと録あつたはとす

備前國福山任國次ハ治者あつと録す市と備とをたき子也は作地録あ
しと録あつたはとす

備前國福山任國次ハ治者あつと録す市と備とをたき子也は作地録あ
しと録あつたはとす

吉貞

由良守吉貞此作後集の説御用ひて整く多小列す未だ此作を元
す恨む登し

茶平

肥前國任人茶平此任地鉄細又小籠茶平是才て自深し此物ハ
代々ホ一筆ノ作の如くある也

行平

紀新志末河内吉源行平此作本高田の一作也此作
其末行平は後集に於て少知ありこれ強うぬ茶平也

兼廣

肥前國任人兼廣此作廣久末之國産之孫也父大和吉源
ノ作也此作亦兼廣ノ作也

宗次

肥前國伊豫孫源宗次此任地鉄細又小籠自深し小籠又細直又多
古作の風有忠吉の著りつらん此作も以て宗次ノ作也

吉信

肥前國任人吉信此作七之傳と号す初代吉信ノ聲也初代の正廣
仍廣直人ノ父也作ハ兼廣同位也少しありて是也

重國

文殊重國の三代目九郎之郎と云は作地鉄細又小籠又此作
揮筆自深し此作ハ此作ノ作也

助政

鈴木大和吉助政ハ助直ノ弟子津州小作地鉄細又小籠自
深し此作ハ此作ノ作也

長國

豫州松山佐長國と切地鉄細又小籠自深し此作ハ此作ノ作也
出来たる物多し

高綱

藤原高綱と号す此作切地鉄細又小籠自深し此作ハ此作ノ作也
自深し陸奥守輝政ノ作也

國林

居不名此作國林と号す此作切地鉄細又小籠自深し此作ハ此作ノ作也
目重系此作ノ作也

國康

山本伊勢守孫康國康ハ越前任人也地鉄細又小籠自深し此作ハ此作ノ作也
坂打の如し此作又此作ノ作也

盛國

和泉守千代盛國ハ後久ノ評の如く此作ハ此作ノ作也
此作ハ此作ノ作也

貞秀

加賀守貞秀居不名此作切地鉄細又小籠自深し此作ハ此作ノ作也
此作ハ此作ノ作也

忠道

越前守忠道居不名此作切地鉄細又小籠自深し此作ハ此作ノ作也
此作ハ此作ノ作也

國博

其所志く此作切地鉄細又小籠自深し此作ハ此作ノ作也
此作ハ此作ノ作也

吉家

加州任孫系吉家作切地至強く吉中より自保く本邦又念身
又遠く是れ文者位よりして所産地物多し

吉家

加多州金澤任孫系吉家作切吉左衛門作切地強きより
自保く其の吉家又同し

信照

伊孫系任孫ハ地強細く少く之自保く津原より大龜文何れも
中か本物多し或云尾州任孫同人也

廣信

伊孫程左衛門廣信ハ伊孫河内守或ハ大和守廣信其切地則小
も任す城州の任人也地強細く津守又長任文似り

包宗

和州任孫系包宗と切左衛門して中心より地強き強くして
少し乾き不々あり能く受けし地物也

包明

大和國包明と切或ハ和州任孫系包明切左衛門也其作も若小同
し大坂初代包保く移りて陸奥守と切しも有

包守

南都又珠孫系包守作切豊後守も切大坂初代信濃守包守
つんや二代目包守ハ長き衛と稱す二本物多し

貞重

和州系系貞重ハ尾張國任人也地強細く少く自保く上総
女兼重に似し

守正

子孫院和系守正守正作切武州任人也地強強くして少し乾
き小強あり能く自保く少くも有

清平

相州小田原ハ清平任切村清平ハ本國加多國より家平景平等
ハ一家江戸より打し也お様中を多し

義行

豊州高田任孫系義行地強細く上ハ長きけり又其も本
物多し地強又ハいかに也

統行

豊州高田任孫系統行其作も同し其も地強又小龜文也
其何れも自保くハ多し其も有

宗安

肥前國任人宗安其地強細く小龜文也其も本物多し
其何れも自保くハいかに也

菊平

肥前國伊孫系源系菊平或ハ法橋伊孫系乃道菊平或ハ伊孫系源系
平と其も切系也其も有

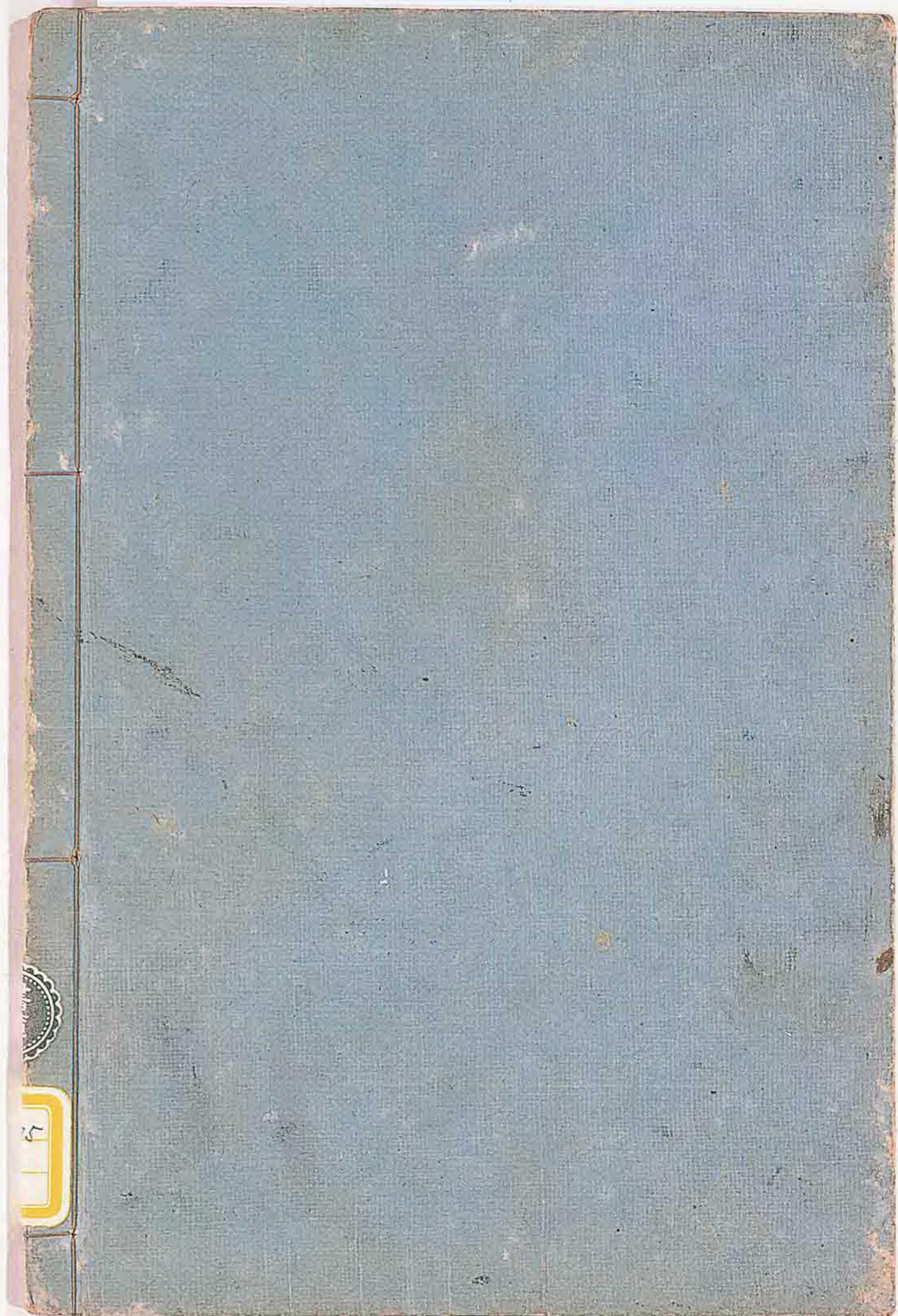
國義

日州和田任孫忠源國義ハ大坂國平より和系守打地強細く少
く其も有

國次

法橋東國次乃道系源系國次の後也其ハ肥後一國よりの上
也其も本國次と考ふハ何れも國より其も有

新刀辨疑卷之二終



慶長
以來
新刀辨疑

三

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

LA



6204

新刀辨疑卷之三

中之上作列

包重

山城國久珠包重二代也
ありし於強き物也

政國

平安城位政國地鉄細小
籠白有る上子也

國次

平安城孫系國次久珠大
探り切兼を切しも有

兼道

平安城山并兼道八地鉄
細小細直又関の如し

有平

越後守孫系有平河内國
の住人也

貞信

但馬守孫系貞信井上生
及つ人也江戸法城も同人也

守國

平安城藤原守國と切地鉄
細小籠白有る上子也

正俊

平安城石道右道正俊兼院
の直又まほの如き物有

清道

平安城位清道地鉄細小籠
白有る中籠も有し

永國

平安城位永國地鉄細小籠
籠白有る上子也

國義

下総守國義大坂の人と生
及つ人也鎌倉住と云ふ日州下

吉貞

山城守肥後守吉貞切吉光切子
波吉道子也三系金右也



康光

兼因

永路

廣宜

重廣

國永

廣高

春國

信伊國康光ハ初代康綱
ノ弟子也兼悦強キ村多シ

薩摩守多國ハ大坂の住人
也中直又多シ

播磨大坂住家路又兼系
永路大坂武家也打

信州國廣宜於大坂住之
切少氣之流又小出本物也

肥後守重廣播磨守重
切大氣又兼系中本直

播磨住源國永地鉄細小
録自存て直又多シ

二代目河内守源高守市
左衛門と云ふ同住之鉄細

播磨住山本孫守之村直
國信國切兼悦の弟小氣也

永道

信吉

真行

重信

國綱

廣高

信吉

房信

武家守源系也大坂住人
玉井六郎と云ふ河内守二代也

河内守行吉ハ大坂住人也地
鉄細小の弟也

播磨住吉村多田治と稱
す鐵家也行吉不似て少也

播磨住重信地鉄細小
少録自存也又小出本物也

大坂住孫系國綱住地鉄細
小録自存と云ふ也

河内守源高守ハ大坂住人
地鉄細又録自存也

播磨守信吉大坂住人地鉄細
又録自存と云ふ也

播磨國源房住之切庵丁の
名人也鐵中播磨守二人同位也

鎮弘

風一

國守

國助

貞廣

盛房

兼貞

繼永

肥前守孫系鎮弘伊賀守
人地鉄細小本村冠牙也

伴乃道風一ハ伊賀守人
也伴ノ末一守小鉄細也

於勢州孫系國守切付又
佐元和氏也若播磨守也

勢州神戶住國助大坂住
也國助小鉄細也

尾州大山住貞廣去播磨
少打地鉄細一乳き也

三州吉田住盛房ハ盛道
ノ伴也鉄細也

薩州住兼貞地鉄細小自
録て直又多シ

鐵家也後繼永於武家切
戸作之切鉄細小出也

鎮知

正重

勝吉

盛道

氏善

貞國

正信

兼植

肥前守孫系鎮知鐵細切
引鉄細鉄細二人也

勢州住千子正重ハ村直系
也也代也鉄細也

勢州桑名住源系孫吉於播
州也也一也也

尾州住人加賀守也盛道也
命少也

勢州吉孫系氏善尾州住人
國守も住す氏貞ハ同界也

薩州住西住貞國地鉄細小
直又少出也

出代孫又平井也代也切
和州住原甲州ノ下向也

武家住兼植ハ生國鐵家也
小録多之上徳也

正俊

武州住正俊は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
但し武州城古橋久國地
全細小業能多しや

吉次

但し武州城古橋吉次は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
武州住正俊は任地鉄細小中
又武州のしほ多し

貞重

武州住貞重は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
武州住貞重は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

正光

武州住貞重は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
武州住貞重は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

國正

武州住國正は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
武州住國正は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

正國

武州住國正は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
武州住國正は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

宗重

武州住宗重は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
武州住宗重は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

利長

武州住宗重は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
武州住宗重は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

正真

武州住正真は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
武州住正真は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

國廣

武州住正真は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
武州住正真は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

政曆

武州住政曆は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
武州住政曆は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

義廣

武州住政曆は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
武州住政曆は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

兼定

和泉守源兼定は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
和泉守源兼定は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

兼重

和泉守源兼重は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
和泉守源兼重は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

兼行

下総守源兼行は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
下総守源兼行は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

壽命

下総守源兼行は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
下総守源兼行は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

直房

但し武州城古橋直房は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
但し武州城古橋直房は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

大道

但し武州城古橋直房は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
但し武州城古橋直房は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

兼信

武州住兼信は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
武州住兼信は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

兼信

武州住兼信は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
武州住兼信は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

兼勝

二子領兼勝は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
二子領兼勝は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

金定

二子領兼勝は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
二子領兼勝は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

金高

武州住金高は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
武州住金高は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

金高

武州住金高は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
武州住金高は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

兼高

陸奥守源兼高は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
陸奥守源兼高は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

兼信

陸奥守源兼高は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
陸奥守源兼高は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

國常

上野守源國常は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
上野守源國常は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

康道

上野守源國常は任地鉄細
又強く武州のしほ多し
上野守源國常は任地鉄細
又強く武州のしほ多し

友行

豊前小倉住友行中倉又
小幡自保其物也

改平

豊前小倉住改平能成其
誠前書を交り申す地也

統景

豊前高田住統景系地
鉄細又直多し

光廣

豊前高田住光廣系地鉄
細又直多し

實行

豊前高田住實行系地
鉄細又直多し

守行

豊前高田住守行系地
鉄細又直多し

輝景

豊前高田住輝景系地
鉄細又直多し

尚行

豊前高田住尚行系地
鉄細又直多し

行恆

豊前高田住行恆系地
鉄細又直多し

行次

豊前高田住行次系地
鉄細又直多し

豐政

豊前高田住豐政系地
鉄細又直多し

忠行

豊前高田住忠行系地
鉄細又直多し

政行

豊前高田住政行系地
鉄細又直多し

廣行

豊前高田住廣行系地
鉄細又直多し

貞久

豊前高田住貞久系地
鉄細又直多し

金行

豊前高田住金行系地
鉄細又直多し

輝行

豊前高田住輝行系地
鉄細又直多し

正行

豊前高田住正行系地
鉄細又直多し

豐行

豊前高田住豐行系地
鉄細又直多し

正行

豊前高田住正行系地
鉄細又直多し

行春

豊前高田住行春系地
鉄細又直多し

行房

豊前高田住行房系地
鉄細又直多し

長行

豊前高田住長行系地
鉄細又直多し

永行

豊前高田住永行系地
鉄細又直多し

宣行

豊前高田住宣行系地
鉄細又直多し

國重

豊前高田住國重系地
鉄細又直多し

行光

豊前高田住行光系地
鉄細又直多し

友行

豊前高田住友行系地
鉄細又直多し

則行

豊前高田住則行系地
鉄細又直多し

行長

豊前高田住行長系地
鉄細又直多し

正行

豊前高田住正行系地
鉄細又直多し

忠清

豊前高田住忠清系地
鉄細又直多し

行ノ序是

三

六

水滸傳卷三

吉房

肥前國伊勢原吉房地
鉄細又小籠自有者上あり也

忠則

肥前國佐志則地鉄六低小
籠又小籠自有者上あり也

忠正

肥前國佐人忠正地鉄細
又小籠自有者上あり也

國慶

肥前國佐國慶代々本
原より佐國慶と切近な事

廣次

肥前國佐八相河原廣次
人中山加一宮と云ふ事あり

正次

肥前國佐伊勢原正次地鉄
八相く字あり佐人似たり

本行

高田河内吉本行日録
代有二代目より八相佐の地也

吉定

肥前國佐伊勢原吉定大
吉丸地鉄す出あり鉄細あり

重貞

多珠重貞八相河原佐人地
鉄細又小籠自有者上あり也

國長

高木國長河内國佐人地一書
國承地切と云ふ事あり

網廣

南紀佐網廣地鉄細又小
籠自有者上あり也

康重

肥前國佐康重地鉄細又小
籠自有者上あり也

康富

肥前國佐康富地鉄細又小
籠自有者上あり也

氏廣

肥前國佐氏廣地鉄細又小
籠自有者上あり也

永次

阿州佐永次福地佐地鉄細
又小籠自有者上あり也

助信

阿州佐助信佐地鉄細又小
籠自有者上あり也

盛綱

左近將監盛綱佐阿州佐
人地鉄細又小籠自有者上あり也

清長

肥前國佐清長地鉄細又小
籠自有者上あり也

國徳

肥前國佐國徳八相河原佐
人地鉄細又小籠自有者上あり也

宗貞

肥前國佐宗貞人宗貞地鉄
細又小籠自有者上あり也

長清

肥前國佐長清地鉄細又小
籠自有者上あり也

國長

肥前國佐國長地鉄細又小
籠自有者上あり也

國房

宇和佐國房代官佐地鉄細
又小籠自有者上あり也

久國

上野佐久國佐地鉄細又小
籠自有者上あり也

正富

肥前國佐正富地鉄細又小
籠自有者上あり也

康繼

肥前國佐康繼地鉄細又小
籠自有者上あり也

重利

肥前國佐重利地鉄細又小
籠自有者上あり也

兼定

肥前國佐兼定地鉄細又小
籠自有者上あり也

長廣

肥前國佐長廣地鉄細又小
籠自有者上あり也

定道

肥前國佐定道地鉄細又小
籠自有者上あり也

正忠

肥前國佐正忠地鉄細又小
籠自有者上あり也

國次

肥前國佐國次地鉄細又小
籠自有者上あり也

廣辰

數代あり初代ハ源朝長
或ハ源朝長ハ源朝長ハ源朝長

綱廣

正信子孫綱廣源朝長
正信子孫綱廣源朝長

廣光

三ノ中源光左衛門大
坂の住人奥州中村住人

義廣

源義廣と切地狭細小
又信有て古くハ中村住人

廣辰

肥後守廣辰國三ノ中
狭細小源自有少源辰

宗弘

日置氏守源宗弘初代
ハ宗師とて打つて元日

貞重

孫原貞重ハ在切樹川
州松江州取中州守

是平

指津守是平ハは都是
一ノ中ハ是平守人ハ

廣保

廣保住人三ノ中源國三
地狭細小源自有少源保

守重

三ノ中源守重住人寛
以あり

兼道

伊賀守兼道地狭細小
自守重取打つて

元喜

佐藤守國富元喜住人
切地狭細小源自有少源元喜

包清

播磨守包清住人寛
比也源自有少源包清

包高

加賀守包高住人寛
の住人包高住人寛

貞次

源貞次住人地狭細小
自守重取打つて

倫助

源倫助住人林住倫助
りつて人倫助

友常

武蔵守友常ハ源朝長
打つて尾州住人源朝長

一法

日置守一法ハ源朝長
一法の子孫あり

一法

日置守一法ハ源朝長
一法の子孫あり

包守

千手地包守ハ源朝長
地狭細小源自有少源包守

義房

丹波守義房ハ源朝長
住人地狭細小源自有少源義房

忠光

粟田守忠光ハ源朝長
人ノ書ハ忠光ハ源朝長

正明

肥後守正明住人日本
地狭細小源自有少源正明

貞信

河内守貞信住人日本
井上守貞信住人日本

正家

大和守正家ハ源朝長
住人地狭細小源自有少源正家

國次

山城守國次ハ源朝長
住人地狭細小源自有少源國次

信利

山城守信利ハ源朝長
住人地狭細小源自有少源信利

國治

尾陽守國治ハ源朝長
住人地狭細小源自有少源國治

包次

陸奥守包次ハ源朝長
住人地狭細小源自有少源包次

信忠

加刺守信忠ハ源朝長
住人地狭細小源自有少源信忠

守久

武藏守守久ハ源朝長
住人地狭細小源自有少源守久

統久

河内守統久ハ源朝長
住人地狭細小源自有少源統久

氏房

丸田若狭守房尾州名護
石津州守房尾州名護

康忠

杉州守康忠ハ康忠ハ一様
ラハ録自ルルハ大凡クハ

保光

又保光ハ左ノ録自ル
色保光ハ左ノ録自ル

綱重

陸奥守綱重ハ地録細
録自ルルハ左ノ録自ル

冬廣

冬廣ハ左ノ録自ル
冬廣ハ左ノ録自ル

廣正

出羽守廣正ハ左ノ録自
又江戶守廣正ハ左ノ録自

廣綱

又廣綱ハ左ノ録自ル
又廣綱ハ左ノ録自ル

繼信

上総守繼信ハ左ノ録自
又江戶守繼信ハ左ノ録自

則房

則房ハ左ノ録自ル
則房ハ左ノ録自ル

重康

備前守重康ハ左ノ録自
又江戶守重康ハ左ノ録自

重貞

重貞ハ左ノ録自ル
重貞ハ左ノ録自ル

景光

備前守景光ハ左ノ録自
又江戶守景光ハ左ノ録自

勝廣

勝廣ハ左ノ録自ル
勝廣ハ左ノ録自ル

國重

備前守國重ハ左ノ録自
又江戶守國重ハ左ノ録自

種廣

種廣ハ左ノ録自ル
種廣ハ左ノ録自ル

盛廣

備前守盛廣ハ左ノ録自
又江戶守盛廣ハ左ノ録自

國繩

備前守國繩ハ左ノ録自
又江戶守國繩ハ左ノ録自

中之中作列

吉時

吉時ハ左ノ録自ル
吉時ハ左ノ録自ル

統道

備前守統道ハ左ノ録自
又江戶守統道ハ左ノ録自

成定

成定ハ左ノ録自ル
成定ハ左ノ録自ル

秀辰

備前守秀辰ハ左ノ録自
又江戶守秀辰ハ左ノ録自

勝家

勝家ハ左ノ録自ル
勝家ハ左ノ録自ル

有國

備前守有國ハ左ノ録自
又江戶守有國ハ左ノ録自

則家

則家ハ左ノ録自ル
則家ハ左ノ録自ル

則利

備前守則利ハ左ノ録自
又江戶守則利ハ左ノ録自

輝吉

輝吉ハ左ノ録自ル
輝吉ハ左ノ録自ル

廣重

備前守廣重ハ左ノ録自
又江戶守廣重ハ左ノ録自

清鎮

清鎮ハ左ノ録自ル
清鎮ハ左ノ録自ル

清綱

備前守清綱ハ左ノ録自
又江戶守清綱ハ左ノ録自

清佐

清平清佐作後人の作人地織陸くして其く大振る

直行

於唐津寺にお冠鏡直切作之大方おき切

直家

揚州任人藤原忠実造地鏡細又大龜又丁子龜又後

氏房

備前守氏房の地鏡細小鏡自有

永國

法城寺禪永國八中の上又出す河内守を同んた云

宗重

源朝臣宗重地鏡細小鏡又信ひ有る大龜又多し

助重

お阿少御系任曲重地鏡細又自有て小鏡又多し

貞廣

備前守原任貞廣地鏡細又白く細又多し

本信

少林大和守本信八國禪の作人白戸神田小御可又任者

直廣

大和守直廣地鏡細又小鏡自有て大龜又のれ多し

康弘

一肥前國康弘作之地鏡乃風ハ古唐書の如く多し

光秀

陸奥守光秀地鏡細又鏡自有て直又多し

長善

陸奥守長善地鏡細又小鏡自有て小鏡又多し

資永

此地任者水地鏡細小鏡自有て又穿事物有

為廣

相摸大掾源為廣地鏡細小鏡自有て小鏡又多し

貞廣

藤原貞廣ハ多御加多し仕事の内任ハおれ能はり

盛重

日範刀盛重地鏡細又陸く鏡自有て大龜又多し

政長

山野内金丸政長地鏡大ついで多し

正重

お阿任藤原正重作地鏡細又少鏡て小鏡又多し

正次

和泉守正次地鏡細又少鏡て小鏡又多し

正法

大和守藤原正法地鏡細又少鏡て小鏡又多し

正勝

和泉守藤原正勝地鏡細又少鏡て小鏡又多し

信行

豊後守藤原信行地鏡細又少鏡て小鏡又多し

兼長

武州守藤原兼長地鏡細又少鏡て小鏡又多し

政曆

因守任藤原政曆任と初伯州より任ヤ一と云一

正永

越後守新藤原正永地鏡細又少鏡て小鏡又多し

正長

奥州守藤原正長地鏡細又少鏡て小鏡又多し

正清

和泉守藤原正清地鏡細又少鏡て小鏡又多し

正利

信濃守藤原正利作之地鏡細又古作の如し

延命

羽州守内任延命作地鏡細又鏡自有て小鏡又多し

無信

お阿任藤原無信地鏡細又鏡自有て小鏡又多し

兼正

武州守藤原兼正地鏡細又小鏡自有て鏡又多し

兼路

山城國孫系系地鉄細
又自ありて之の重なりぬし

兼房

三州府系系地鉄細
子孫ありて之なり

兼常

山城國仗兄任孫系系常
地鉄細又直名のたきなり

國正

色江古源國正地鉄細
自ありて中系ありて之なり

國重

山城古國重於武野河戸
中ありて之なり切

國吉

相模古東國吉國吉地鉄細
自ありて之なり

國恒

出羽大掾國恒地鉄細
義統より大掾多し

國俊

近江守源國俊地鉄細
自ありて之なり

國友

土州住左系國友地鉄大徳
の物より阿の鑑多し

國正

美濃守守中村任人國正地
鉄細又中系多し

國清

常陸國少系吉左衛門村國
清地鉄細又中系多し

國助

和國戸山住本國助一書又和
田戸山ハ江戸之田の外山ニ在

國宗

宇多國宗作江戸の任人中
系文多し牛の澤有地鉄細

國次

越前守守系國次地鉄細
小系自ありて之なり

國包

少海古系系國包系あり
林の國包不ありて之なり

國廣

和系守守系系國廣ハ越前の
任人也國系文の中系多し

國真

備中國系系國真地鉄細
且て系系自あり

國定

河内大掾系系國定河内中
系切地鉄細の國定と同一なり

直廣

大系守孫系直廣地鉄細
又系自ありて之なり

吉綱

孫系守孫系地鉄細
又系自ありて之なり

國英

河内守源國英國系あり
出守系系の任人なり

恭華

相模守守系系恭華地鉄細
自ありて之なり

宣屋

三河守孫系宣屋地鉄細
命の如く之なり

國綱

横田守孫系國綱地鉄細
自ありて之なり

正勝

根尾守孫系正勝地鉄細
又系自ありて之なり

重實

陸奥守守系系重實地鉄細
又系自ありて之なり

寛村

大系守寛村作掾州系名
任人寛系切地鉄細

重次

土州守孫系重次地鉄細
自ありて之なり

重政

色江守孫系重政地鉄細
切地鉄細又之なり

利平

二字系多し地鉄細
自ありて之なり

髮

阿州任人也髮系地鉄細
切地鉄細又之なり

直貞

紀伊守孫系直貞地鉄細
自ありて之なり

祐重

肥州佐石堂祐重祐國、
つゝ人々を以て能くし

祐道

肥州佐石堂祐道、
國の人々を以て能くし

祐行

肥州佐石堂祐行、
肥州佐石堂祐重の弟

清俊

肥州佐石堂清俊、
肥州佐石堂祐重の弟

安元

肥州佐石堂安元、
肥州佐石堂祐重の弟

忠廣

肥州佐石堂忠廣、
肥州佐石堂祐重の弟

重鏡

肥州佐石堂重鏡、
肥州佐石堂祐重の弟

包永

肥州佐石堂包永、
肥州佐石堂祐重の弟

宣明

肥州佐石堂宣明、
肥州佐石堂祐重の弟

國勝

肥州佐石堂國勝、
肥州佐石堂祐重の弟

國廣

肥州佐石堂國廣、
肥州佐石堂祐重の弟

廣任

肥州佐石堂廣任、
肥州佐石堂祐重の弟

宗平

肥州佐石堂宗平、
肥州佐石堂祐重の弟

行永

肥州佐石堂行永、
肥州佐石堂祐重の弟

忠宗

肥州佐石堂忠宗、
肥州佐石堂祐重の弟

忠清

肥州佐石堂忠清、
肥州佐石堂祐重の弟

正永

肥州佐石堂正永、
肥州佐石堂祐重の弟

氏廣

肥州佐石堂氏廣、
肥州佐石堂祐重の弟

清次

肥州佐石堂清次、
肥州佐石堂祐重の弟

家長

肥州佐石堂家長、
肥州佐石堂祐重の弟

吉正

肥州佐石堂吉正、
肥州佐石堂祐重の弟

忠親

肥州佐石堂忠親、
肥州佐石堂祐重の弟

正廣

肥州佐石堂正廣、
肥州佐石堂祐重の弟

宗道

肥州佐石堂宗道、
肥州佐石堂祐重の弟

繼利

肥州佐石堂繼利、
肥州佐石堂祐重の弟

兼高

肥州佐石堂兼高、
肥州佐石堂祐重の弟

兼正

肥州佐石堂兼正、
肥州佐石堂祐重の弟

義重

肥州佐石堂義重、
肥州佐石堂祐重の弟

兼重

肥州佐石堂兼重、
肥州佐石堂祐重の弟

宗吉

肥州佐石堂宗吉、
肥州佐石堂祐重の弟

下坂

肥州佐石堂下坂、
肥州佐石堂祐重の弟

繼廣

肥州佐石堂繼廣、
肥州佐石堂祐重の弟

負重

越前住下坂負重此住部
了有又同し

國定

越前住國定一書福井住何
内大橋後江戸下る承應此言

友次

於越前友次住地鉄細り
青く小籠白有直又多し

吉房

丹後吉房系吉房地鉄細り
白有て丁子丸又多し

國綱

相模守系國綱地金細
又小丸又のり多し

光國

加州住系系光國地鉄細り
小籠白有て強き物也

兼友

加州住系兼友地鉄細り
白有すながしも有

信友

加州住系系信友地鉄細り
白有く小丸又多し

景平

加州住系系景平地鉄細り
物有深し海多し

高平

加州住一書此村越中吉房系
之平元和時より兼若子信平

光治

伊勢守系系光治地鉄細り
小籠白有て小丸又多し

家平

加州住系系家平地鉄細り
白有すながし出有

國重

任州住山住國重地鉄細り
又系系系のり多し

兼景

任州住山住兼景系系地鉄
細り白有く強き物也

兼先

美作國津山住兼先住地
鉄細り又小籠白有て平柄

兼重

關東流兼重系系銘於地鉄細り
柄山兼住之り有海多し

義重

播磨住三代目義重地鉄細り
地鉄細りのり多し

勝永

播州住系系勝永地鉄細り
小籠白有て厚多し

國重

石州住國重地鉄細り
又小籠白有て厚多し

宗春

室山宗春地鉄細り
又小籠白有て厚多し

安家

武州住安家地鉄細り
白小籠白有て厚多し

盛國

武藏國住盛國地鉄細り
小籠白有て厚多し

助隣

相模守系系助隣地鉄細り
又小丸又のり多し

宗國

相模守系系宗國地鉄細り
又小丸又のり多し

繁定

武州住繁定地鉄細り
又小丸又のり多し

包勝

武州住包勝地鉄細り
又小丸又のり多し

國保

武州江戸出羽系系國保
保系系系保系系

則廣

直江守系系則廣地鉄細り
又小丸又のり多し

包康

江州住包康地鉄細り
又小丸又のり多し

壽命

淡路守系系壽命地鉄細り
又小丸又のり多し

壽命

二系銘地鉄細り
又小丸又のり多し

壽命

常陸守系系壽命地鉄細り
又小丸又のり多し

兼景

三和入古史云系地後能
吉守り細末又古く之ゆ

兼安

相模古系系兼安地後細
能自有之のり又多し

光代

秦光代地後細小松白
有古又中氣又又多し

貴道

河内古系系貴道地後細
自有之古又又多し

清空

武元古系系清空地後細
又古く相力り古く又多し

秀康

上河内古系系秀康地後
ざんり古く又古く又多し

包吉

奥州住包吉作只小江戸
上信外系系吉守り人也

道辰

河内古系系道辰古く又
多し相力り古く又多し

國義

奥州系國住國系地後細
又小松白古く又多し

兼先

河内古系系兼先地後細
細又細自有古く又多し

清重

石州住清重地後細古く
又古く又古く又多し

光重

石州住光重地後細古く
又古く又古く又多し

國守

大和古系系國守古く又
多し相力り古く又多し

國房

石州古系系國房地後細
細自有古く又古く又多し

國廣

源國廣古く又古く又多し
と相馬の國廣と云

吉正

河内古系系吉正地後細
細自有古く又古く又多し

吉廣

石州古系系吉廣地後細
細自有古く又古く又多し

吉次

河内古系系吉次地後細
細自有古く又古く又多し

吉國

河内古系系吉國地後細
細ざんり古く又古く又多し

吉政

河内古系系吉政地後細
細自有古く又古く又多し

吉重

河内古系系吉重地後細
細ざんり古く又古く又多し

吉成

河内古系系吉成地後細
細自有古く又古く又多し

吉國

河内古系系吉國地後細
細ざんり古く又古く又多し

吉時

河内古系系吉時地後細
細自有古く又古く又多し

吉時

河内古系系吉時地後細
細自有古く又古く又多し

吉平

河内古系系吉平地後細
細自有古く又古く又多し

吉次

河内古系系吉次地後細
細自有古く又古く又多し

義重

河内古系系義重地後細
細自有古く又古く又多し

義貞

河内古系系義貞地後細
細自有古く又古く又多し

義國

河内古系系義國地後細
細自有古く又古く又多し

包重

河内古系系包重地後細
細自有古く又古く又多し

包久

河内古系系包久地後細
細自有古く又古く又多し

包清

播磨住包清住し地狭細
不自承し少氣ありし

金行

播磨安の末流室以地狭
細く承る自承承多し

兼助

濃州住兼助地狭細
ううと大のてき本物多し

兼元

播磨安住兼元代承一為元地
狭つる自承承多し

兼高

越前住兼高住し地狭細
又自承承多し

中之下作列

正友

山城國栗田源正友地狭
細く自承承多し

安信

平安城住安信地狭細く
自承承多し

金王丸

之中の源金王丸切地狭細
て自承承多し

兼成

播磨安住兼成地狭細
自承承多し

兼門

濃州住兼門地狭細
の自承承多し

兼常

越前住兼常地狭細
とて自承承多し

兼若

尾州大山住兼若地狭細
て自承承多し

包廣

山城國住包廣地狭細
切代承承多し

具衡

平安城住具衡地狭細
自承承多し

網廣

平安城住網廣地狭細
切代承承多し

吉廣

山城守吉廣地狭細
自承承多し

助利

平安城住助利地狭細
自承承多し

信貞

山城國住信貞地狭細
自承承多し

正真

平安城住正真地狭細
自承承多し

政次

南加住政次地狭細
自承承多し

重房

南加住重房地狭細
自承承多し

貞國

播磨住貞國地狭細
自承承多し

吉春

平安城住吉春地狭細
自承承多し

則定

平安城住則定地狭細
自承承多し

兼義

山城國住兼義地狭細
自承承多し

兼次

平安城住兼次地狭細
自承承多し

正真

平安城住正真地狭細
自承承多し

政定

南加住政定地狭細
自承承多し

兼長

平安城住兼長地狭細
自承承多し

行廣

播磨住行廣地狭細
自承承多し

康定

招阿任康定ハ康慶ノ子
子ハ任地康定ヨリ

康綱

阿波守康綱ハ二氏目也
代ハ上ノ出テ任地康定ヨリ

廣道

招阿任廣道ハ任地
ヨリ

盛重

招阿任盛重ハ任地
ヨリ

吉次

梧州任吉次ハ上ノ
國ヨリ人宮下美素古
也

宗安

招阿任宗安ハ任地
ヨリ

宗吉

了叔守宗吉ハ大坂
代也

綱吉

招阿任綱吉ハ任地
ヨリ

國春

招阿任國春ハ任地
ヨリ

助利

招阿任助利ハ任地
ヨリ

善勝

招阿任善勝ハ任地
ヨリ

國吉

招阿任國吉ハ任地
ヨリ

友廣

招阿任友廣ハ任地
ヨリ

次包

招阿任次包ハ任地
ヨリ

定廣

招阿任定廣ハ任地
ヨリ

兼武

招阿任兼武ハ任地
ヨリ

兼定

色江大坂任兼定ハ
任地也

貞次

色江大坂任貞次ハ
任地也

氏信

色江大坂任氏信ハ
任地也

一國

色江大坂任一國ハ
任地也

下坂

色江大坂任下坂ハ
任地也

家久

色江大坂任家久ハ
任地也

清次

色江大坂任清次ハ
任地也

康綱

色江大坂任康綱ハ
任地也

盛重

色江大坂任盛重ハ
任地也

照重

色江大坂任照重ハ
任地也

照廣

色江大坂任照廣ハ
任地也

康重

色江大坂任康重ハ
任地也

正重

色江大坂任正重ハ
任地也

兼盛

色江大坂任兼盛ハ
任地也

心永

色江大坂任心永ハ
任地也

兼永

色江大坂任兼永ハ
任地也

兼常

武州神田住兼常地狭大
位又大の子也

壽命

上野守原兼常地狭大
分子と自有也

壽命

美濃國住兼壽命地狭
又糖和の子也

壽命

何由也守原兼壽命地狭
大位又自有也

壽命

丹後守原兼壽命命地狭上
三人の子也

陳直

三河守大直陳直地狭上
の三人の子也

大道

陸奥守大道地狭大位小
して也又の子也

兼衛

三河守兼衛地狭大位自
有也又の子也

英俊

河内守兼英俊英次地狭
甲州守兼英俊地狭大位

信貞

伊勢守兼信貞地狭大位
自有也又の子也

氏信

白河守兼氏信地狭大位
又の子也

氏房

伊勢守兼氏房地狭大位
自有也又の子也

真空

信濃守兼真空地狭大位
又の子也

忠次

信州守兼忠次地狭大位
自有也又の子也

守勝

那智守兼守勝地狭大位
又中氣又多也

勝空

奥州守兼勝空地狭大位
自有也又の子也

長國

奥州會津住長國地狭大位
自有也又の子也

下坂

奥州守兼下坂地狭大位
自有也又の子也

網房

美濃守兼網房地狭大位小
して中氣又多也

利重

美濃守兼利重地狭大位
自有也又の子也

兼長

丹波守兼兼長地狭大位
自有也又の子也

兼吉

丹波守兼兼吉地狭大位
自有也又の子也

守貞

美濃守兼守貞地狭大位
自有也又の子也

吉廣

美濃守兼吉廣地狭大位
自有也又の子也

忠貞

美濃守兼忠貞地狭大位
自有也又の子也

兼常

美濃守兼兼常地狭大位
自有也又の子也

次弘

美濃守兼次弘地狭大位
自有也又の子也

家次

美濃守兼家次地狭大位
自有也又の子也

吉國

播磨守兼吉國地狭大位
自有也又の子也

宗貞

播磨守兼宗貞地狭大位
自有也又の子也

義重

播磨守兼義重二代目也地
狭大位自有也又の子也

國增

播磨守兼國增地狭大位
自有也又の子也

兼先

懿條

正國

友清

長次

家重

重常

正久

作州任孫系為是因あ
の兼先のぬく直友の方と

作州任孫隱地務細又直
又上と直友と一す世不掃也

作州任孫正國は正信久
と直友と一す世不掃也

作州任孫友清大孫友清地
務細又直友と直友と一す世不掃也

作州任孫長次は直友
と直友と一す世不掃也

作州任孫家重直友地務細
と直友と一す世不掃也

作州任孫重常直友地務細
と直友と一す世不掃也

作州任孫正久直友地務細
と直友と一す世不掃也

兼光

信貞

清定

家次

景吉

兼家

當國

下坂

作州任兼光地務細又直友
直友と直友と一す世不掃也

作州任孫信貞地務細又直
友と直友と一す世不掃也

長州任孫清定直友の形直友
と直友と一す世不掃也

作州任孫家次直友地務細又直
友と直友と一す世不掃也

作州任孫景吉直友地務細又直
友と直友と一す世不掃也

作州任孫兼家直友地務細又直
友と直友と一す世不掃也

越前任下坂當國直友地務細又直
友と直友と一す世不掃也

下坂任孫下坂直友地務細又直
友と直友と一す世不掃也

信貞

國繼

忠次

包廣

吉定

忠重

廣貞

廣則

陸奥守孫系直友地務大
直友と直友と一す世不掃也

越前任孫國繼直友地務細又直
友と直友と一す世不掃也

越前任孫忠次直友地務細又直
友と直友と一す世不掃也

越前任孫包廣直友地務細又直
友と直友と一す世不掃也

信國孫吉定直友地務細又直
友と直友と一す世不掃也

肥前國孫忠重直友地務細又直
友と直友と一す世不掃也

肥前國孫廣貞直友地務細又直
友と直友と一す世不掃也

肥前國孫廣則直友地務細又直
友と直友と一す世不掃也

康氏

綱俊

氏信

下坂

武國

重次

忠行

右衛門

越前國任孫康氏直友地務大
直友と直友と一す世不掃也

越前國任孫綱俊直友地務細又直
友と直友と一す世不掃也

越前國任孫氏信直友地務細又直
友と直友と一す世不掃也

越前國任孫下坂直友地務細又直
友と直友と一す世不掃也

肥前國任孫武國直友地務細又直
友と直友と一す世不掃也

肥前國任孫重次直友地務細又直
友と直友と一す世不掃也

肥前國任孫忠行直友地務細又直
友と直友と一す世不掃也

肥前國任孫右衛門直友地務細又直
友と直友と一す世不掃也

新編

三

七

新編

信賀

九州肥後日向豊後等國地
狭狹又志々多々自有信賀

源左衛門

九州肥後日向豊後等國地
日向の作の呼名ありて

正國

九州肥後日向豊後等國地
日向の作の呼名ありて

兵部

同田貫兵部地狭狹人
として流自有り

重近

九州大隅郡本下重近
狭狹又志々多々自有り

浄長

九州佐賀長門地狭狹
て自有り

長寛

九州佐賀長門地狭狹
て自有り

直茂

九州佐賀長門地狭狹
て自有り

清國

九州肥後日向豊後等國地
狭狹又志々多々自有り

又八

九州肥後日向豊後等國地
狭狹又志々多々自有り

治兵衛

九州肥後日向豊後等國地
狭狹又志々多々自有り

上野

九州肥後日向豊後等國地
狭狹又志々多々自有り

清貞

九州肥後日向豊後等國地
狭狹又志々多々自有り

冬廣

九州肥後日向豊後等國地
狭狹又志々多々自有り

長次

九州肥後日向豊後等國地
狭狹又志々多々自有り

直勝

九州肥後日向豊後等國地
狭狹又志々多々自有り

安重

九州佐賀長門地狭狹
て自有り

兼宣

九州佐賀長門地狭狹
て自有り

下坂

九州佐賀長門地狭狹
て自有り

廣奉

九州佐賀長門地狭狹
て自有り

安吉

九州佐賀長門地狭狹
て自有り

恭幸

九州佐賀長門地狭狹
て自有り

正助

九州佐賀長門地狭狹
て自有り

政勝

九州佐賀長門地狭狹
て自有り

下坂

九州佐賀長門地狭狹
て自有り

吉作

九州佐賀長門地狭狹
て自有り

安次

九州佐賀長門地狭狹
て自有り

安良

九州佐賀長門地狭狹
て自有り

盛升

九州佐賀長門地狭狹
て自有り

吉道

九州佐賀長門地狭狹
て自有り

信助

九州佐賀長門地狭狹
て自有り

氏貞

九州佐賀長門地狭狹
て自有り

貞幸

越中守河内守越前守三
人者尾州名護屋住之孫
播磨守之孫系重忠ハ侍
中國住

家村

胤者大孫家村は作上の次
幸子同しを在り多し
山城住源末國光二村在也
其打也多し

國重

武州下系住但るを孫系
國重其父のて其母多し
能事住國次地本國の風
ありて小孫を好むと云ふ

國次

和泉守國次指意は能の此
の致切ても有る心也
越前國住之孫國光江都又
も住す

國次

奥州名取住國次河内守
為系其出羽方孫系其切
山城國住源末國光ハ二
村在也ハ別人孫孫守

國廣

孫河内住國廣和泉國傳
ちと二人ありと云ふ
胤者大孫吉宗地孫細又孫白
ありて大津打の孫多し

國光

二子孫細孫細又小孫白
有候よき必其れ有也
山城國孫系吉貞胤は大
孫又山城守孫守同人孫比

吉宗

二字孫陸奥守とハ別人也
孫久志の孫又其孫守
河内住孫系海神住人と云
上ありと云ふ

吉宗

山城國孫系吉貞胤は大
孫又山城守孫守同人孫比

吉行

河内住孫系海神住人と云
上ありと云ふ

吉貞

山城國孫系吉貞胤は大
孫又山城守孫守同人孫比

義氏

河内住孫系海神住人と云
上ありと云ふ

包廣

諸州守系郡包廣孫久の
孫其しと云ふ孫守
加刺住孫系孫久孫久
と孫守と孫守と孫守と

包久

武州住包久地孫細又孫白
ありて其母多し
加刺住孫系孫久孫久
孫久の孫のれと云ふ

兼植

常陸守系兼植孫久
江戸の住人あり

兼春

武州國孫系孫久孫久
孫久の孫のれと云ふ

兼房

出羽守孫系孫久孫久
孫久の孫のれと云ふ

信善

和泉守孫系孫久孫久
孫久の孫のれと云ふ

信正

出羽守孫系孫久孫久
孫久の孫のれと云ふ

信屋

和泉守孫系孫久孫久
孫久の孫のれと云ふ

延清

京都住延清孫久孫久
孫久の孫のれと云ふ

正友

和泉守孫系孫久孫久
孫久の孫のれと云ふ

正村

京都住正村ハ其母多し
も古く思ふ

正直

和泉守孫系孫久孫久
孫久の孫のれと云ふ

正吉

三州伊賀住孫系孫久孫久
孫久の孫のれと云ふ

正宗

和泉守孫系孫久孫久
孫久の孫のれと云ふ

正重

三州伊賀住孫系孫久孫久
孫久の孫のれと云ふ

正幸

和泉守孫系孫久孫久
孫久の孫のれと云ふ

政安

長岑子政安ハ常陸國住
以俊とも切

盛命

駿州住人甲州府中ノ事
英俊ノ子也後着忠あること云
多保の氏

盛永

お膳子孫系常陸水助常
郡山後戸甲州府中ノ住
ニ保の比

廣國

於武野東處山邊大和守
廣國務之云々云々云々

盛次

石州住人源善次住地後
里くぞんごうと云々云々

盛光

平務長源守常陸光澤
州在龜の住人剛物上云々

守秀

肥前國源守秀住地後細
又多弱き事云々也

守安

根子國住人源守安守
房住人云々云々云々

昌直

筑後國柳川住昌直住地後
細又直又多し

廣永

根子國住廣永住地後大徳
又小龜又よして淋しき物

盛次

根子國住源善次國の凡者
後よて直又多し云々

廣定

根子國住廣定住地後善
少うと云々云々云々

盛宗

陸奥大搦橋善宗奥州住
種浪國住元和比云々云々

盛國

石堂盛國住之書云々云々
住人と記す後久下と云々

守房

肥前國常陸大搦源守房
秀久住人云々

守勝

野州住吉徳徳勝住村小
と出たり云々云々のめし

貞清

法橋寺糖右住住地後細
又小龜又よして淋し

貞廣

羽前國源住貞廣住地後細
又小龜又よして淋し

助光

山崎國五條住石塔助光
住地後細又小龜又よして淋し

三全

二木の源徳又ハ雲の住と
出せり又小龜又よして淋し

氏命

大和守源氏命氏命
大坂の住人住地後細

利重

常陸大目録利重主益壽入
道常利越前別光末云々云々

安繼

大和守安繼ハ越前住人
寛久以也江都云々云々

綱長

越前上飯沼長地後善
少うと云々云々云々

貞助

筑前國住貞助之向大搦善
住地後善又小龜又よして淋し

貞常

越前守貞常住地後細又小
龜又よして淋し

三興

武州住三興住地後細又直
又多し又小龜又よして淋し

氏次

大和守源氏次住地後善又直
又多し又小龜又よして淋し

壽命

濃後住壽命住地後善又直
又多し又小龜又よして淋し

倫常

藤原朝臣倫常住地後善又直
又多し又小龜又よして淋し

安義

美州住安義ハ倫常小同
安備安多し又小龜又よして淋し

大道

三陽額田郡源大道住地
後善又直又多し又小龜又よして淋し

新ノ序

卷二

二一

大音

直元

平安寺より坂直元地狭く
今と直元取て併しき地狭

元忠

肥前長門守元忠地狭
狭く直元より地狭

清平

加州任孫系清平は村長
平は寺の作本一一代

冬廣

平安寺任孫系冬廣地狭
して孫系大龜より地狭

末行

豊州任孫系末行吉く見
ゆる有末行多し

敬磨

受孫系任孫系敬磨地狭
地狭よりと申る有

標繼

石堂標繼地狭方位より
自ある小龜より多し

重則

肥前守孫系重則ハ村長
兼平任肥後守也

景利

加州任孫系景利地狭
細目の小肌又申

親信

九州任孫系親信地狭
地狭方位直元より

兼友

奥州任孫系兼友地狭大
位よりして孫系多し

金英

下孫系任孫系金英地狭
及ハ甲州府守三ノ下

金長

後お松山任孫系金長地
金方位小龜より多し

國守

大和守國守任孫系國守
田守孫系任孫系也

國久

友山ついで國久地狭
小龜より龜より多し

辰成

九州任孫系辰成地狭
今と小龜多し孫系

家久

濃州關之住家久地狭
ついで自者細直又多し

勝重

三ノ下任孫系勝重地狭
今と小龜多し孫系

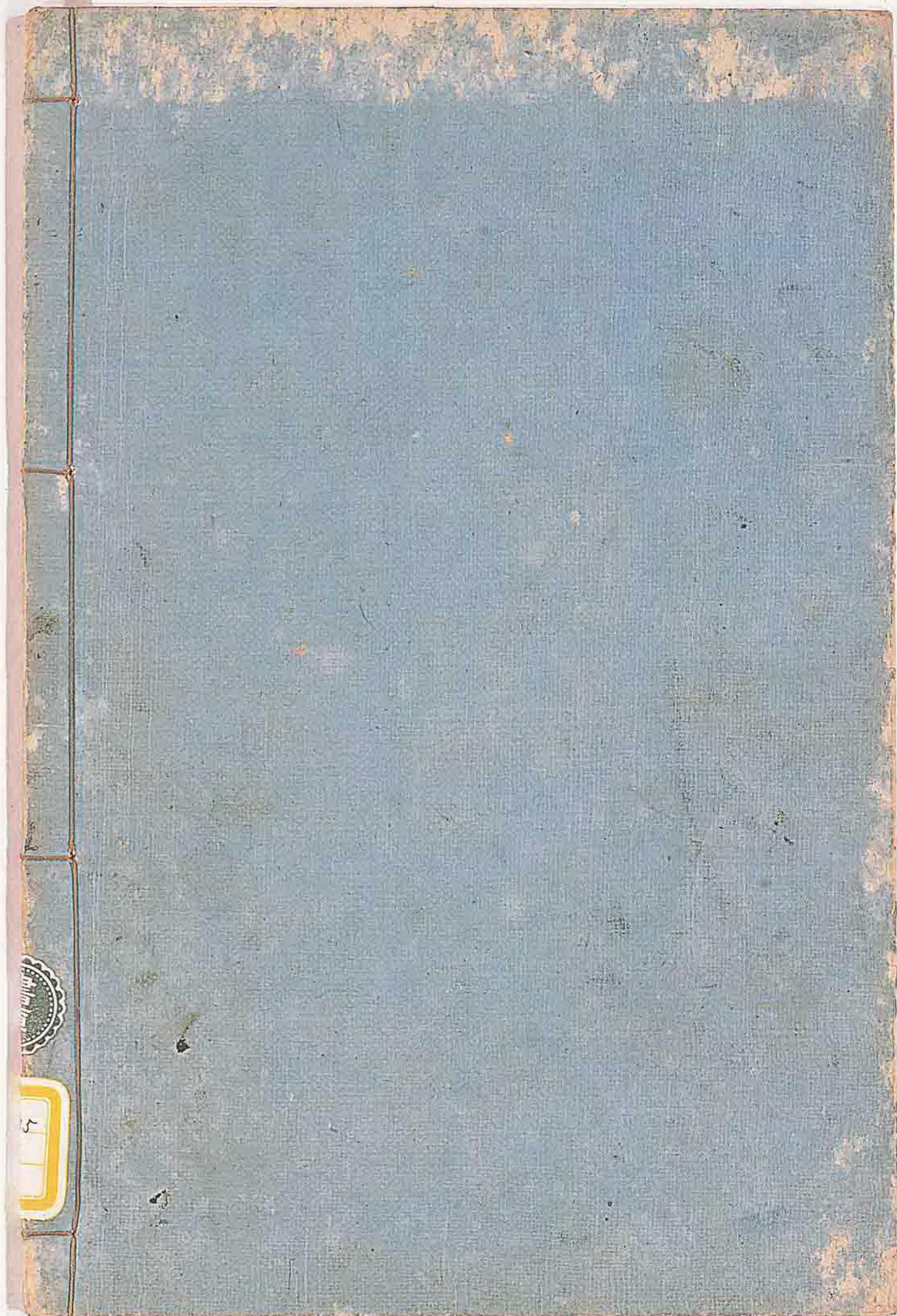
安宗

奥州津佐の任人也地狭
大位任孫系又多し

右特刀治工品を分て七等とす
惟甲乙御意志あるのみ申
お刀劔ハ輕御御意一お火の
上より御意も上より又ふ出
治工の志と造る者老の心と
の言を論ぜむ何んが良劔を
てお刀劔刀の取を空むるあ

天^{あま}夢^{ゆめ}を^をて^てあ^あら^らと^とし^し強^{つよ}ふ^ふ劍^{けん}相^{さう}の^の本^{ほん}意^いを^を失^うせ^せる^る故^{ゆゑ}
 良^よ劍^{けん}を^を得^とん^んと^とあ^あら^らば^ば平^{へい}人^{じん}を^を俟^{まち}て^て是^{こゝ}を^をお^おせ^せぬ^ぬ或^{ある}ハ^ハ良^よ劍^{けん}
 拵^{あづけ}で^でる^るを^を命^{めい}じ^じ財^{さい}の^の出^でる^るを^を各^{おのづか}々^々ず^ずし^して^て強^{つよ}結^{むす}せ^せぬ^ぬ治^ち工^{こう}
 も^も亦^{また}精^{せい}神^{しん}を^をと^とげ^げま^まし^し一^{いっ}世^{せい}の^の金^{かね}貨^わと^とあ^あら^らん^んと^と強^{つよ}弟^{てい}一^{いつ}
 せ^せむ^む道^{みち}を^をち^ちぢ^ぢる^る者^{もの}と^とあ^あら^らば^ば是^{こゝ}を^を治^ちす^すは^は命^{めい}大^{だい}宰^{さい}位^い列^{れつ}を^を守^{まも}る^ること^{こと}
 とも^{とも}其^{その}の^の善^よを^を行^なは^はす^すこと^{こと}は^は亦^{また}亦^{また}其^{その}の^の善^よを^を行^なは^はす^すこと^{こと}は^は亦^{また}亦^{また}其^{その}の^の善^よを^を行^なは^はす^すこと^{こと}
 不^ふ也^やと^とい^いふ^ふ

新刀辨疑卷之三終



慶長
以來
新刀辨疑

四

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5





6205

新刀辨疑卷之四

又略鑑

細ホッスグヤキ縵理

三原ノ末小笠原昌齊等此又多シ



中チウスグヤキ縵理

肥前高田南紀重國等ニ多シ

廣ヒロスグヤキ縵理

帛徹真改助廣其外諸國ニ多シ

小灣コウノタレ

中灣チウノタレ

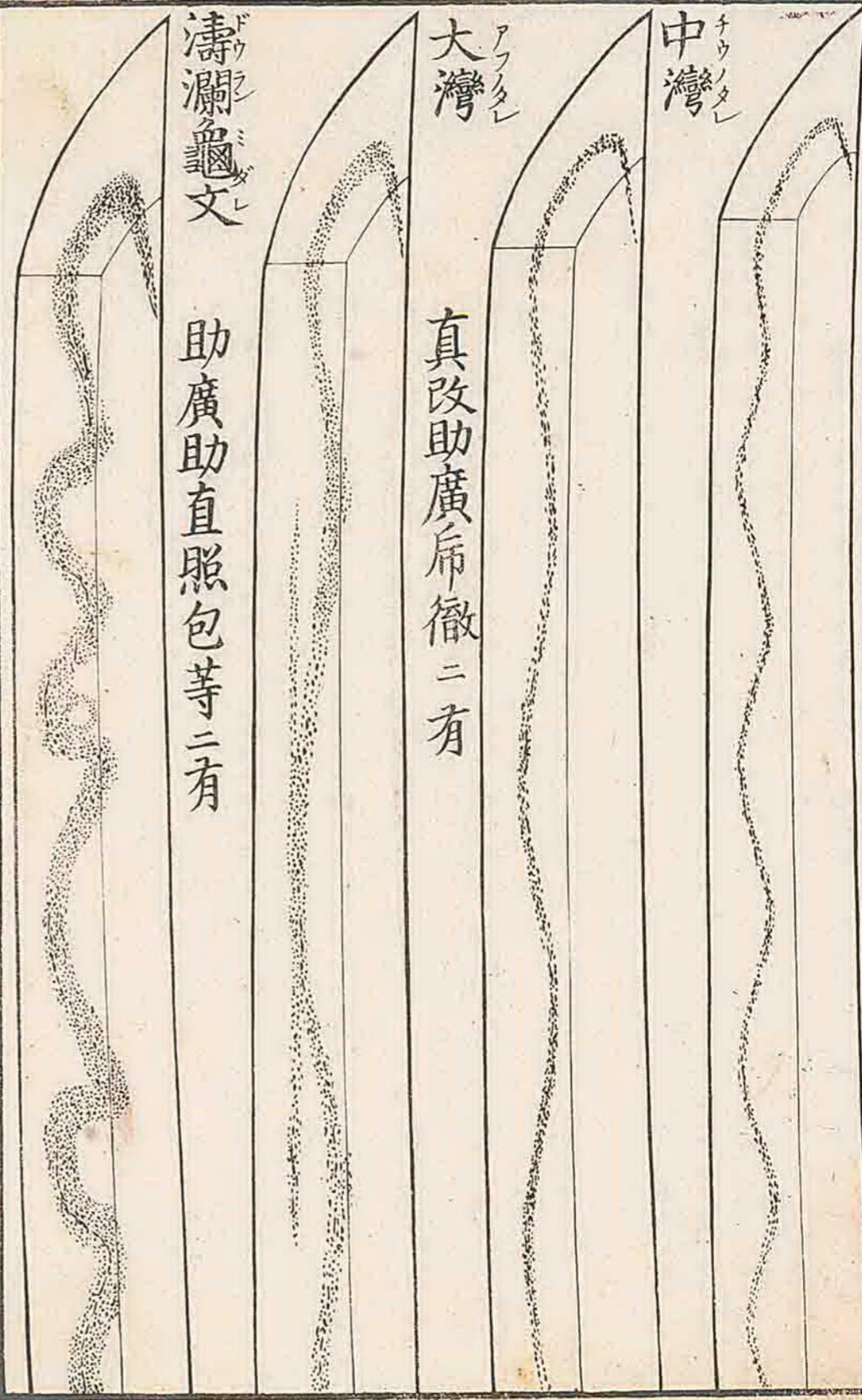
大灣オホノタレ

濤瀾龜文トウランミヅナメ

大龜文オホミヅナメ

丁子龜文テウジミヅナメ

逆龜文サカミヅナメ



真改助廣扁徹ニ有

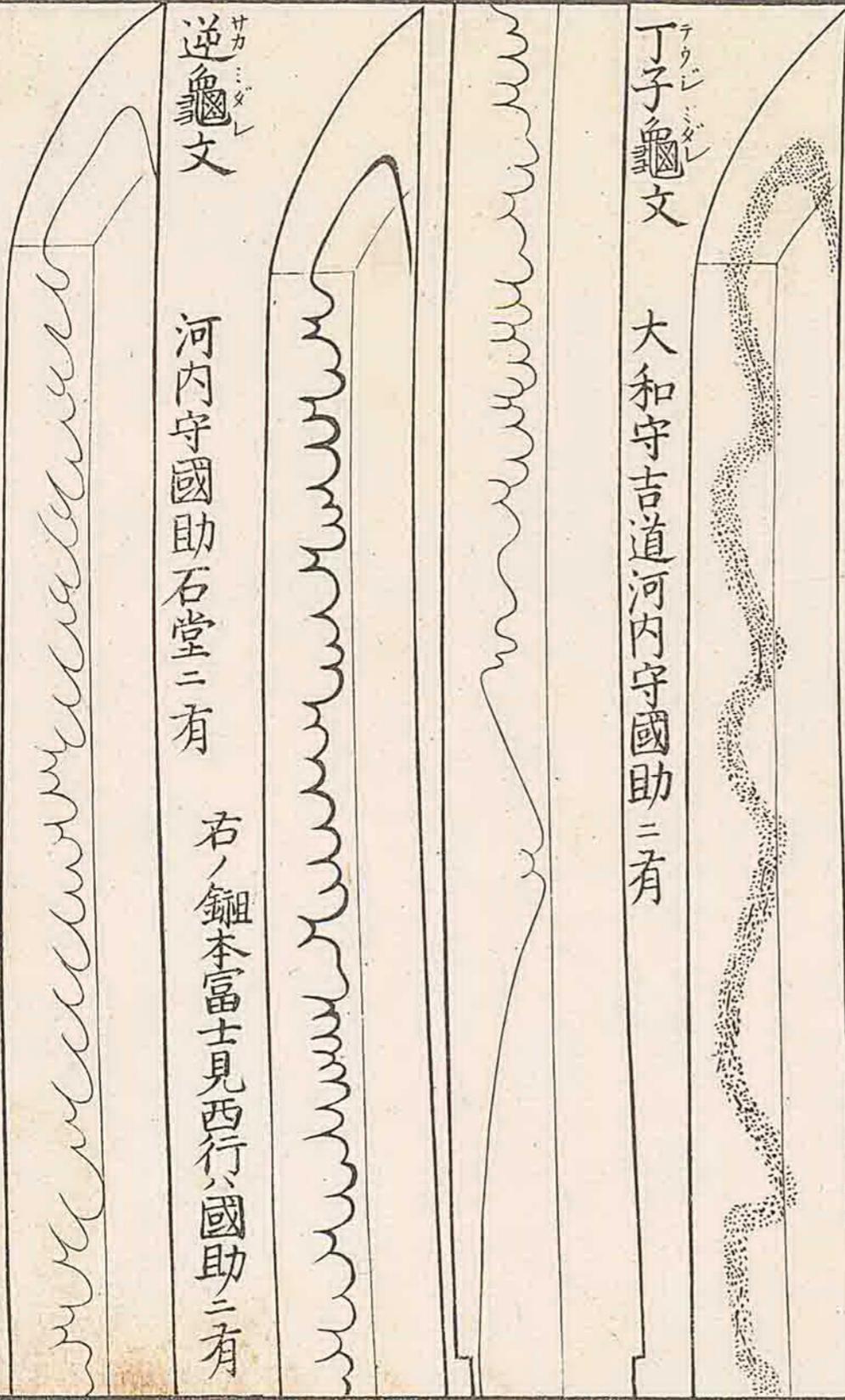
助廣助直照包等ニ有

包貞祐國宗重信吉國輝ニ有

大和守吉道河内守國助ニ有

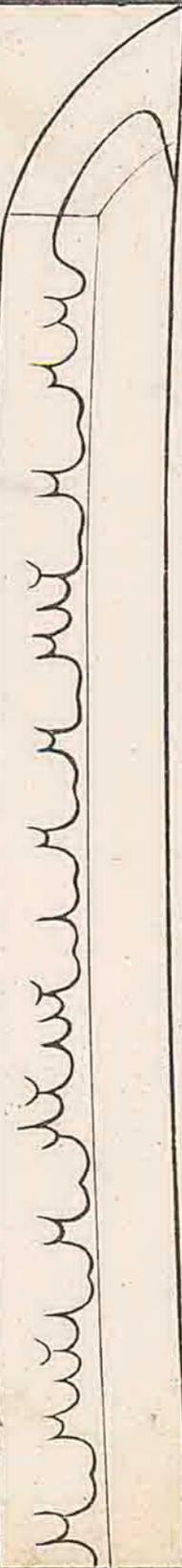
河内守國助石堂ニ有

右ノ鋸本富士見西行國助ニ有



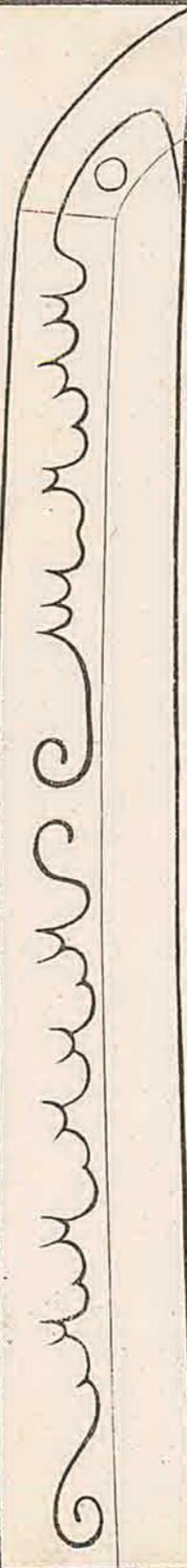
重花刃

大和守吉道河内守國助ニ有



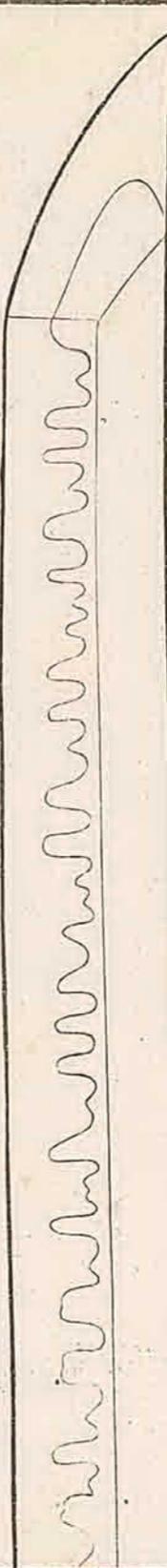
重花刃

吉道が上出来



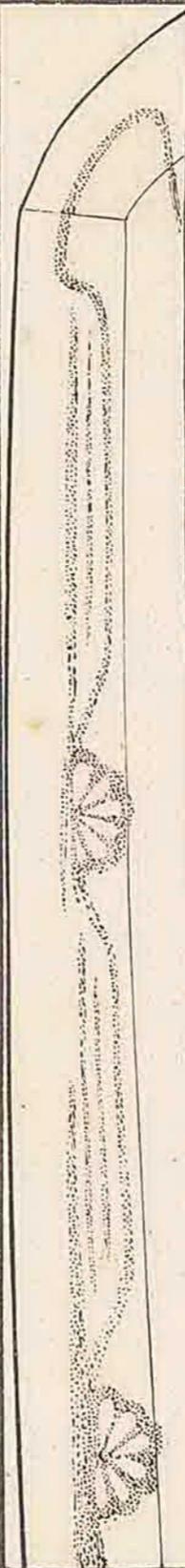
丁子龜文

近江守忠綱越後守包貞ニ有



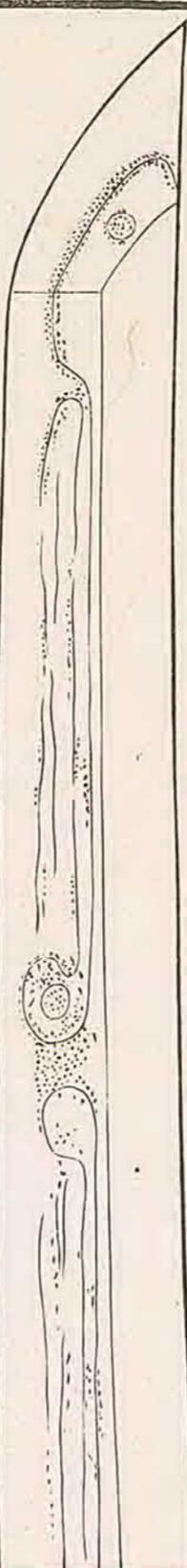
菊水刃

丹波守大和守等ニ有初代ニハ無



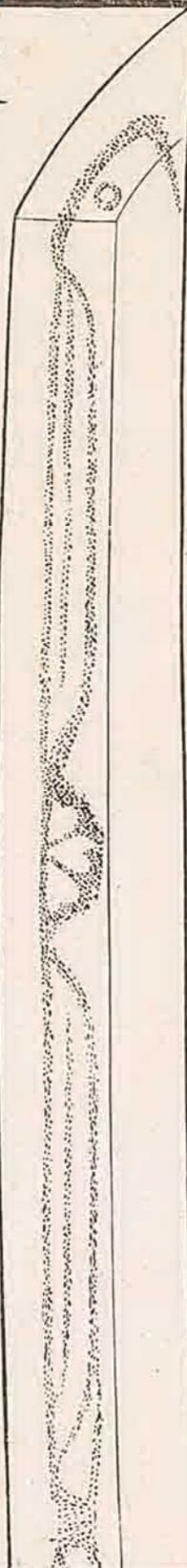
篠刃

京大坂丹波守代々門人ニモ有



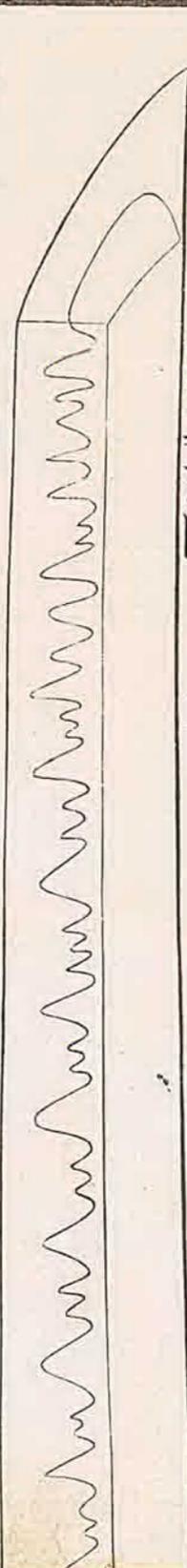
芳野川

大坂二代之丹波守大和守吉道此刃ニ妙也



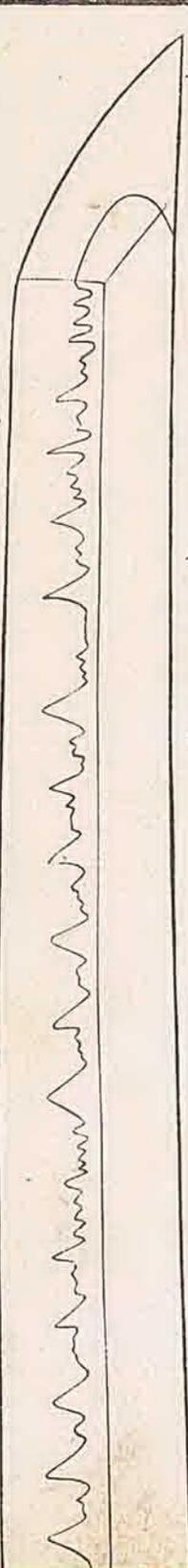
三本杉

關之末國ノニ多シ



鬼牙刃

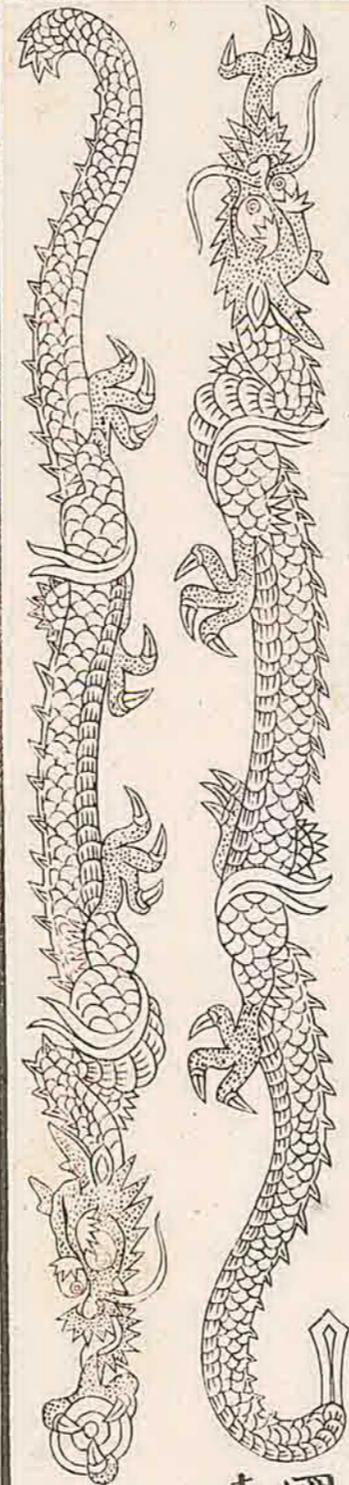
諸國ノ石堂ニ多シ





多

右二刀表裏彫忠綱作



國輝ガ
表彫
裏彫

ウラ
ハ
リ
モ
ノ

梵字ノ下ニ添樋アリ「一竿子」

堀川國廣

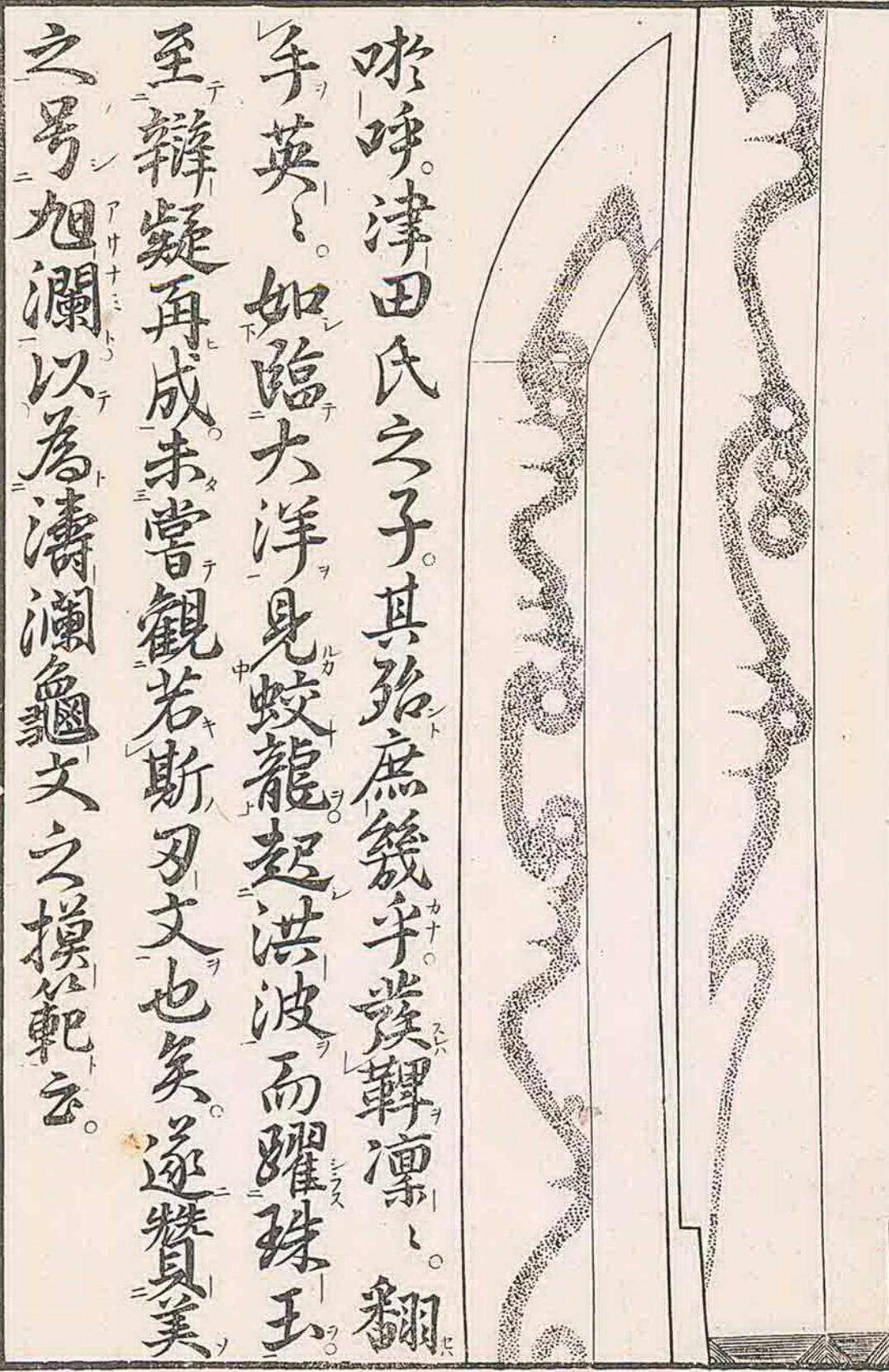
彫刻ハ埋忠明壽一門。堀川國廣一族。大坂真改一竿子助直。肥前忠吉宗長吉長忠長。江戸帛徹下原一類。越前數輩。諸國下坂。筑紫信國一家。末相州綱廣等也。其中明壽國廣真改一竿子忠吉宗長等ヲ以勝リト為ベシ

刃長一尺三寸五分 銚本幅一寸二分半 横手幅一寸

刃文如左圖

○家六〇八〇

○洋田部守助廣



嗚呼。津田氏之子。其殆庶幾乎。發鞞凜々。翻
 手英々。如臨大洋。見蛟龍起。洪波而躍。珠玉
 至鞞。疑再成。未嘗觀若斯刃文也矣。遂贊其美
 之号。旭瀾以為濤瀾。龜文之摸。鞞云。

中心軌範

五畿七道ヲ以分ツ

畿内

表不動裏龍ノ彫有

角峯

山城國西陳住

○埋忠明壽雕同作

ウラニ寛永三年二月日ト銘ス

埋忠明壽七十三也

角小肉アリ此刀ハ明壽が家ニ有テ權左衛門良久系ニ添テ贈ル中心ノ寫

寛永三年八月二十四日

山城國西陳住埋忠明壽作



彫アル短劔ノ銘

埋忠明壽

埋忠明壽ハ平安城の住人先祖ハ遠ク三条小鍛冶宗近ガ裔裔ナリ
 居住の地傳來の禮飾有とつゝとも可承故曉すは作地金細小銘
 白ひ漆ノ柄好壽壽又造りて細直又ハ先祖宗近ハ似ヤる物有帽子
 考ハ丸ノ子栗田口物又似里銘銀鑲マモ古風也山城國西陳住
 埋忠明壽と長銘の方出末物多し古彫材の名人也此のうまう草
 の俱利伽藍傳の礎石動氣音生多修言語不及難し又此地の如記

度き楯の中一平象眼ノ年れニ松宇治川の先陳昔の模標を入中
 銘目貫小刀柄も又至るまで高彫或ハ毛彫象眼ノ目細彫す物多し
 刀柄の品國廣同位の物也考す如と云

一書又明壽ハ澄お清お住壽命宗吉のつ人也故又明壽宗吉と云
 ココを按ずると不審明壽ハ宗近の嫡流也肥前吉吉の系圖不記
 する所も亦宗近の末流と云り然るば共又同派あるが本家を
 慕ひ討つ明壽ハ其の名人故忠吉も門人と云やし考あらん明
 壽ハ重吉ノ一子宗吉と云し事ハ可算す壽命の門人と云ふ事あし

埋忠重義

重義ハ明壽の子法橋明直也其次郎と云蓋藩小家庭に記す保刀劔
 の銘ハ重義と切埋忠重義と四ノ銘多し如て父の壽々作の如し彫

物もみお少くさるよ多也は作世不稀也中世あふはりも多し
是東山美平が師ある也し

角筆小肉

山城國住埋忠吉信

埋忠大和太極源吉信

吉信ハ大和守と銘するも有の壽が少男ある也明真も亦切一飲
元祿の以大和守と云吉信ハ二代めら未詳の生お少らるよ多也

角筆



切物埋忠彦作

ウラ。忠廣

埋忠彦ハ明壽が一割あるべし吉信彦一と云も知るべ又
彦と聞と云者一人有皆の壽一一族と云一た里彫物人可也

九ム子

忠傳三郎義平

又長二尺三寸一分

九ム子

東山住義平

柱目肌アリ

九ム子

平安城住彦隆

又長一尺九寸

柱目肌鈍多し

慶隆

長二尺三寸八分余ノタレヌ

九寸子

慶隆

慶隆ハ山城國洛中塔の檀木但し後ハ東山第の井の邊ニ住す故
 小東山住美平又ハ慶隆世切は作のる兄板有部サふ委々バ初ハ
 吉年又ハ義平共銘す梅忠傳三郎美平大ハ慶隆と切中外示しの銘
 有地狭ハぶんぐりりて松目の山荒荒けす水氣潤澤又湯氣の上
 々如し又板目彫りたるも有何事も又の上りて美々
 孫多ク光至爽々白ひるる深し初ハ園龜文の如き龜文多ク後

ハ大龜文大灣廣直又いらくの出来何事も一々
 地狭又見不有て尺分易し中心の仕立ハ切籠子より鑿みも一尻
 有上立と云ふし

一書又埋虫の書つて人より即明書り宅不崎食す仍て梅忠傳三
 郎美平と銘す後別居して京師塔檀木但し私に越者大塚と唱ふ
 埋忠朗壽は事とて破つて平屋東山ハ居移移すと云掛ハは祝也ハ非也
 らん明壽ハ寛永の銘ハ七寸者余案美平ハ元禄寫示正徳の銘是明
 壽の子孫隆法極明生つて人あらん

小肉

信濃守藤原國廣

又長一尺六寸八分

小肉アリ

慶長九年十月吉信濃守國廣作

又長二尺一寸五分小龜文鑑ニテホツル

依賀茂祝重邦取堅打之

九字

山城國堀川住藤原國廣

又長二尺二寸五分漫理板目肌アリ

慶長十七年八月日

國廣ハ京一糸堀川住信濃守也。此作名人と云ふ芝野の禱する所祥
 矣。古作の遺風有て一辨尋常に造り地狭細として小銘白ひ作
 し後集り地を山ぐ里と大和物あとの肌の如く記せり是備編
 也と云ふし殊の外細直又不出来しハ紫田口物も似たり者
 又強く出来て荒鏡多く井上出取似たりも又二寸銘小銘物多し
 此作年を檢り切作知造不作又山城國津和野ハ洛陽と銘するも者
 一書又國廣ハ元來日州飯肥伊東の部居して左京の中故者て人殺害す
 事難を避て中野里利の學校小住す又外國廣者根州大坂伏見西登河
 小も住すと云り指別人あせむし中野世穩あは堀川國廣とて別一末

九三テ山ヒクシ

越後守藤原國廣

越後守藤原國傳

又長二尺三寸五分

越後守藤原國傳

小肉アリ

小肉アリ

越後守藤原國傳

中心ノ刃方九レ

國傳ハ山城國位人越後守藤原也又二字少切抄多しは作地録細リ
小録自の深し於て國廣々作又同し來國後の如きりの者火加城ハ
聊々する方亦多きも地重乾て思ゆる程ハあはれ

一書小堀川國廣弟子國友中子和泉守國友大坂又住すニ云抄ふ
是間亦を以て記すゆへ友と傳刻を誤りものあらん堀川小國友と
云洲治河はあど一当刃切又ぎらんや國傳あま疑べらん
然ハ井上貞政ハ以國傳が孫と見いたす系圖ハ國廣々弟子
國貞と見たり

九寸子 又長一尺八寸二分

國安

九寸半 又方面トリ

國安

大ノタレスナガレ

國安ハ平安城堀川國廣々弟也と云り國政同人あるを以ては作也

て國廣く似てを鑑子ハ左ノ如きハ峯ハ菱垣也之ヲ銘多し

九ノ字

出羽大掾藤原來國路

長二尺二寸六分半

國路ハ堀川國廣ク字子出羽大掾友原來國路ニ銘ある物初代也此
作於て國廣ク似たり能出本ノハ龜文足らざる大掾小佐有
本國後ノ龜文少も似たり初代ノ銘片下りあり初代同銘有て治牙
不劣れり或云豐臣家ノ鑑治あり一と

小内

藤原正弘

正弘ハ後集小國廣ク甥もて代鑑治を勤ると云地鏡細小田舎又小

銘有垣忠吉行同位多るし又携きたる物有或云大隅巫と切も
有と又日別古屋任大隅巫孫系正弘とも記せり

角峯

伴加具守全道

初代銘

角字



伴加具守藤原全道

二代目

ウラ日本鍛冶惣匠

角峯

伴加具守藤原全道

初代

○伴加身守藤原全道

京初代ナリ

角字
○除日本後治示正三品伊賀守藤原全道

今時ノ伊賀守門人西人明和安永ノ作也

日向國福葉伊豆守鬼道
○総列住落合彌重昂明輝

全道ハ京都五鍛冶の一人自ノ御鍛冶ト唱初代ハ慶長元和寛永以也ハ作地鐵むらやりにしく國産ガ如鉄ノ似たり多ク也直刃也延壽ノ末又ノ似する物者古風よりして及之重厚ノ位者又強ク

屬ノ起出來も者初代も葉を切し子ありと云々たり二代目も上手也保以本方あり也

角字大龜文強クシテ小縁白ニ深シ又長ニ尺五寸

○和泉守末全道

角字

大匠師法橋末栄
○和泉守藤原末全道

角字

○和泉守末全道

和泉守全道ハ伊賀守ノ別家セシ也

一書小云時の所目代伊賀守ありハ和泉守と切和泉守ありハ伊

かまきり切しこ能世宗象ハ二代目伊賀守と号して別名せし者ありん

平安城住正俊

「角ム子」

「角峯二代目故」

「初代ナリ」

越中守正俊

「角ム子二代目故」

越中守正俊

「小内アリ」

越中守正俊



正俊ハ平安城住藤原正俊と切し初代ヨリ後ハ越中守とも切し也此作地狭玉て剛く關和象も兼定の象文の如く帽子似疾回りて青江の物刀とも云ん起物也其象の象切し冬別々堂院也數代同銘多し二代ヨリハ以弟少多里も云ん治の一人ありしが後ハ伊賀守金道と同居す四代目正俊ハ伊賀守子ありとも云ん

伊波守志道

二本ハ角峯也京丹波守ノ初代カ大左ノ如ク見事ナリ

伊波守志道

「角ム子」

伊波守志道



京丹波守ノ二代目ナルベシ

延寶元年十月吉月



卅波守吉道
嫡子藤七郎

「角字」

「ウラ」之禄八歳二月吉日



卅波守吉道

「角字」

卅波守吉道

「角字」

「角字」



卅波守吉道

四代目也



卅波守吉道

「角字」必廉ヤキ

「角字」六代目ナルベシ



卅波守吉道

「ウラ」〇寶曆十年辰八月吉日



卅波守吉道

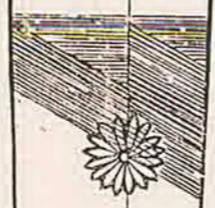
六代目也上手

吉道ハ山珠國系師の人丹波吉ハ濃州關領治の末也元和寛永の以
よ至今ふ至て連絡す元祖ハ地鉄細不割く地の中一面より小銃より
為又者白ひ浮くこ白く大左のぬき物ありは作短刀多長劔ハ稀

也都て丹波もハ摺極取の中すべの心者世吉道よきみちに限りかぎると顯あふ
 又ゆるハ稀也ゆめ鑑子かみこ小筋達こすぢだてふしくく銘なづのあ字あ者ありし切角きりかく也也中ちゆう心しん
 の先細し二代目より々の六代目迄ハ一代いち十じゅう萬まんのあ葉あを切きを大小
 の違ちがひ者もの二代目ハ父ちちもも劣かくく三代目も亦上かみ手也四よ代ハ今いまの
 丹波書目位にの物也もの叔後集しゆくごしゅうハ大坂丹波守おほさかたんばしゆ手也てと書かきし里さと按お小こ非ひ
 あらん京きやうのえ祖そハ慶長元和けいぢやうげんわの比也なり大坂丹波守おほさかたんばしゆ大和守おほわかしゆ家いへの初代
 ハ第治寛文だいぢげんぶんの比也なり是こゝ切きりしてる村むらハ京きやう二代目丹波守にだいめたんばしゆの兄弟あにハ大
 坂守家おほさかしゆけのえ祖そふるる屋いへ起おこ者もの也

角筆初代

○近江守久道



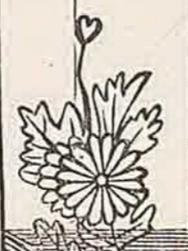
角筆

○近江守源久道



父子両作也中心長クシテ斯ノ如シ

○久道嫡子源未久次



角筆

○近江守源久道



平作又長一尺八寸

二代目金四郎也

○近江守源久道



角筆

又長二尺四寸五分

「ウラ寶曆十年己八月日

大龜文

三代目

久道ハ京都五部の一人近江ち、祖也金道りあり出た里以作地
 狭細又強く小録多く白ひ糸糸し関関兔兔又多し直直又又ハハ又又の上上きわどく
 活活て帽子帽子能能志志ありて見見事事ある金金四四郎郎の如如く聲聲花花ハハ形形れど古
 風風傳傳實實の鑑鑑治治也十六葉の葉一編編鑽鑽りてささりくさ切切輪輪りて小小さし
 二代目初ハ初金金四四郎郎久久次次と切切後後近近江江源源久久るとあり也也枝枝葉葉切切は
 作作地地鐵鐵細細又又名名端端小小録録多多く白白ひひ糸糸至至て深深くくのの大大龜龜文文廣廣也也大
 濱濱何何も花花やや末末子子之之俗俗おお及及びびす京京鑑鑑治治大大龜龜文文のの一一ありし
 大坂津田田坂坂倉倉此此久久道道大大龜龜文文之之對對も云云全全物物也也之之代代目目ハハ享享保
 元元又又より憲憲曆曆中中に存存命命す元元文文四四年年江江戸戸へ召召ままてて搬搬あるも有有釣釣命
 遙遙奉奉於於京京師師作作之之享享保保十十五五成成年年と切切て奉奉りも者者由由也也はは作作父父もわ
 有有ると被被上上手手也也
 一書一書書ハハ肥肥前前時時京京任任建建部部近近江江源源久久道道兼兼治治寛寛文文のの比比嫡嫡子子久久次次と友

作作も有有元元祖祖河河葉葉地地人人葉葉師師吉吉高高左左衛衛種種永永と云云者者治治承承平平子子源
 と号号す正正次次子子近近江江源源久久道道嫡嫡子子久久次次父父子子也也嶋嶋原原小小住住す又又禁禁裏裏御御用用勤
 る久久道道者者別別人人也也五五鍛鍛治治本本金金道道と同同名名ナルル故故之之治治近近江江守守久久道道と切切と云
 按按一一書書のの嶋嶋原原住住京京都都近近江江源源久久道道と同同人人ありる疑疑ふし犯犯す之久久道道
 有りし年年未未だ聞すと之之をを取取て考考考に據據據持持せれ彼彼國國へ
 仍仍しるありん又又之之治治ハハ當當ふ三品品ありる一一書書ハハ聞聞信信不不記記す故誤誤と云
 覚覚ゆゆ五五鍛鍛治治ハハ之之治治と稱稱す
 角角犀犀又又ハハ九九年年

平安城
 ○相摸守義道

ウラ 寛延三年二月吉日

京京大大佛佛通通不不住住す近近江江源源久久道道一人一也也一一説説ハハ和和名名者者兼兼道道がが人人とも云
 是是作作地地狭狭小小なりと之之代代目目のの久久道道不不能能似似するも兼兼又又兼兼ありも者者大

龜文及び花やう木也藝別の大守扶持し終つて人平七幼季の子を
後兄せしる不孝ふして二人共の事等平七八榎がさるゝて上事也

山城國住藤原信吉

信濃守越前守等ノ父京信吉ノ初代也

豊後守藤原國義

西作也大龜文砂流

高井越前守源信吉

越前守信吉ハ大坂の所小旗小書セリ豊後守ハ京師及ヒ江ノ邊根
々々少濱等下々に佐大坂也打し之越前守在京せしる者也

信濃守源信吉

ウラ洛陽以南蜜鐵作之

山城守藤原歳長

直刃 又長一尺九寸二分

平安城藤原弘幸

小肉

中直刃白澤

山城國住平菊廣

小肉アリ

冷陽藤原孫三右衛門尉廣信

上手ニハアラス

平安城藤原國道

傍レタリト云ベカラズ

後集より國多しすと記せるは平安城の人ありん又祿州宇和郡吉田の郷居として暫く互京せしと告ぐる人の蓋し日人あり也

小肉

○山城住國光

享保頃ノ作ナルベシ上手ト云レズ

丸小字

○輝邦入道紀亮

○於和列邦心造之

輝邦ハ大坂丹波守初代吉道が門人越中守包國の子也輝邦も若年
の時ハ越中守包國ヲ襲すは作父の劣ぬ上手也大飛又彦又彦多し
一書又輝邦が父包國ハ初大和守吉道二代之品四段を擧ぐ門人也
後大和國守控伯耆珠包吉の末葉也坂任中川陸奥守包原の陸
奥守包朝の門人と成銘も播州の住包國と切生子入道紀亮あり
河内横小路大和郡山又住す紀亮が子も郡山又住すと記せり

小肉 峯ノヤスリ見所アリ

初代道和

和泉守藤原國貞

小肉 峯ノヤスリ見所アリ

初代道和

大坂和泉守國貞

丸峯

初代ナルベシ

和泉守國貞

小肉アリ 刃長二尺五寸

和泉守藤原國貞

中泉又ワヨシ

丸峯

和泉守藤原國貞

小肉

慶安三年八月日

國貞ハ攝州大坂住堀川國廣ノ門人ヨリ井上忠政ノ父也於大坂和泉守國貞ト切シモ和泉守藤原國貞ト銘スルモ同作也

一書又堀川國廣ノ人國友ノ子大坂和泉守國貞ト云國友ノ評京ノ部小詳志生改作ヲ必カレモ國傳ハ同位ノ作也於大坂と切シ

由來ノ多シ

和泉守國貞

是ハ真改若年ノ作ナリ

井上和泉守國貞

又ノ長揚残り二尺三寸五分 大丁子多丸文

寛文二年二月日 指蓬

井上和泉守國貞

中丸文強シ 又ノ長二尺三寸六分余

寛文五年二月日

井上和泉守國貞

葉ノ中ノ丸今少シ小

小肉

井上和泉守國貞

又ノ長二尺五寸三分

大灣 砂流

寛文六年八月日

井上和泉守國貞

又長二尺一寸一分 大灣強シ

寛メヤ一又八分

九合子

井上和泉守國貞

又長二尺一寸二分

寛メヤ一又二分

小肉アリ

井上真政

又長一尺七寸四分 中直又

寛メヤ一又二分

井上真政

中直又湾白ヒ深シ又長二尺五寸

寛メヤ一又八分

小肉アリ

井上真改

又長二尺三寸四分廣直又

延寶三、三月二日

小肉アリ

井上真改

又長一尺七寸八分 大龜文

延寶九年三月二日

小肉アリ

井上真改

天和二年八月日

年号月日カク切タレモアリ

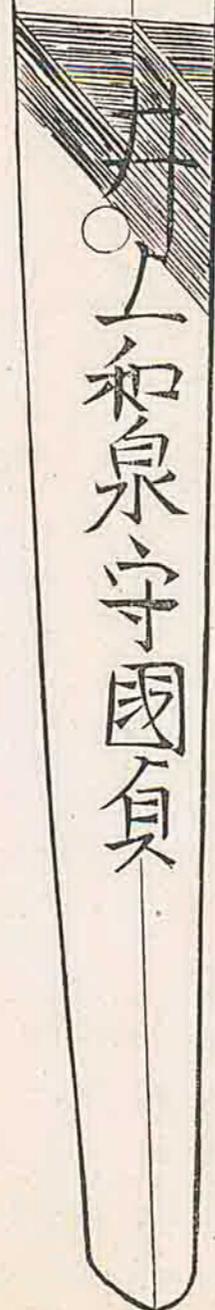
天和二年八月日

井上出及ハ揚州大坂住人 和泉守國貞の二代目より明曆癸卯の以
ハ井上及ハ藤原の字なく和泉守國貞と名付切偶年号月日を切
ハ者ハ改ハ葉^ハの如し寛文之四年の以より^ハの如く切也
寛文の末出及^ハと名付又初の葉と名付抄書述^ハ切所者寛文四年
年より年号月日も葉書小切是^ハ大際也此作初の初ハ丁子龜文
関龜文又重花も有^ハ以^ハ地^ハ録^ハて^ハ強^ハく^ハ録^ハる^ハ物^ハお^ハし^ハ辨^ハも^ハ別^ハく^ハ也

いとして又の上はて先也寛文の中はより申也又津大島文何事も
 地鉄籠お籠を先光里白ひきてゆく勢ひ勇て何事も物深く能く
 出集する口昔の事即入道正室も劣さる物あま難ひ板目丸紙ひ
 ほくつりも造るる多縁少し伸て横手筋のふまて地鉄指出して帽
 子丸く締りて少し尖る心者横手筋より帽子の内縁細くお白ひ別
 て深く強く返る也何れも帽子者さつりごも丸く返りぐるを嘗既
 す中心の形縁子或ハ彫物の手際路の手跡余人の及ふ所あるべ
 實小務する名人世の賞する不宣ある哉

一書其元祀祀國古屋位人國廣上系一一条堀川又住す國廣
 がつ人國及子お名も國欠揚州大坂住二代目お名も及お國欠
 後井上和泉守國欠と切或ハ平國貞又ふふ守國欠とはの如くも
 切寛永ハ年二月より菊を切井上真改と改る彫物の上手也井上

ハ郎と云之代目ハ門平と云之も和泉守國欠と切大坂まで乱心弱
 死すの代目川崎作と爾後つ平と改む日別版肥不住し子孫連綿す和
 泉守國義も中事也同書又井上生及ハ伊勢神戸國助と事也とあり
 按ふ者も糸此と北あらん予も糸の以平安城研師井上者も街
 と云者も聞しに生及は酒一と中井お名もあ切扱て溺死すと云
 者も聞ふハ生及は彫金の友且彼が研師也扱又寛永ハ年より重と切と
 也寛文よりして其ハ年の場合す此もハ寛永寛文の違おも何れも是し
 此説用ひがし



井上和泉守國貞

井上生及り子也後集又國古街つと記也里は作父より劣ぬきとも
 上二也地り細細く小髭白ひも大島又お多し父作の如く強うべ

加賀守貞則

又長一尺五寸大和守吉道ノ二代目ニ似タリ

延宝ノ末ニ書クニ

鈴木加賀守貞則

又長一尺八寸二分

大龜文

又方九寸

延宝ノ末ニ書クニ

加賀守貞則

鈴木加賀守貞則

ウラ元 禄二ノ八月日

大ミダレ又

貞則ハ井上忠政ノ門人トシテ佐々木ト号シ此作地鉄細小麿ノ荒
 籠小籠多シ自ヒ至テ深ク又強ク勇テ忠政ノ如キ物者延宝天和
 享ノ比造モ多ク御賞義スル事ハ招お仕度ト切後奥州岩城ノ下
 マテノ作スル玉又ヨリテ々出来物稀也中心ノ仕立忠政ヲ寫シ鑪
 ハ助成ヲ學ぶ中心ノ又方を丸クセーハ極ク出来物也子孫岩城小
 相續スルニ欠平ハ一ツあるべし中心ハ貞則小似テ作一様ハかこれ

○伊賀守貞次

貞次ハ貞則ガ弟斬木甚者圍門と云地鐵細小ヨニ其業録白ひ漆し
貞則ハおとととる物ヲ其も生取かつ人也

九ノ子

國平作

白ひ漆く強し又長一尺五分

○正徳五年二月書

國平ハ井上真改うつ人也地鐵細小録多く白ひ漆し國平造と云

字録也何生取ハ似し物者中心仕立其取を寫し極大前造也

○八幡北窗沿國造

又長二尺二寸八分大濶

○天和二ノ月三日

○北窗沿國造

ウラ。○天和二ノ月八日

治國も生取り弟子亦里惣之衛と云至て上手也録の鑽又子ある
事比屋取りの亦し至世修物多し終く味すべし

奇峯

奇峯ハ勝久が評に井上生政が隠名あまぐしと云里見あるふ似り
然れども予が親と少の物と生出来貴す屋切あし備後の識者と
侍

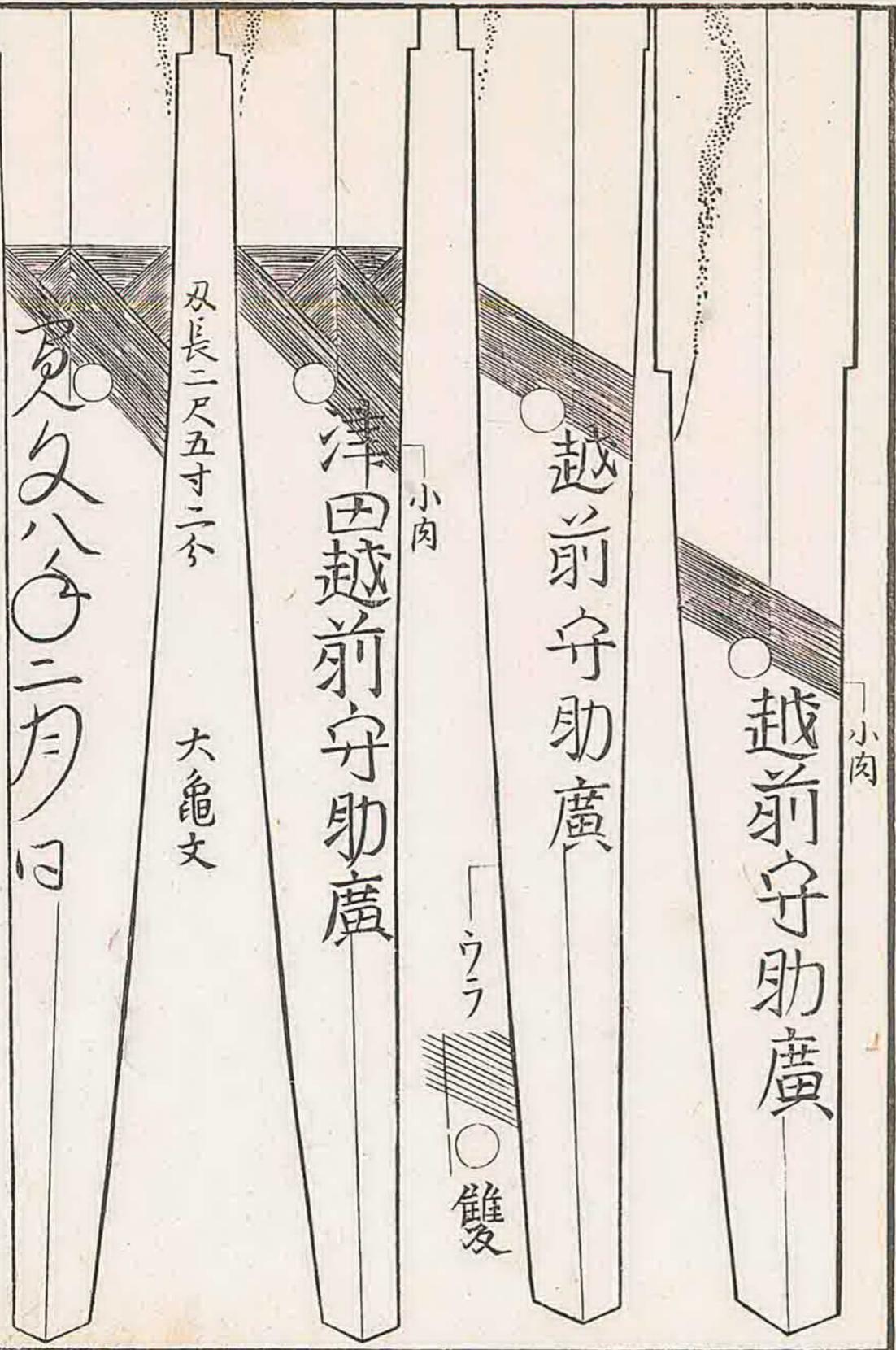
「角峯ツボロナリ」

捕刈大坂住助廣

「小肉アリ大龜文ツヨシ」

越前守藤原助廣

大坂初代ツボロ也



小肉アリ

津田越前守助廣

大龜文玉刃

刃長一尺七寸二分至テツヨシ

寛文十二年八月日

小肉アリ

津田越前守助廣

廣直刃白ヒ至テ深シ強キコト云ベカラズ

刃長一尺六寸八分半

刃方丸シ

寛文十二年八月日

津田越前守助廣

刃長一尺七寸二分半

寛文十二年八月日

津田越前守助廣

刃長二尺五寸四分大龜文 中出来也

寛文十二年八月日

津田越前守助廣

又長二尺二寸余

大灣

寛文二〇八月日

津田越前守助廣

又長二尺五寸二分半

大灣ツヨキ出来也

寛文六〇八月日

小肉アリ

津田越前守助廣

大龜文白ヒ深ク鈍多シ

又長一尺七寸四分

四方丸ニ四分反

寛文六〇二月日

小ニクアリ

津田越前守助廣

寛文七〇二月日

又長二尺五分 大龜文強シ中鈍也

キンサキ

同月日作之

近江守高木使助直

肉アリ刃長二尺四寸五分

津田越前守助廣

廣直大灣 銚白刃

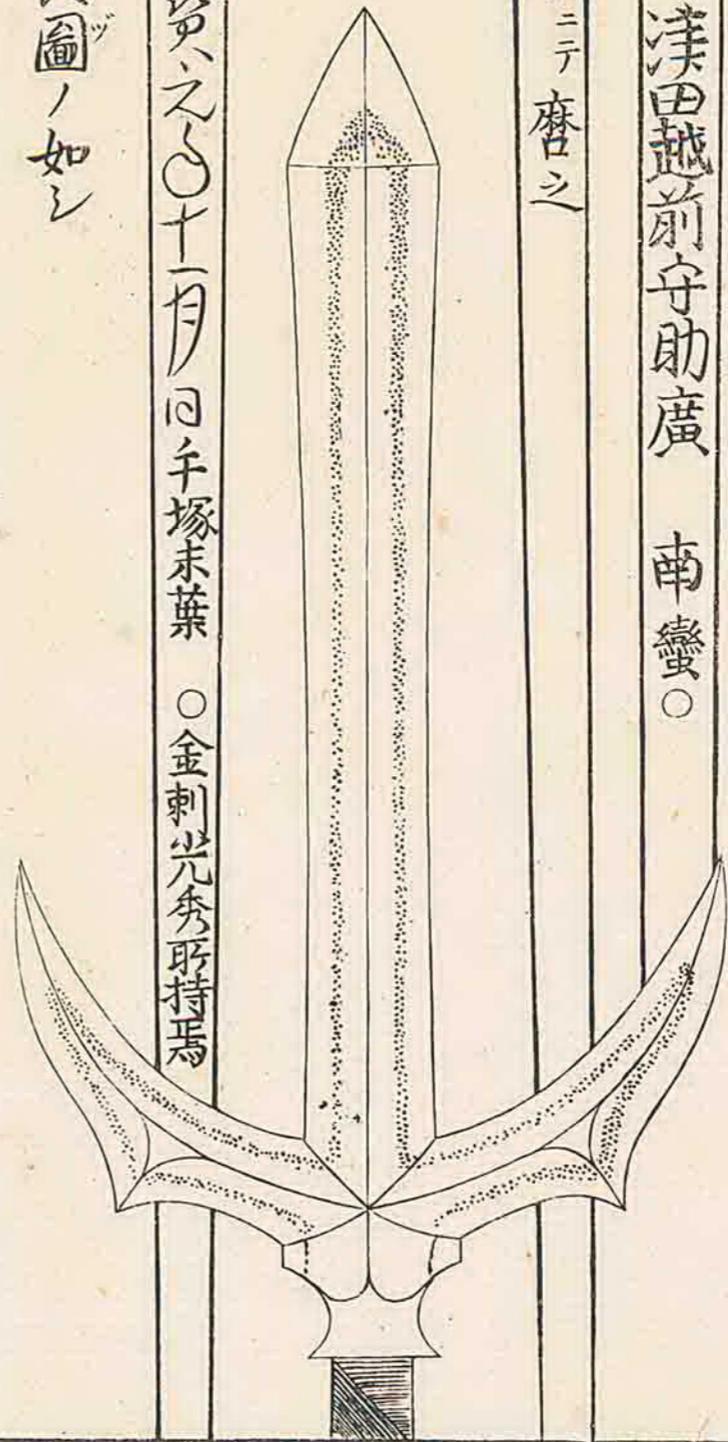
津田越前守助廣 南蠻

瓢箪鐵ニテ磨之

ウラニ

寛文十一年日千塚末葉 ○金刺光秀所持焉

鎗長圖ノ如シ



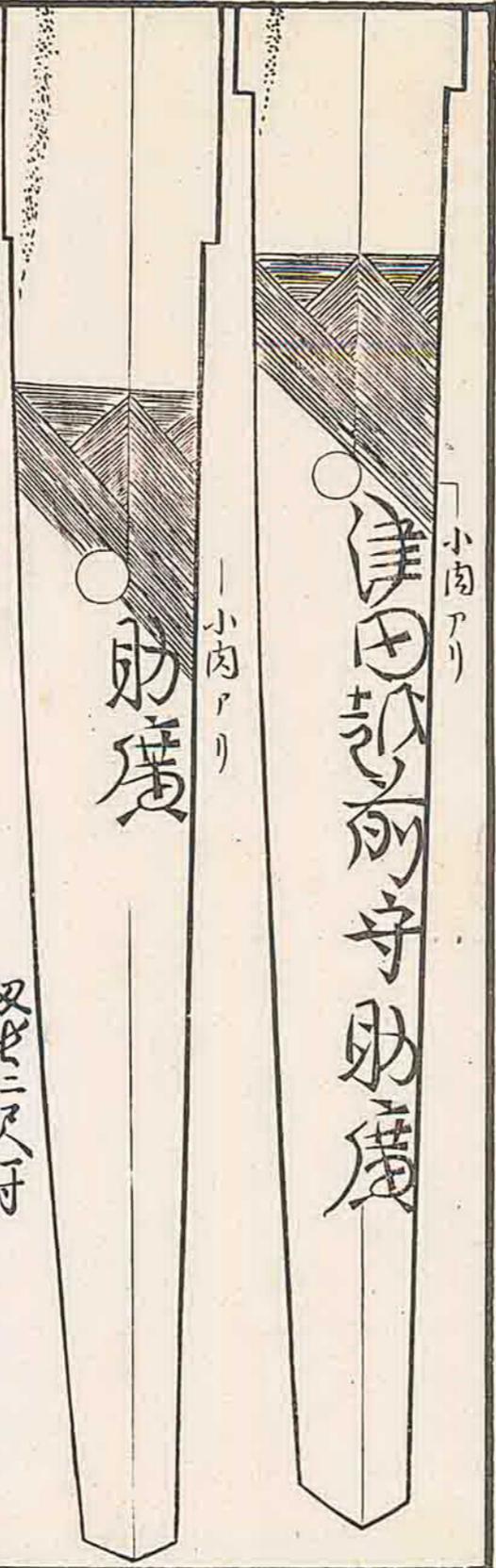
小肉アリ

津田越前守助廣

小肉アリ

助廣

刃長二尺四寸



助廣ハ振州大坂の住人生國ハ揚州也津田助廣父ヨリ振州佐藤原又越前守也切也二代目も若年の比ハ越前守助廣と申す切也父子同銘也といへども銘の形違て孫也といふ事ハ此作地録細又銘白ひ有めハ小龜文丁子龜文多し後ハ唐文大灣紫流有て是事ふる者多し世人此を助廣と稱す枯お津田の數打して大坂へ来て初代國造りつくと爲て平重と勵津田の稱知れり其子共し西海内

の名人津田越前守と切て中名世ふ多し中心裏の方目打穴の下雙
 の一字を切しを初代とほらう作と世奉て稱す拙小洲あ〜ん雙の
 字切てる作數十をえらふ二代目若年の銘不疑ひかしてほらと唱
 一ハ中身書子昔常小麻服するもつて諸人抱らうありと認しより
 のすこ間ぬれ津田の稱をこも忌親曲廣い〜んぞ拙ほらの意を
 會む雙の字を切るぢや二代よ至ては津田と切氣格の故津田を切
 ぢらう〜つ雙の字もつます〜て切しあ〜ん

二代目は越前守ハ甚〜と云萬治寛文の初めでハ誠前と斗
 切寛文中以よ里は田越前守と切て手号月目も切細あま〜り
 切〜無父子は銘あま〜れ中心のは直後のみあま〜れ父子取白之年
 号及び津田を自ひぢらう壮年の作ハ銘さ〜造り里みハ中氣文丁子
 氣文也地織強〜銘あ〜寛文の中以よ里と反廣直又大湾湾深氣

文何きも花や〜也切て摸標のり地研一但湾小兩と直又丁子氣文
 大〜も湾深みだれ銘〜にりや〜を直し〜と〜と〜大坂
 新刀の秘所也を丁子氣文ハ直又湾大氣文の如くす〜り〜ハ湾湾
 深大氣文也又の如きハ若銘小銘深直自ひ保〜り〜を〜り〜
 ものあ〜す相又地鉄細〜強〜り〜弱〜す大加減至極の〜を〜得造
 里方ハ丸鋸ひ本控を居造り甲伏書也鋒伸て帽子丸く少し尖る心
 有横手筋の所までハ又幅少し狭〜し〜帽子不位をつ〜る〜也帽子
 の中ハ総細又自ま〜色むが如し〜生爰い〜る〜ハ中心平め〜し
 て銘ひ〜し〜銘子ら〜〜と目能立て〜る〜也拙出〜の〜名所あ〜二
 り所有銘ハ在流〜〜〜〜〜
 未記事實不絶世の名人〜〜〜し〜を〜て〜お〜感す傍物多
 一銘是古正〜〜自銘の如〜不〜あ〜保〜銘あ〜銘を〜思〜く〜

吾銘ハ別テ銘見事
或曰廣下弘又作ると予未だ是録之す是非明白ならず

近江国住助直

角字

近江守助直

長二尺三寸八分

寛文十一年八月日

近江守助直

角字

寛文十一年八月日

近江守高亦住助直

九字

北摂別大坂以南蠻鐵作之ト切ルモアリ 直又ニテ長二尺三寸六分

近江守高亦住助直

近江守高亦住助直

九字

近江守助直

ウラテ

九峯

津田近江守躬直

又長二尺一寸五分

大龜文

天和二年八月 高木

津田近江守躬直

ウラ 文 享三 八月 日

助真正江國豐海郡桑木村の人西ち信若高果若四郎次宗より出所
也初正江國佐田正と切後ハ近江守助直と切實文の某号と切又
延寶正ハ正江守為末佐と切初代助廣つ人奉一が後ハ守と切

津田近江守助直と切年号の若一江州桑木と切佐直と切別て若守
名も物也此作地録にて細又若尾小籠多く自深し津田助廣あり
ける名人世の名也直又大津大龜文一様ありて至て有利也中心
の仕立助廣が如くして佐子助廣より為末正と切奉初ハ角ありて桑
佐と切一は正丸奉あり
一書又正江守藤原の助直と記あり助直藤原を切一ハ正と見
すは説名實

若狭守源廣政

廣政ハ津田助廣の門人也出来甲乙有宣き物ハ助廣不能似る

○撰刀住助高

海田助高よりせむ物者

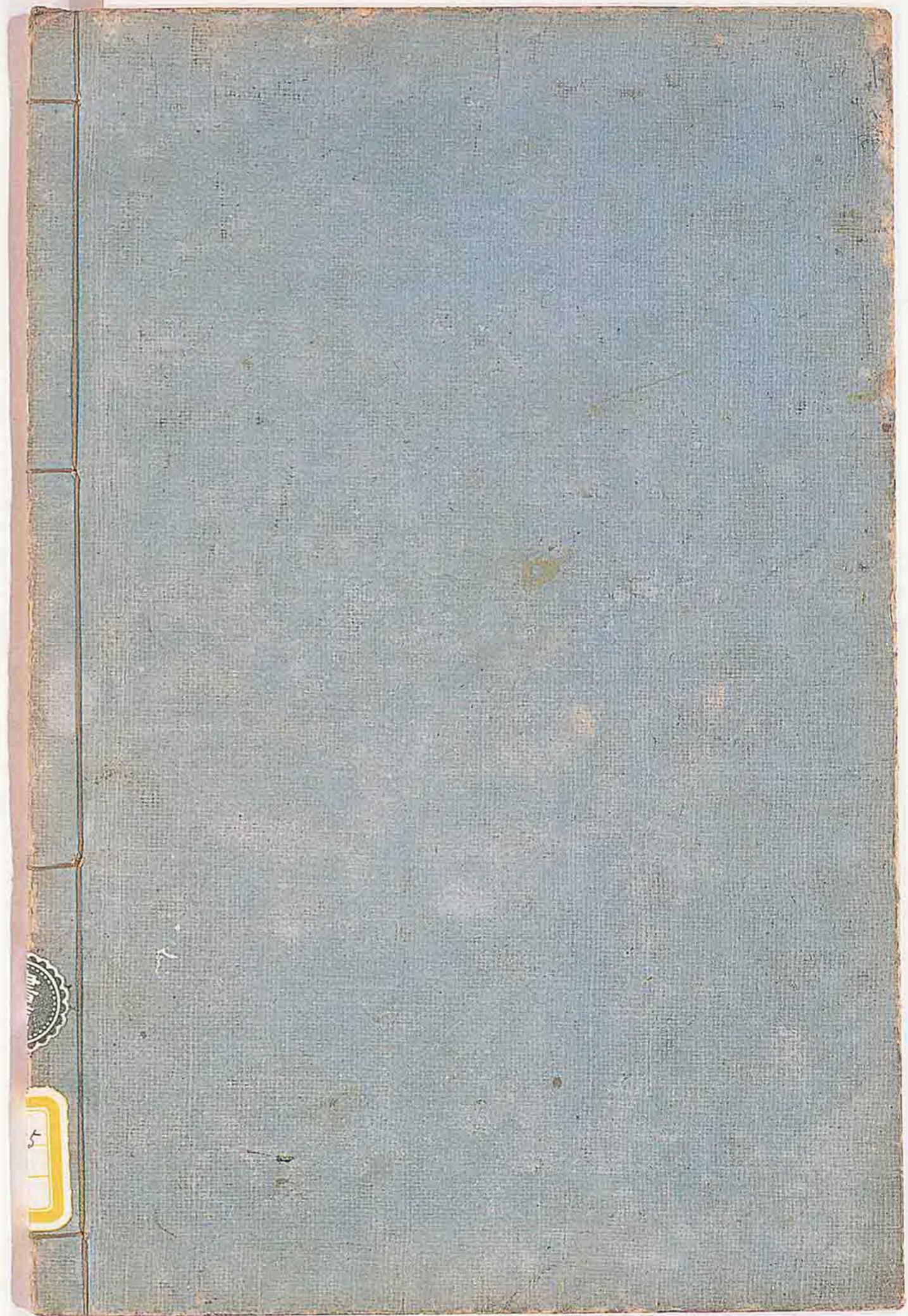
○撰刀住助高

「小肉アリ」

「小肉アリ」

○撰津住助高

助高ハ西宗が弟兄弟は不津田助高つ一人也廣政助宗よりハ
助高が作物まじり能出来たるハ此高小者さるる物者
新刀辨疑卷之四終



慶長
以來
新刀辨疑

五

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5



6206

新刀辨疑卷之五

畿内 東海道



栗田口近江守忠總

栗田口近江守忠總

忠綱ハ播磨國姫路ひめじの人末師栗田口あぐいの傳ついでりて栗田口を稱す一竿子
が父也後大坂小住こぢしを江大掾と銘す後よ近江守と切るは作地鉄
細又籠かごく丁子丸ていしの上手也丁子の様形細長書包かぶより似て大和

新刀辨疑

卷之五

一

大和

守河内守小栗忠綱ことあつら之重孫むね井氏之切物也
一書小水村第大夫と云按又小水村いんげいを稱し小水村いんげいを稱せん

栗田近江守忠綱

ウラ ○ 雕物同作

九峯

卒子栗田忠綱 雕同作

指表俱利伽羅 裏香箸楯

大龜文いぐさ又

元禄五年八月日

大龜文又長二尺二寸五分

一竿子栗田忠綱雕同作

表登龍のり裏際せ龍 大龜文又

元禄六年二月日

九峯

栗田近江守藤原忠綱

又長二尺二寸五分 大龜文いぐさ彫ほり龍の如し

彫同作

元禄十年二月日



栗田口平子忠綱

元禄十三年八月吉日

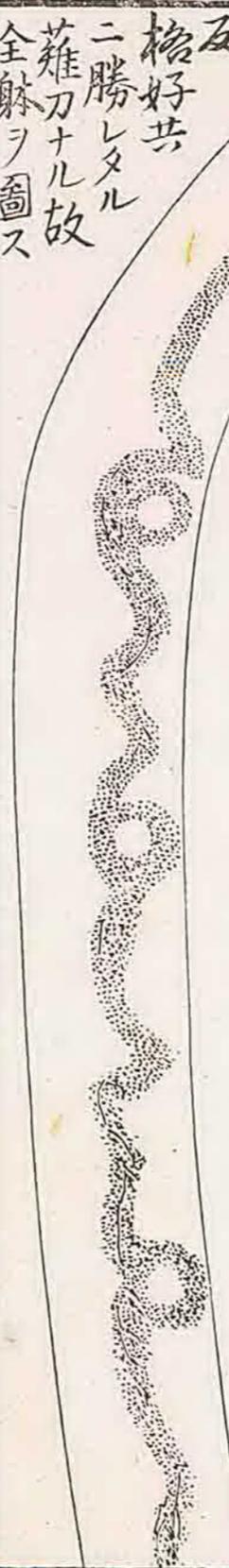
穴ヨリ末長八寸五分 九岁



雲ノ重 〆

地鉄助廣ノ出来物ノ如ク強クシテ
小鋸多ク白至テフカシ

反
格好共
ニ勝レタル
薙刀ナル故
全躰ヲ圖ス

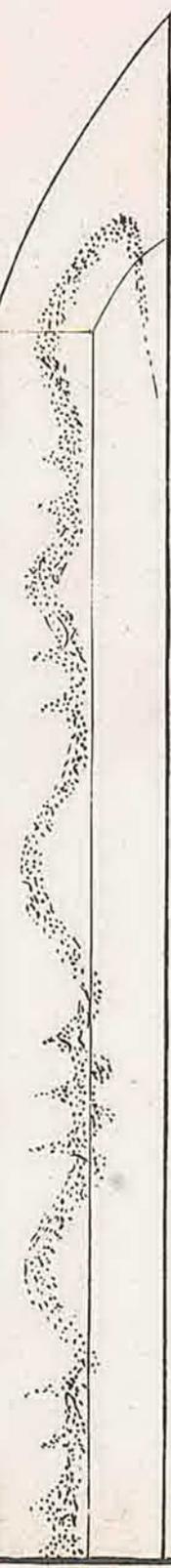
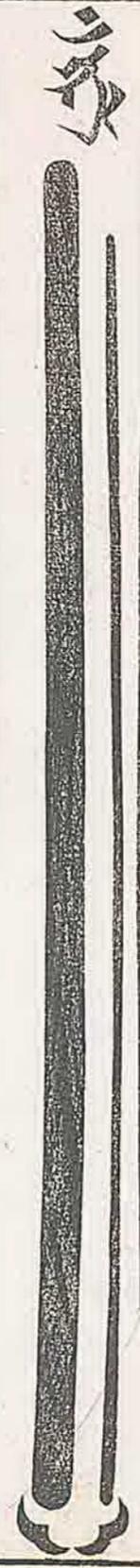
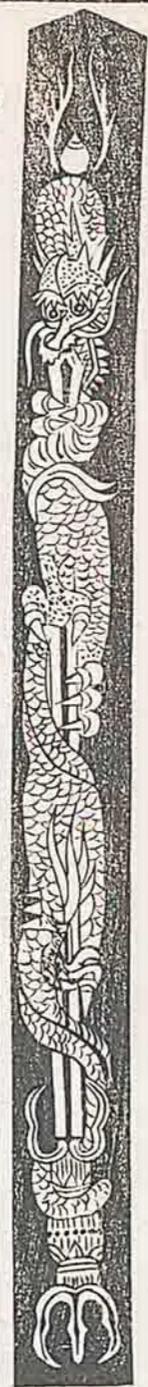


九岁ニシテ高カラズ

栗田口近江守忠綱殿同作

刃長二尺三寸八分余

元禄十三年二月日





一竿子忠綱歌同作

刃長一尺八寸二分 龜文刃



元禄十二年二月日

栗田三竿子忠綱五

龜文刃

元禄十三年二月日

忠綱ハ振出大坂の任人栗田口近江守の二代萬吉夫と云初ハ近江
 守忠綱と初父と初母同少少法まとも栗田口のと云初ハ近江
 也此作地録初丁子龜文能辨ひて白い漆く強き出来多し後一竿
 子と切一此老方と云初とやうふ一丁子の少吉を白ひて換
 棕と金銀の外働初吉龜文ありは龜文を世不極念傳と云彫物ある
 りわ火を初たる物多し直又換り別て出来物多しは彫一漆者
 一強強と云んと里と勢むりり彫ハ後録念傳と云彫のさ者そ又一竿
 ありと云るく一此録ハ仲て帽子をくまあり少しと云る心あり
 老及實永正徳の比造り一保地録強く云る物有

一書又一竿子小業忠の曆の年号ありと云按云風意の比ハ初代
 忠綱ハ中年の頃ありし一竿子ハ近實夫和貞享元保實永正徳
 の作多し同書ハ北村万吉夫と記せり初代の評小書す

角字
○ 丹波守吉道

角字

○ 丹波守吉道

「刃長二尺三寸五分」

○ 丹波守吉道

角字丁子龜文強シ 刃長二尺三寸四分 大和丹波兩初代

○ 大和守吉道

角字

○ 丹波守吉道

○ 高丹波守吉道

「平作り重子厚シ」

「大坂二代目」

○ 丹波守吉道

二代目

「ウラ」

元禄二年二月日

角字

○ 丹波守吉道

丹波守吉道

「又長一尺八寸

角筆

丹波守吉道

「菊水刃

角筆

「又長二尺五寸二分

丹波守吉道

「刃長二尺一寸二分

角ム子

丹波守吉道

丹波守吉道

「角ム子

「スダレ刃

「大坂三代目也

吉道ハ大坂の住人丹波守の代也世々祖父丹波守よりす地狭細ふ
 至く強く小孫若松守より自ひ強く申出来古雅よりて換ひ者又若松守
 たるハ世々花菱守よりといふ程の上守古今一人也強く是やう来
 ハ新刀の手要ふれむを撰い申ゆ登し角筆平撥後ハ大坂遠あり
 則し撰出しの不易く是世のみ大すじ違つて申ふも一寸半
 里摩りては申にぬりぬりハ角筆の面研かして也

一書に丹波守大和守若松守の祖ハ美濃國関の住和泉守兼定ノ末葉
 也ハ人利手撰小孫若松守又京師ニ移居し之和の比撰別大坂へ
 移る即初代丹波守也弟大和守も同和に住すと云撰小丹波守の

銘を又も小京ともち板は定ぬ難む銘數ありあり水をもいそを親
 まむつ書の祝の如くつふして密書せし者とてたり然しは母
 波守とち和守ハ兄弟ありと云祝ハ悲くを非あらん是二代丹
 波守ハ兄弟あるを

二代目丹波守ハ君の御弟を以て取封を實ハ二代目也丹の字父の
 如く廣くず地鏡細く自ひ深く多ふすづれ葉の葉小細中並あ
 して龜文みふ懸る所ハ又の中ハ此を殊し操録記とふりて語
 不及をざる能出ある事ある物君を地の内ハ玉を又ハ
 極り也中心ハ父と同一ハ方厚し後集ハ丹波守中丹波守と
 唱めると書して二代目者もを漏れり二代目の作も父不あ
 づる上ホ也中心ハ祖父ハ似て方厚く銘すくをた重

角峯

大和守士口道

角小子

大和守士口道

又長二尺二寸五分

丁子龜文

萬治三年八月吉日

角小子

大和守士口道

ウラニ ○萬治己亥二年八月吉日

方を上の末里然も父祖の志おとれり銘初代に似てたが孫
初代より御の孫し中心のは立初代に似たる也

角字

○ 卅後守直道

藤原直道兼ア下ニ於攝州城下以南蠻鐵造之ト切シモ有

三嘉 ○ 卅後守藤原魚道

角字

ウラ

卅後守魚道



一〇〇 寛文三年二月日

直道ハ攝州大坂の住人初代子波吉直道ヲ弟子丹後吉藤原直道と
切又三島丹後吉とも銘す後ハ兼道と改むは作地狭細隆大氣
文大津直又此處又丁子飛文のころの様相曾何事も銘自保之部
波吉同位の上手也指表小葉一を切初代とす

一書小直道ハ濃州關和泉守無定ノ末也丹後吉吉近元和の比系
より大坂へ来二代ノ系丹後吉と云ふ大坂小住す之系吉藤と云ふ二代
目ハ吉之弟子三島丹後吉兼道と切表平治ノ云即元治の但馬
守兼光ノ父也拙小丹後吉と云ふ吉直と切し之系と云ふより初代
丹後吉吉直同村大坂小住し之系と号す之系と云ふは初
代丹後吉直ノ弟也

角字

○ 卅後守魚道

後守西道

二代目

兼道の二代目ハ後江戸不任す九年治成ハ在平治と後集不是ハた
里いつまは是あまや以作丁子龜文ハ初代ハ方皇大龜文ハ上子之
指為丸と切しも以作あるをし

小肉アリ

河内守藤原國助

丁子母強シ

此二人國廣門人故相共不造りたる事也

寛永十九年二月吉日

和泉守藤原國貞

國助ハ大坂河内守の初代也堀川國廣門人よて中河内ノ父也
一書國廣門人國友子孫和泉守國貞大坂不任す國友子河内守
國助と云揚又國貞の初代國助の初代而人其ハ國廣門人あり事
明白也右の事作も國助ハ國友子あり時を表し國貞裏ハ國助
本金起を表し國助を切し切又もむ國助ハ國友よりハ事と免ハ
たり

角字

河内守國助

小林中河内上と出来

又長一尺八寸一分丁子龜文重花ハ亂テ見事ナリ

寛文三年八月吉日

小林河内守國助

又長二尺一寸五分 丁子龜又白澤

延寶三年二月吉日

角峯マシリ斯ノ如シ又長二尺一寸五分 丁子龜丈大アリテ強シ

河内守國助

角峯 鑽石ニ同 又長二尺五分 横手下八六丁子崩ル

河内守國助

角峯

河内守國助

中河内初代大和守兩作

丁子又

大和守吉道

中心長八寸五分

河内守國助

角峯

河内守國助

又長二尺五寸五分

國助ハ大坂河内守の二代目にして世中河内と賞する物是也は作地
 狭細く強く白深く重丁子刃の名人著く世の知る所也重丁子ハ
 一通丁子小推標を扇又丁子と丁子の百一廿月の玉を戴く也逆足
 大丁子灣直又大氣又又富士見西行と云氣又ハ以作小限りて刃也
 銘平撰めて流し中心の峯を少し面細く也中心の先より寸寸迄
 六分の所まで刃力をくらむ也他の新刀中心より異也帽子強く尖る
 心で能辨り鉦元の重又大和守と重いつ長し丁子刃の刃分大和
 守ハ一重河内守也二重と知し

一書又初代國助の子河内守國助をくく通と云寛文十二年四月八日
 とあり廣義の子河内守國助をくく通と云寛文十二年四月八日
 つく二人國重兼康と云又初代國助の子石見吉國助小林源一
 寛文十二年六月十七日筑前州神戶へ移住す二代目石見吉ハ都少佐

三代目ハ豊後國杵築一ト向子孫傳所不連續すと云揃ふ初代國
 助の門人廣義は向子孫ありて子とくく通寛文十二年四月八日
 と云り石見吉は向國助の造る刀作野重義と特の裏銘ありて二十
 年寛文十二年と切する有也廣義つゝ人廣義の子とくく通寛文十二
 年四月八日揃ふしてハ時代府合せずは鏡目いふこととくく通國
 助ハ中河内の子とくくし又廣義と切し作を云ふことハいふことと云

河内守國助

河内守國助

三代目ハ石見吉ハ都少佐と云

角峯小肉

四代目

角小子

武藏守國次

角筆

大龜文國輝ノ如シ

小林武藏守國次

武藏守國次ハ初代國曲リニ勇マシ中内ノ弟肥後守國康伊勢守國輝モ兄也可也カニ能能^{ツギ}出来タク伊勢守國輝ニ似テリ部^マテハ作ハ兄弟ノ中マシテ老地^マ換ギン^マグリト大龜文多シ其後守國康ト此國次ハ兄弟^マツ^マ者アリ

角筆

肥後守國康

又長二尺三寸六分重花龜文

肥後守國康

ウラ ○以南蠻鐵作

國康ハ若國次ノ弟國輝ノ兄也其作地換^マ玉^マテ細小強ク白ハ深ク子^カノ名人中内同林ノ作也能出來^マテ其初代大和守吉道^カノ似テリ此^カモ國曲^マツ^マ重^マテ子^カノ^カ重^マテ以^テ知^ル一^カ子^カハ^カ少^カ少^カ物^カアリ

小林佳守ノ進國輝

小肉

國英トモ切也

小林伊勢守國輝

スリ上殘二尺守一分大龜文

ウラ 質又ナシニ自霜^カ月^カヨ

小林伊勢守國輝

「ウラフ 貞文子三月八月日」

小林伊勢守國輝

刃長二尺三寸六分

寛文二年二月日

小林伊勢守國輝

「ウラフ 貞文子三月八月日」

伊勢守國輝

中直刃白深し 上リ龍下リ龍ノ彫西面ニ有龍ノ上西面添樋也

元禄十二年八月日

長サ二尺三寸七分 予カ所持ノ刀ナリ

龍配 伊勢守國輝

刃長二尺四寸二分 細直刃

寛永四丁 亥年仲春吉日

小林伊勢守國輝

鎗長九寸三分兩鎬ニテ廣直又中心ノ長一尺三寸五分

國輝ハ大坂初代國助ノ四男ヨリ中河内等々弟也小林集シ進國英
とも切中比伊勢去後後ハ小林伊勢守國輝ト云切也弟居寛文近
寛文和貞享比各地狭細ク強ク勇テ荒録小説多く自ヒ至ク深ク大
龜文大澤廣也又ワザルモ花ヤル出立有ルし寛文西徳比老後の
作ハ情カ衰フヨリ各地狭ノ隙ニ田墾ホキとの五ノ様々トシト是
里偽物アリ難シ帽子能ク志ヨリ自ヒモ拍ク助廣ノ切先小似アリ
一書小小林出羽大塚藤原國輝ト云又子孫中伊藤松山位三好及
の部藤原國輝ト切一者ありとあり是ハ輝改メ子ありと云也

角峯
新田伊勢守國輝

角峯
新田伊勢守國輝

角峯大龜文砂流
新田伊勢守國輝

角ノ子虫又ホツレヌガシ
新田伊勢守國輝

角峯大龜文砂流
新田伊勢守國輝

包保ハ揚州大坂住人世不左陸奥と云以作地鉄強く勇く村肌
 青く古く之ゆる也あゝ松小籠多之自ひ涼し偶乾きたるもの者大
 氣文海濱^{のり}やま^{のり}も先祖手搦^{のり}の風流^{のり}に律儀^{のり}りて帽子丸く志ま
 多里^{のり}おて^{のり}重^{のり}子^{のり}厚く三角^{のり}ふりて庵深し^{のり}糺^{のり}出^{のり}くくと働^{のり}きふしお
 田^{のり}路^{のり}し^{のり}左^{のり}糺^{のり}入^{のり}り也

一書又大和國手搦の末葉中川陸奥也包康と云た里康のまづ

陸奥守包保

角字

陸奥守包保

角字

角字

陸奥守包保

陸奥守包保

軍扇ノ莖也望長六寸余横幅凡五寸

角字

陸奥守包保

角字

陸奥守包保

陸奥守己重

陸奥守己重

左陸奥守己重と云ふ事も亦秘ハ包重と切後包保と銘不
切る世不有陸奥守と堂々す掛小ハ包重と右陸奥包保と別人来レ
極撥の趣意違ハ示者包重左極多ク如終知者不問也

角今子

初代

越後守包貞

角筆 二尺五寸二分

越後守包貞

小肉アリ

言之進若年ノ銘

越後守包貞

小ニク

越後守包貞

刃長二尺二寸七分

大龜文

延寶七祀八月吉日

越後守包身

ウラ 天和二年二月吉日

坂倉言之進照包

又長二尺二寸九分 中綴理

天和二年八月吉日

小肉

大灣ニアレ配リテ見事ナリ

坂倉言之進照包

又長二尺二寸七分

小肉

坂倉言之進照包

又長二尺三寸一分

大龜文小アレノ方也

天和二年二月吉日

小肉

坂倉言之進照包

又長一尺六寸五分 大龜文強シ

天和二年八月吉日

坂倉言之進照包

ウラ ○ 天和二年八月日

刃長一尺六寸七分

包貞ハ掛州大坂の住人誠後也此は作地録至て細小総白ひ者て丁子
又大龜又也其者いつきも刃長く切物也

照包ハ後集又誠後者つ弟子まで後集者より二代目ハ誠後者包貞
と切近實の末より坂倉者つ進照包と切と云掛不初ハ誠後者切
後ハ言々進と切あるの違中故未だ詳あるは作地録至て細小龜
割差録少總多く白ひ保しぬ誠後者切ハ丁子又關龜又也其者
し丁子龜又也其の如く大和守河内守ハ少少坂倉言之進と切ハ大龜又
ハ津田助廣より大掛村まで花やう來り傳へる物不し其のたき

何事も白ひ保く津田助廣少又後者の也其者長心來る夏あつと
此照包も及ぶ作者をわすれ白津田又ぬを凡と能助直の次不出屋
き物也

一書小大和國手摺の末集大坂住中川陸奥者包康が弟子誠後者
包貞山田者も關と云弟子包光包次者人者又傳者包道が弟子
又誠後守包貞者山田平方夫と稱す中子岩松と云ふ同職三代者
後集又二代目の誠後者包貞ハ初代包貞の弟子と知れり謬也坂
倉者も言々進と切と云せしも非也坂倉者進ハ關の照門の末より
大坂不傳すと云り掛又一書ハ記聞不して既ハ國傳を國友とし
包保誠包康不作るが如しハ照包を初代の弟子と云あつ代伊賀
者包道門人山田平方夫と云者也あつ一人誠後者包貞者照包ハ
實の照つと未だありと書せしハ照の一字を以て見坂倉又關の稱ありし

新加雜類 卷五 三十一 水書言

治方常盤前守侯守寛文の比也と云々据ふ常陸守三子銘小宗重
とむの字も切しあまづし日時代日め又日銘の考證起るふあり
す二代目宗重の後裔とも切しあり

角小肉アリ

花房備前守源祐國

刃長一尺寸五分

花房備前守源祐國

祐國ハ生國紀ある石堂のつ敷也後ハ招州大坂に住す初ノ銘ハ
紀伊國祐國又能名少きいのとにすけふも切しも考後大坂に
てハ備前守源祐國と切花房備前守古切也は作地蹟細不能考あり

麗女あゝ麗女銘小銘多く自源し後集又津田助廣又似たりと也龜文ハ
南紀重國の龜文又少似て直又ハ初代忠行ハ似たり

小肉

陸奥守橘為康

刃長二尺寸五分

備中守橘康廣

為康ハ紀伊國石堂の嫡家富田六郎左衛門と号し後ハ招州大坂小
住平先祖ハ備前一文字のゆ長と云治工明應中近江國蒲生郡平康
大子大子其墓石塔寺の門あり未任す故石塔石堂或ハ石道と稱以ゆ長
々末紀州和歌山ハ未仍之紀伊國石堂と稱す此何國康廣又備中守共

切是為康公也為康も其季の以ハ傳守也康廣とも又古伝孫監切後富田陸奥守播為康又於古江戸富田奥州造之と切しも其は作地録細小能志まり荒録小録有て白ゆし父の作の如く冠牙も有といふ大氣文不出來物多し江戸光平是一帶光を始國との名堂皆助長く其業あり

九段年

攝津國天満住國光作

津田助廣ノ小足ナルカ如シ

國光ハ備中國の田方有與子居り弟安左衛門と云撮守大坂五洲不任從て世不て留ぬ田と稱す後ハ江都縣町小住江戸の田を以て作地録細小大澤廣志又大氣文あり録少能多之白ゆし地札多き物も有板目不しと能出來て是見与子居りもおとせざる者江都より打し是不出來もある二代目も有と云ふたり

一九〇子

和列手抄也永十代孫

信濃守弘包

弘包ハ和列手抄の末孫より撮守大坂の位を殊ハ左衛門と云後集又其作地録細又直刃の名人ありと云然其地職おん分りと云ふ美草の地録に似て手抄物の能ぬの如き少多し其又よも其録光り有る亦及年々能又似たり直刃氣文不上手也又後集に因州兼光の由あり撮守直刃此弘包四人直刃の上手として同位の心抄書を其傳兼光出行李の書り其又と云は通ち不異あり

一書又元祖弘包物多き故世人様之殊と号す其ハ之殊田郎と云後集傳書と切市と云と及む二代目ハ市藏と云江都不任すと云撮守初代ハ左衛門初市と云と云し其し初代弘包ハ弟子多し

○撰及住藤原國幸

双長二尺一寸

金サラリト出来タリ

國幸柄おち坂或ハ尾崎又住す堀川國廣うのち地鉄の延徳國廣
ふ似たり保三代目の國終同位の作あふり

小肉中龜文

○多田次兵衛尉貞行

貞行ハ柄おち坂の住人也後集不銘中心を出せむ縁あるがよる予
がえし一刀ハ地鉄細小籠もて白深ニ大龜文ニして初代宗重
ふ似たり常陸守宗重も多田守之圖と縁ハ疑々たるつ製あるんが
多ハ出及つ一人あふ守中心の仕立終出及ふ似たり

角ム子

○丹羽相摸守源則廣

常陸守宗重ニ似タリ

則廣ハ紀州よりち坂ハ多住す傳吾圖つと云上ふ也洋後集不評セリ

角ム子

○河内守源康永

康永ハ備中守播康慶つ一人より長幸ハ師也此作康慶為康も
おとづる上ふ也認形中心の仕立及ふり

角ム子小籠文白深ニ也

○多々良氏長幸

長幸ハ振州住人なり康永の人也傳可龜文の上手幼代横山上野
大塚又尺部少と有傳傳可振州の鑲色ハ自ら又少と所方勿
編作も横山祐定よりハ上手也

「小肉アリ」

撰列住國小丸

國光ハ地鑲細又自深く丁子龜文肥後國康少似し至是も上手
一書小河内國也子紀伊國康少武藏國光少林ハ康少
と云と傳國次ハ初録ありしハ其紀伊國也武藏國光少
又ハ其國光少之男國康少國光少之男國光少之男國光少

「角小字」

武藏守永道

又長一尺七寸五分 中龜文隆

永道ハ攝州大坂の住人也以作地鑲隆く其録多し山崎守秀辰小
似り上手也

「小肉アリ」

池田鬼神丸國重

了也小鬼神丸ハ傳中ハ其國重傳あり其て池田鬼神丸と銘す
と云傳小水田より來て河内國助つ人ありし作ハ前集不委し

「角峯キリ 鑲子又長一尺八寸 細直刃」

鑲淺新島子廣重

「廣高廣重ハ父子ナルベシ」

攝州の氏無同位の作と見たり
小銘自深し上手あり

曰古狐丸廣重

○ 藤原光雄の子 廣高

廣高は後集の河内守廣高の二代目市左衛門の子ありては後集の二王の如く亦も小孫者上りて初代廣高よりハ多しリ廣高も父同位と入つたり

但馬守宗次寶曆の比の御治より弱き所お多し上りてあり

城守郎光雄ハ龜文多し號名子同位のお也

○ 東海道

九ム子

○ 陸奥守藤原歳長

歳長ハ先祖相州鎌倉傳長谷郡の末流ニ村廣次系堀川ニ住シ大坂より後又阿波國へ入り子孫傳地小栗小阿波國徳津住ニ村武藏守歳長と物言又阿波國徳津住ニ村長住ニおる又昔同地城守同傳真守同左近守の銘皆つづきし陸奥守ハ兄山城守阿波守より京都より又江戸より下向し白銀又ハ昔新堀日影可住す二代目ハ初代行原歳長と物言也又陸奥守ハ京師ニ住し後勢州安濃津へ移住すは作地狭小少孫自保く灣也又大龜文も有也物言能く位者中心也又事也實小上居り也

一書曰二村陸之書事つと切一は陸書之書事の銘あり

角小肉

○前伯列信高入道
山月居士

表銘ハ 無二す二三

○前伯列山月信高入道

九等ノシノギ高シ

○伯老身守藤原信高

二代目ナリ

一書ハ信高ハ濃州関之阿弥ノ末孫ハ乎ハ伯列入道関遊ハ信高ノ父祖ヨシテ寛文四年六月四日薨ニテ死ス二代目ハ山月居士ニ代目也

伯耆守四代も同格ニシテ此ニ稱す代ノ家智ヤモウモウハ行照ト切
ト云梅ノ三代トハ同位の上ホマテ四代ヨリハモ作ヲアズトシテ
阿ガテ上ト云レラルト云祖關遊ト銘スモモ未ダアズ

○尾列住藤原貞放

貞弘ハ西集セテ漏ルぬ若ク廣ガク銘スルモヤカヤカ也モ中出来乃モバ

ウラ ○以諸又鐵作之

○尾陽住来国治

國治ハ尾州の鑑治ヨシテ江都トモホリ里正徳享保の初ノ以務田元
博ノ家ヨシテ辨一物也又ハ務久ハ評の如クトモ也

鳴田住源義助

中龜文

「裏以南蛮鉄作之

義助ハ数代同銘有今川の下人としてつやを紹りて多由と切は作地鉄
細小しそ舊録自有上手也但は家徳の寛永の比と見ゆ戸打は末代人

小丸字

大畧寛永以ノ作ナルハ地金乾テ上手ニアラズ

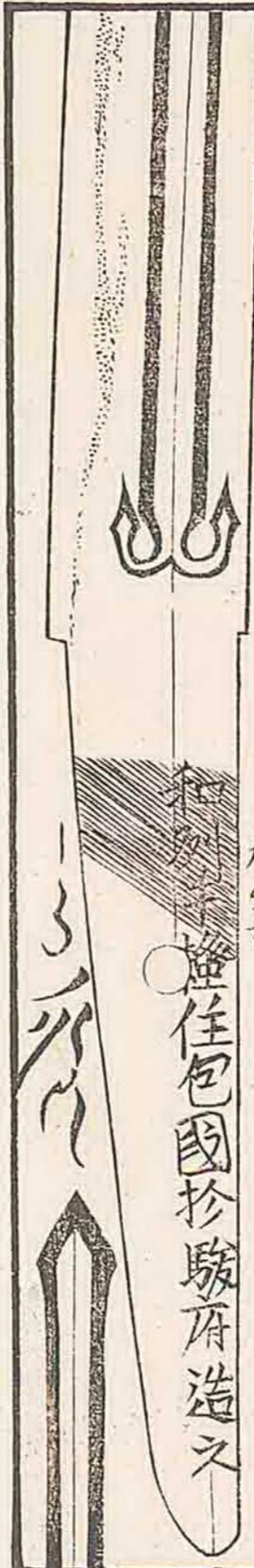
遠江守 鳴田住藤原忠廣

西集及一書ニモラセル故圖シテ示ス

忠廣ハ遠江守鳴田住と切ハ駿河一郡何國の嶋田ふと也未詳

九公子

和列傳 隆住包國於駿府造之



包國ハ地鉄細小銘荒録有て自深し辰房重貞ハ似する由未考後より
るより之堀川國廣小字とせむ物外或云南紀重國ハ父亦重と是ふるべし慶
長以の御治と云へたり

一書小字擡の末包國ハ尚井越中守藤原と切駿府中屋寛文比の子也と云
又初代丹波守吉道門人包國ハ山内之吾衛門と云元和申宗より大坂下
向し寛文十一年より就中守と交領すと云里掾亦或人の説ハ是とある
卷一書ハ疑とし於駿府造之と切其長比と見ゆ大坂の包國初ハ包満
と銘し凡延寶天和比包國と改めしと又てありむ生作の遠大不異也

九公子

甲列住魚舎

ウラ

天正三年二月吉

兼舎ハ地鉄細小銘自むりて上手也國の末流未づれ物也

新刊 御用 卷五 三十一 水戸藩 御用 御用

長曾孫興里

又長一尺三寸

五如圖

延寶五年二月十六日

任東嶽山忍世邊
長曾孫興里作

又長一尺七寸四分

長曾孫鹿徹入道興里

ウラ 試ノゾウガナリ 小乱又長二尺三寸二分

長曾孫興里入道布徹

寛文九年二月吉日

長曾孫興里入道布徹

序徹ハ武藏國江戸の住人長曾孫興里入道也此作地鉄細小
 銘多く自至て深し又の上白く走やう不能大か減や齊ふ東國
 銘治 數る家又比少づき若き此上より之中心の仕立手係
 ずく銘の希め うち立て角切細子銘細細おて細およちりく
 と走りて少く揚 手へ片向く手福有み事の切あふ又所
 有序徹繁慶ハ世の賞美久 ちふして銘文偽物多し故
 不印者不奇て巧小序徹り細子を似せ

水戸藩 御用 御用

る物如味すしりみ母作の荒能多きハ穉あま小能自名を陸き
ものと名をし

小肉

長曾孫興正

刃長二尺二寸五分

廣直刃

角峯

長曾孫興正

湾

刃長一尺七寸五分

角字

中直刃

長曾孫興正

刃長一尺二寸五分

長曾孫興正

興正ハ長曾稱無子或ハ弟子と云多ク其稱無正と云字も切
也ハ作也狭也其稱無正能似たり中心の仕立ハ大不劣也其能
も似も大く早し其稱無正ハ少し其能似たり中心の仕立ハ大不劣也其能
一書ハ無正ハ在國と云下宮池端少子長曾稱無正之孫以羅方之刑

九字

セシム 仍て其能似し

於武加品川仙其國可陸奥經宗

細宗朝臣の戲作世不穉あま若也地狭細少能ありて自深し其能
あま不似たり其能あま不似たり其能あま不似たり其能あま不似たり

九郎半ヒカキヤスリ 鑓目タレタルハ偽物也

鑓目度

九郎半ニテ差ガキ

彫銘ノ縁タレタル物心ヲ付ベシ

鑓目度

地刃ノ別レ見分カタル

中心ノサキ両方ヨリスリテヤ
ゲンノ刃ノ如シ

刃長一尺八寸八分地金細ニ小鋸一面ニアリ肌アラハニナシ

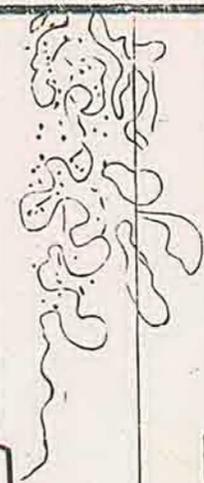
「用ム子ヒガキヤスリ ウラ丸ヤスリ

鑓目度

又カセニスキ 又長一尺四寸九分スクヤキ小アリ入

繁慶ハ三州生也後河ノ末又武州ハ王子小判ノ住し後江戸鑓目町

不任す野田善四郎清亮と云繁慶ハ鋸の銘也此亦鑓目造と云業と
す刀初ハ中書^{ウツ}と云すもの又傍久垂く評より上手なるもの世の急所
也扱不新刀の専とする所ハ刃の刻く層敷を本とする古物茶室の銘
と目一カハ故おは作も今かし刃銘くあるもの一はも予々之事
ありといふ物ハ能物也其味ありて出る業の造りども其間を不
すぞしと云ふ所ハ予々して云也傍久垂く云所も別意ハあるべし
こも御々古墨白粉のさ者其作の評はさふあり世不直^{あひ}貴く人の
賞美す^{ウツ}一吋ハ破^{ウツ}と云ふ意^{ウツ}ハ予々しは作も序^{ウツ}のよふ是ハ
たるは且世も偽物多しといふも中^{ウツ}正^{ウツ}と云ふ物ハ格^{ウツ}ありて一方は賞
す^{ウツ}所の物^{ウツ}あるべし然^{ウツ}刀^{ウツ}匠^{ウツ}とす^{ウツ}心^{ウツ}者^{ウツ}人^{ウツ}ハ能^{ウツ}弁^{ウツ}す^{ウツ}と
繁昌ハ後集^{ウツ}小^{ウツ}如^{ウツ}繁^{ウツ}慶^{ウツ}同^{ウツ}人^{ウツ}あり^{ウツ}予^{ウツ}偶^{ウツ}一^{ウツ}直^{ウツ}刀^{ウツ}と^{ウツ}云^{ウツ}て^{ウツ}可^{ウツ}否^{ウツ}と^{ウツ}評^{ウツ}
す^{ウツ}づ^{ウツ}く^{ウツ}ハ^{ウツ}繁^{ウツ}慶^{ウツ}ハ^{ウツ}上^{ウツ}手^{ウツ}に^{ウツ}評^{ウツ}す^{ウツ}ハ^{ウツ}余^{ウツ}打^{ウツ}あ^{ウツ}る^{ウツ}べ^{ウツ}し



「小肉アリヒタワラニシテ上品ナラス

越後幕下夫村加下作

「角ム子小肉

「ウラ 眞十五枚用伏作

源頼貞。武門暇日眞鍛作。之

「角字 「席漱ノ不出ホナルカ好シ

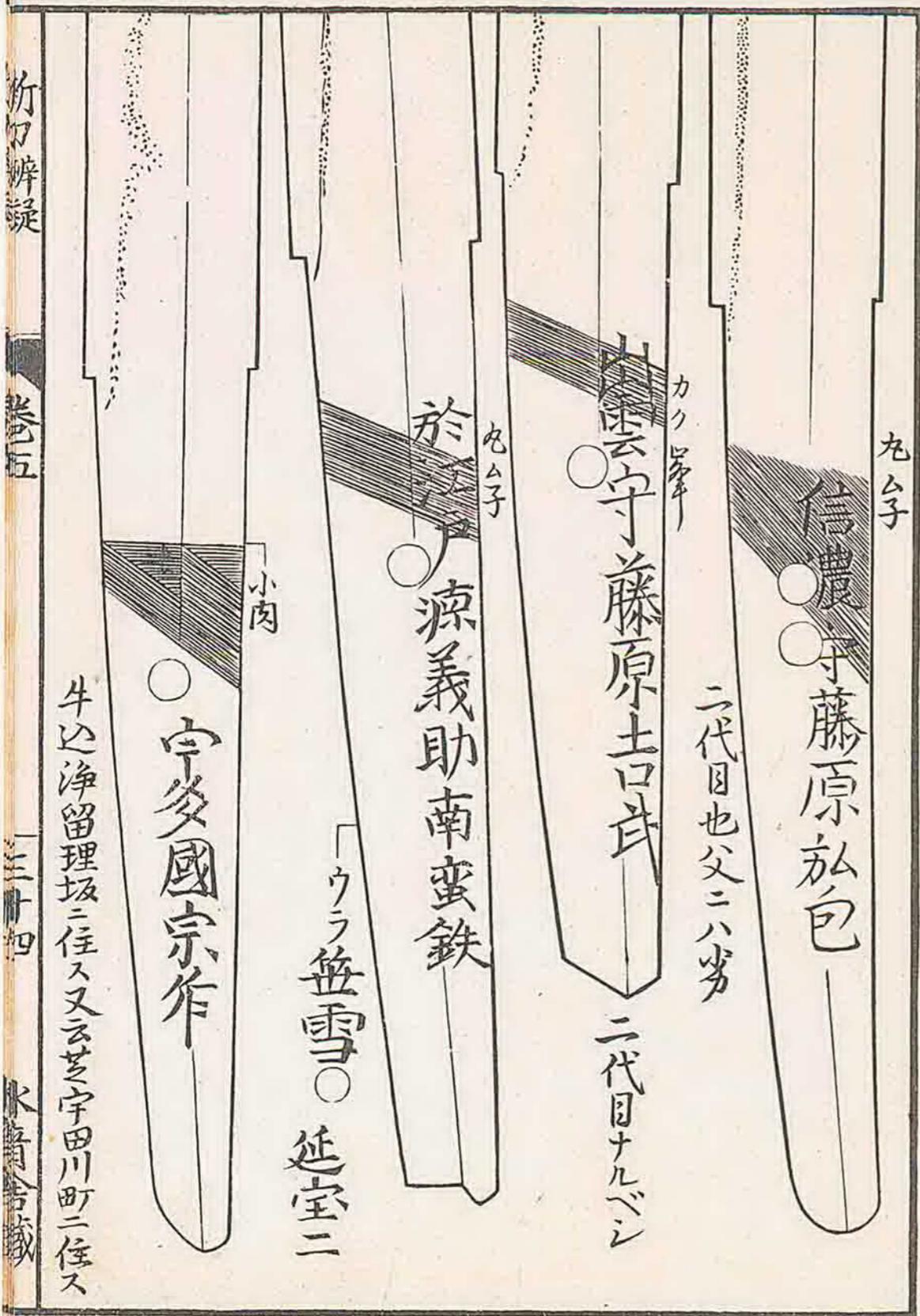
上総公藤原魚重

「小肉

上総守藤原魚重

裏ニタメシノ象眼アリ

刃長一尺七寸七分 背深白深



大和舟安定

九合子

「ウラ」万治三年二月小

武州住安利

「ウラ」万治三年二月日

安利ハ苗集又漏り地狭細ハ小細世を能自名ク安定同子の上ホ也
大龜又甚ヤル米由米ホ里甚シ安定ウツクホアハ

康繼以南南蠻鐵

何代目ホムルホ未シ詳ホクズホホ也
「ウラ」於武州江戸作也

榎津守源忠行

「下ハ寸五分

「角小肉中龜文ニテ強シ」下二尺一寸

武藏住藤原国保

「字角」 「ウラ」貞享二年五月吉日中ッリ大龜文

忠行ハ大坂初代忠經ノ弟子ホテ大郎左衛門ホナリ弟守左衛門ニホ
江府ニ下向スル所左衛門ノヨハホホヲ經トホホ也
國保ハ和州手摺ノ末トテ地狭細又強ク龜文多シトホ也出羽ト武
越住ト同ク也苗集ホ別人ト事書ヤリ

九合子

松齋作

「ウラ」正徳元辛卯年

一書小云松齋八戸川喜多野頭安貞又銘ハあるの銘也自身の銘ハ遠富
 と切又云小云平昌尚隆の正舟は和舟ハ別人也昌初ハ其長の作也
 拙ハ小云系長与慶長ハあるはらうぶし第治定又の作と云ふ事
 和舟ハ正徳の比ある故長と云ふハあると云ふ事と云ふし戸川氏歷の作不
 る也し

城守藤原國重

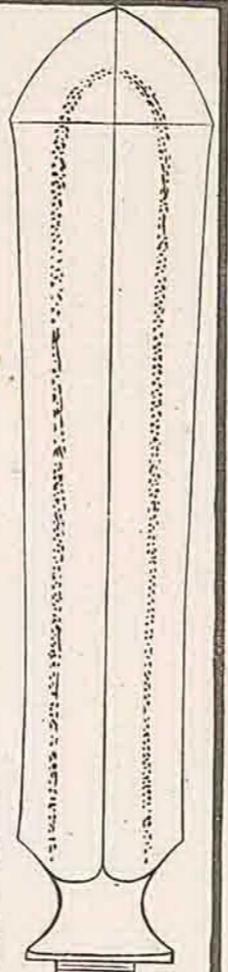
百國入道壯年ノ銘ナリ

城守藤原國重

鎗ハ別テ上手也

城守藤原百國入道一虎

老後斯ノ如ク切



和五戊子年八月日

西シノギテテ拾好ヨシ

中心長圖ノ外ニ寸四分

○應備前別当村子六之雷造馬

平安城吉廣末孫山城守 ○藤原百國入道一虎同風重火子造之

ウラノホ

國重入道一虎と号し嫡子を國重と云ふ事安城吉廣ノ末流也
 外子其ハ江都小位守鑑の上子也

角ム子



藤原國重

一書小國正ハ江戸法城古の正信書正弘く末也正弘く弟國兵忠
河日任城前止城大塚國次を家子とす後山城書國法と改江戸
召れて後橋國光と改は末享保の比孫名と改り坂市ハ山門人を
養子とす嫡子の孫名正と切とあり按よ書ハ家子國正ハ
家子と書ハハは國正ハの國正と書ハし地録せん分りと書也
とありハありバ又國清ハ末今城前ハ書ハし書の祝不富

近江守藤原継平

延平二代目来ハ上多也直又ハ小孫多

王子三胤後志母

○迷事正決おたか黄金金造

二代三代為作あり

東郡 在印も孫系延平

九平年 ウラ ○安永二己ハ○真日

吉田 在印も孫系延平

安永四己ハ 六月日 ○か黄金福ハ吉田年太好之

延平初代ハ康延ハ家子とす後百集ハ書ハし二代目ハ興也
と云上多也之代目ハ印也印也印也印也印也印也印也印也
印也印也印也印也印也印也印也印也印也印也印也印也

角峯
○東叡山麓藤原國吉

國重が弟子よそよ手也後も銀山下谷不仕也り

角小字

○東武住藤原國住

國重が弟子あり事終り修す

角小字トリ

今時ノ石堂也丁子龜文ツヨシ上手ナリ

○武列住藤原是一造之

ウラノ寛延三年庚午三月吉日

角峯

○東田保名

角小字

明和中ノ作ハ此ノ如ク切

○東田保則煉鍛

安永六年ヨリ斯ノコトク切

國重が弟子金左衛門と云初ハ神田後山下出つのか山城河岸に修す

角小字

○東田保宗重

宗重ハ大坂の二代目多田之助左衛門嘉永元年切保江戸に修す
父よわらざる上もやた能文のみあるのよし

石見弁國助

大坂初代國助弟小森源一を伊勢神宮住し又江戸小住す
大坂の部小住し

貞享二年十二月吉日

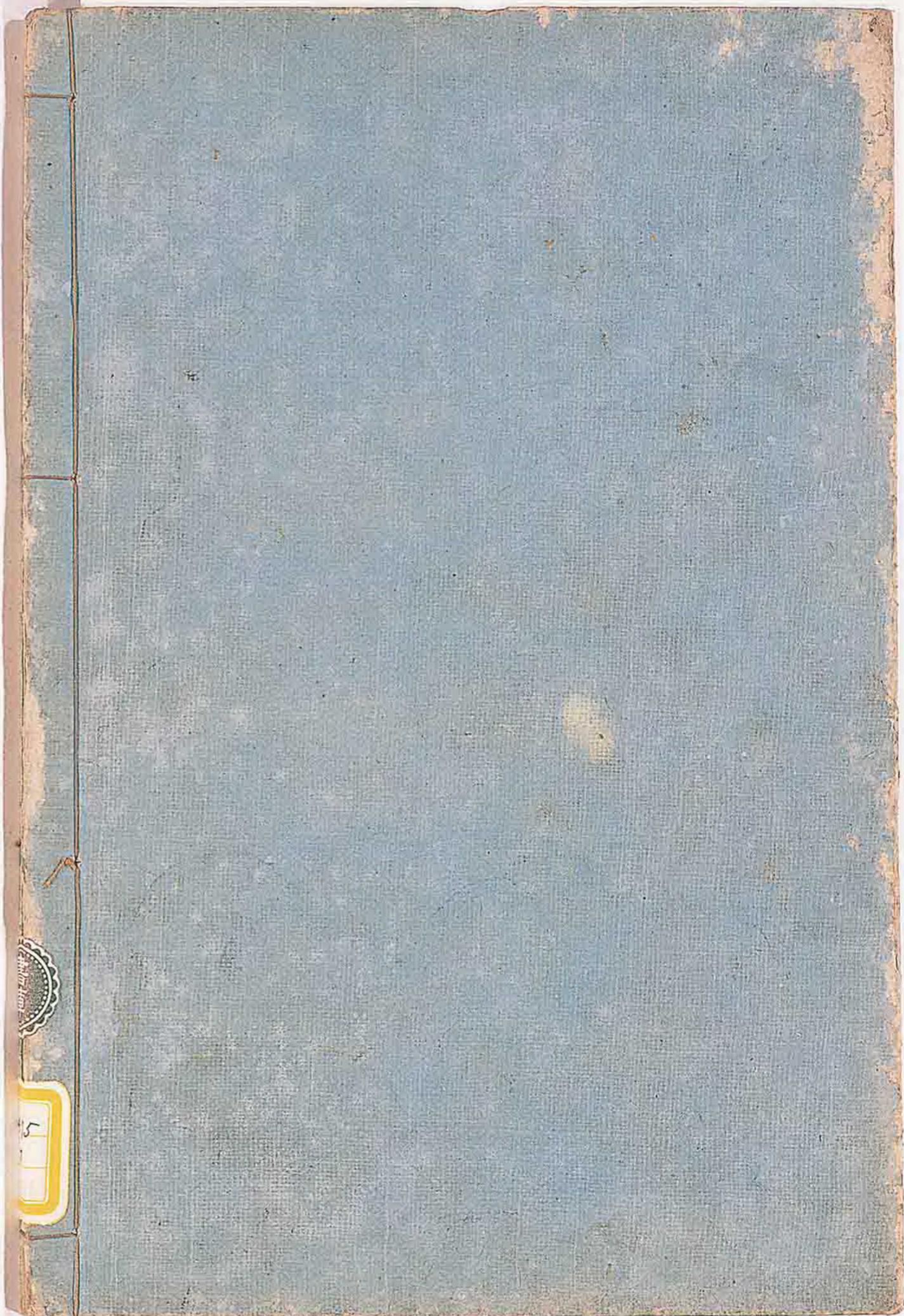
一ノ目

上列於前橋源吉信作之

天和三癸年八月吉日

ウラ

上野國前橋源吉信ハ大坂大和吉道ノ弟子ニホ小森源吉廣生ノ弟子小森源吉
信ト一書ヲ記セリニ代目大和吉道乃シ似テリ傍々ト云々ナリ
新刀辨疑卷之五終



Amherst Mass

5

慶長
以來
新刀辨疑

六





6207

新刀辨疑卷之六
東山道



○江州住人佐々木八道源一峯

九峯
一峯、江州の住人にて後江戸へりる初代ハ善四郎入道と云地鉄
細小籠白者て烈しく起出来多し二代目ハ父より臨き出来は銘ハ二
代目也猶久日或人善四郎ハ二代と云是非多分のあらずと云拙不答曰
郎ハ中い古し初代来り疑屋うぐ代
九峯

○關州藤原士口國

吉國ハ子ハ多集一書ヨモ漏リテ龜文小シク石物ナリ

濃州上有知之住兼辰作

重長 慶長拾叁年八月十日

三品越前守源定道

ウラ 天和三癸亥年二月五日

定道ハ多集國不之出一書ニ河内兼則ノ末子ト云フ小住スル者ナリ

近江守藤原清宣

ウラ 寛永三年二月日

吉國ハ子ハ多集一書ヨモ漏リテ龜文小シク石物ナリ

濃州上有知之住兼辰作

重長 慶長拾叁年八月十日

三品越前守源定道

ウラ 天和三癸亥年二月五日

定道ハ多集國不之出一書ニ河内兼則ノ末子ト云フ小住スル者ナリ

近江守藤原清宣

ウラ 寛永三年二月日

濃州関住壽命

表

享

保十八癸丑年二月初午作之

裏

九公子

中直及ニテ上手ニアラス

兼光五代目兼直作

出来強ク上手也

豊後守藤原助宗

角峯小肉中直又

嶋田小十郎豊後探播磨大探共三同人ト見ヘタリ

助宗ハ佐前國一ノ季助宗ノ後也ニ代目ハ駿河國藤枝の逢稻葉ト云
不ノ住す嫡子ハ代ハ助宗ト切次男兼助別家ト云ル者ナリ
長比 台命ハ佐ノ孫シテ有行州の助宗ト云フ者ナリ
豊後守何代目ト云フ者ナリ詳ナリ

上手也。信州小十郎曰人あらず。起物也。豊原大掾播磨守。播磨大掾六
 之。勤勤。勤。仁。左。門。前。後。書。後。州。信。州。あ。示。ま。の。銘。子。者。み。羽。州。東。原
 子。も。信。守。誠。前。福。井。山。城。大。掾。皆。助。宗。と。切。り。也。但。勤。勤。勤。ハ。多。保。比。あり

角字

信州諏訪住藤原信令

角字 松目細直又上手也

信州住長治造

信令長治商人亦。あ。及。而。素。に。漏。り。信。令。ハ。地。録。細。小。録。も。そ
 上手也。長治も。大。掾。の。作。也。藤。原。之。由。の。如。き。り。の。也
 一書。小。長。治。ハ。文。録。以。の。治。工。也。と。云

小肉アリ。長二尺五寸。松目肌アリ。テ見事也。

奥州國分若林住山城大掾藤原國包

源次郎國包

小肉アリ

奥州仙臺住國包

國包ハ奥州仙臺國分若林住人也。山城入道用惠藤原山城大掾藤原
 出羽大掾藤原寛永以山城守藤原源次郎。其。代。者。也。銘。も。い。ろ。く。小。切
 也。九。曜。紋。切。し。國。包。ハ。作。堅。銀。の。松。目。地。又。つ。ま。り。者。也。小。籠。肌。の。質。小。顯
 也。大。和。國。保。昌。平。郎。を。見。る。と。如。き。物。也。新。刀。如。物。銘。不。治。工。數。家。有。と

能乐山美平以國包及び小笠原忠高の之作ハ孫ハ一ツの也

一書小大和國多市の任保良宗末意永中興物他等一ツり山
城乃道法名用直と号し山城左様孫原國包と切古守九曜の致を
孫ハ扶持人と承代ハ國包と切二代目ハ京都誠申多ク後ハ人々四
代目より孫原と切六代目程千郎と稱すと云按不意永中興物一
ツり一若の四代の孫又九曜致孫ハ一取登し名意永と記せしハ
寛永の禱りりた育ハ用惠即ハ體切する國包より和物より来り
しハ國包也と出し羽左様源次郎ハ河代と云るも未ダ詳あり代

一角半

奥方加仙其任安倫

又方少レ肉アリ

一書に安倫元祖ハ駿州磐田宗弟子備前意永中興物仙書一ツ

二代倫祐三代目安倫より相州信を録ハ四代目安倫ハ太吉戲作のお
繼打一若也金部仲と稱すと稱す三代目安倫ハ江戸左和也安定ハ人々初お登切

一角半

奥州住兼定

一角半

奥州住兼定

兼定ハ清州關和永也兼定ハ代の孫也江左様兼定奥州會津ハ下
多若和を花田と云孫左衛門と稱す二代目後ハ名江吉と切是も孫
左衛門と云入道兼定と切三代目ハ近江吉と切古川和ると号享保四年
三千九百也又云は兼定ハ代の先祖ハ皆名盛氏の片として録二百名を給

肉アリ丸峯ニハアラス

陸奥大掾三善長道

友四言

ウラニ〇寛文十庚戌年二月日

陸奥會津住道長

一書長道元祖ハ安藝國廣治住國行々子奥州會津下リ長國と
稱す長國ノ子長道是治年中上系陸奥大掾ニ奉命享以江戸小も住す
と云

東奥磐城住貞平

銘本貞則ノ子本ニシテ長
一尺八寸一分廣厚程小銘
自有名安老後ノ作ノ如シ

貞資ハ東奥磐城住貞資ト物是又名別々一門来ニシ貞平ハ弟小室

角ノ子

奥州盛岡住国義

表ハ幡大菩薩重鋳彫物ニナリ

元禄四年二月日

新藤源義国

奥州盛岡住新藤源義正作

同銘小

ヲモテ新藤源義正
ウラ 奥州盛岡住

ト有此サノミ
ウラ 寛保四 甲子年二月日
上ホニハアラス

北陸道

少肉アリ
佐州住康氏

康氏ハ代唐國の部族ヲ集ルルニ関スル事トシテ其ノ代ニシテ之ヲ以テ其ノ

角四平
賀州住藤原家平

大ニダレ及強シ

角四平
加州金澤住高平

廣直及砂流

「小肉アリ」
賀州金澤住藤原兼若

ウラ
享保貳拾年二月吉日

大ニダレ強シ

「小肉アリ」
加州住隆羅尼橋勝國

「裏千秋萬歳」

勝國ハ蘇門答刺將監ト号セシ者伊豫大掾也切是銘ハ六代目也又七
代目とも云リ和戸若之郎ト号リ初代のみきハ此ハ七代目也實是也

「角六子」
鍛南蠻鐵鈕之

明曆三年二月日

表銘新三副ナラズル

新兵衛尉作

一書残り國福并任新集御宗、善治治一、宗宗事也、後所、時日
任由宗了、心中、任所、おの、都、移、後、残、前、切、福、を、賜、不、免、永、中、事、
山、城、守、藤、原、國、清、世、嫡、孫、也、國、清、多、病、故、由、宗、お、孫、の
吉、長、の、國、宗、家、を、繼、國、清、の、別、家、す、寛、治、十、二、年、より、第一、次、家、を、切、新、集、
嫡、子、九、代、家、を、繼、山、城、守、藤、原、國、清、の、切、由、宗、の、國、清、の、孫、也、孫、也、一、

山城守藤原國清

角字

角字

康繼於越前作之

山城守藤原國清康繼於越前作之、其人、亦、不、少、の、報、治、也、地、淡、細
又、弱、く、上、事、不、い、あ、く、は、外、播、磨、を、繼、原、重、之、伊、勢、を、藤、原、國、次
上、總、右、孫、藤、原、宗、道、右、孫、藤、原、宗、行、仍、四、人、亦、不、誠、者、の、治、也、中、作
未、だ、つ、ま、り、く、あ、す

山陰道

小ニク

因別住兼先作

因幡國住藤原兼先

九字平山

右五良宗栄

又長二尺一寸八分

廣直又鑑世也

宗栄ハ播州住跡末五郎右衛門尉又孫原右作とも五郎右切也地
狭細ハ能志田里中流小鑑多く自もて深大濶大能文屋も又河邊
も花やらよして及も地物也重厚く之を平造りて柱植添植中心
の先造り起通し中心も位りりの也臨ハ大造達の意の如也位立
りて上あふり

小肉アリ

大和掾藤原氏繁

ウラ 享保十九年八月日

四代目ナルベシ

小肉

播列平柄山麓藤原氏繁精鍛作

九ム子

五代目ナルベシ

匿陽國衙壯金重

小肉アリ

彌國住八重自一作

平造り ウラ 元禄甲辰八月日

幡國住負重ハ大能文もて薩州西房又似り上も也

小肉アリ

義作國住西目京

兼先昔ノ一
家上あナリ

関ミダレ強シ

備前國ハ鍛冶相應の風土ホシク一宗院永遠以テ成下の上ニ多
し是世の知不也此心以テハ刀又善ク心以テハ刀を造る物多ク
其取刀其長以テハありとあるもよくハ祐定數千人ある及ぶる事
造り佩る物多し其良物ハ撰りてし其銘多集今の附録ニ又ハ

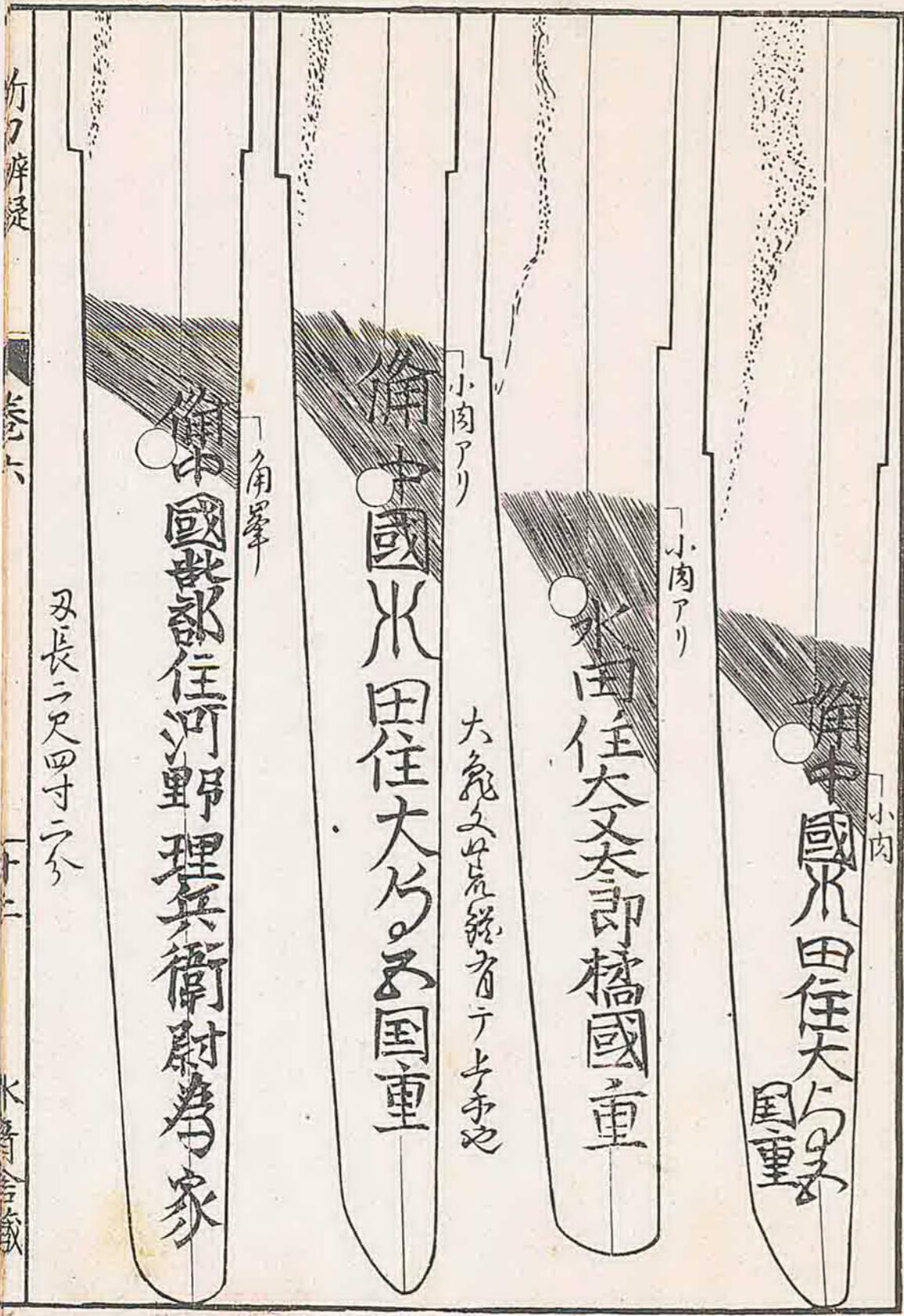
小肉

備前國 郡在河野理兵衛尉為家
水田集月市藏 國重

又長二尺二寸四分半 公廉漫理銘多ク白深シ

寛永十九年壬午月日於松山是作

為家ハ地鉄細小流白深し磨直又生皮の如し細く又ゆる物也
久の経ハ地鉄志敏とく又ゆると出テハ此も其大なるも亦
ゆる物也其撰りて佩刀とすべし



備前國水田住大乃の國重

小肉アリ

水田住大乃即橋國重

小肉アリ

備前國水田住大乃の國重

角峯

備前國郡在河野理兵衛尉為家

又長二尺四寸二分

水田 大月三郎兵衛尉 國重

備中國水田家系を見る小大月たき周松山城下小田村小住す生子三
郎を周し生子を小田以男本流之男安右衛門國光也と大月與五郎
國重ハ即ち小田之代目也たきと國重と事切しも其以作此族細
よ其終小族多く自むて保し其強く此族固ハ有て相之重の如く孫
重して生子也其地此一面小者て則重の如きも有此族志あり一故肌
顯ハあつて出来の惡キハ顯る也帽子ハ多分出せし也凡
く其家系してと其とすたき周國重ハ備中國在東の住人也其
因のえ祖大月と云ふ郎が祖父也備中國在東國重と切也其作此族
細小強く引張是族小終自深し慶長より古し二代目之孫と周

父と同じと云ふ郎と云作も有也其因の中より此二人ハ輩に其終ふし
一書に備中國青江住為次り其家門國英其郎皆部小住し其松山
小田より住河野と云郎為家と稱す二代目ハ河野と云郎國重大月
と改之代目同國住日那在系住左衛門尉國重ハて又此の治也四代目
ハ皆部住大月と云郎國重と云也五代目大月と云郎山城小住源國重
六代目ハ郎左衛門國重吉保四年二十四年也水田小田村小住古文
其終の國重と云也と云按小後集小出なる系圖より大月と云郎也四代
目ハ大正中六代目ハ其保の事也四代目ハ一ハ僅二代より百餘
の年數あり其因も不足ざる也然し其青江の為次り末也
と云ふと其あつてしつる此の以の為家國重兄弟別家せし小
やつを二取てハ二代目ハ郎大月國重の祖と云つたり又云郎天
正以拾餘の孫ハ其家長として考ふ小初ハ其家後ハ國重と認

新加辨類 卷六 十一 加藤善備

せしるも方とてつる世部小亦以序國重と銘せしもの

小肉アリ

備中水田住國重作

又長二尺一寸七分

廣直五銘多シ

於備後福山造之

尾道五乃藤感行

慶長比ヨリ古ク見ユ

備後國ハ慶長比前ハ之系の末系尾道鞠多不又住し鞠之系尾道之系とせよ多し其阿保五河保力河保心下数人可古多の

上手也辰房一彰ハ討更上と也近世の由多治し又ち辰房田助廣つと弟也宗助高下りて上手多き也

小肉

肥後守藤原輝廣

播磨守藤原輝廣作

輝廣ハ尾張國任人肥後守藤原輝廣と切福治家の位と承て安藝國廣治の初任す播磨守輝廣の初代也此作地鉄ヤ一重として明壽一宗の如く銘自いりて位多あり物也播磨守も上ありた辰房也ハ抄前の上も也或云輝廣の素つと人と承ては誤おつりしと

一書又ある國慶為任伊賀守藤原輝房同播磨大掾左と切も有
 又享保の輝房は孫四郎藤原と切肥後守子孫まで代し輝房と
 切とを辨ふ能はざる慶長以後の人も代りてハハモ代目承へし伊
 加守と切ハ何代目承へる未だ詳ならず代

小肉アリ

藝刀初住源則房作

細直又長三尺守之

刀房ハ前住与兼示記ある如く長鉄細小能白い漆し信房を祖傳
 古辨慶より以て至直又長三尺守之あり

小肉

藝刀初住總慶

細慶作則房より少く少より昔より今人の慶業、附録又見たり

角半小肉

長州住并刑部亮兼口三王方清作

又長一尺八寸五分中龜文又強し上多也

寛文十年八月良辰

新刀の二王方親
 玉井を稱す者
 多し

佐。渡守國富元喜作

一書又元喜ハ奥州奉國江都出雲長つ昔より居を移せし
 小肉

長州住為子代家次

南海道

於南紀重國造之

小肉アリ

於南紀重國造之

角筆

於紀功文珠重國造之

小肉

細直又ツヨシ

寛文七年

八月日

二代目金助也

於南紀陽文珠重國造之

丸筆

刃長二尺四寸五分直又也

重國ハ初代於南紀重國造之と切地録云く御もくやうふして淫
いり少鑑自深く信ずる文也地理ハ海内の邊人とも云を記考也
猶久も本國後此して編り能叶つるといふべし帽子系の如
く志まりて中心の銘能きし鑑ハまりやすき辨をいりかゝる
あり筆かかゝるる二代目金助も父又似てかゝるるあり

一書ハ和名を授自永末後ハ此重國之和申強廣一書ハ
弟の臣ハ郎重國有人ハ紀州和音山崎光山又極る仍て世不強河文
珠之留ふそつ家の銘いりく有先和名有於位ぬく之郎孫原重國
又紀州明忠心任重國造之并ふえ和の連書可大和物任人の此之郎

重國居駿河國後於紀州の光山作之相掃檜都築之吉美氏傳持
 之又駿州住之之序之殊重國元和の事号者大和國住人駿州向
 住住紀州比之元和八壬戌曆九月吉日可有秘藏依聖別入信重國造
 之南紀州之序於駿河造之寛永事号者紀州和山住之序重國享
 保の重國也又濃州住年住九良之序重國享保事号者紀州和山住之序
 住之録しあらん

紀伊園上并原光

紀州石堂一家ニテ上手ナリタスリヤキナリ
 又長二尺五寸大龜文

角拳小肉アリ

紀州住天狗作

ウラ。鈴木三郎五郎是兩持者也

山本平馬尉助政

助政ハ一書不鈴木大和守とも切と云予國名以す小裁系今以て
 淡州一記す拙又助ハ平る海大和守と云以て一あらん

肉アリ

源國維作

初大坂ニテ後今治ノ下リレナルベシ
 國維ハ後集の評是也といふべし上之也保石山事あらん

小肉アリ

与列大淵住廣宣

新編
源氏物語

卷六

小肉

三十一

新編
源氏物語



○山城守源国道

平安城徑同人ニテ豫州吉田ノ人ナリ

西海道

角小肉

○筑前住 辰仲

辰仲ハ筑前ノ下坂一帯ヨリテ辰守人ニシテ筑前ノ事ナリト云レ
ナリノ事ニ及シテ洛ノトモヤカニ其ノ作事ナリト云レ

信國光昌造

上ユナリ

ウラ 安永〇六ノ年八月日

○角字中津住藤原朝家作

○角字直又高田住藤原統行

○角字高田住藤原行長

○藤原豊改

新編
源氏物語

卷六

三十一

新編
源氏物語

藤原宣行

「角メシトリ」

藤原正行

「角面トリ」

藤原國隆作

「角岑」

肥前國忠吉

「角岑」

「初代」

肥前國忠吉

「小肉アリ」

「初代」

肥前國忠吉

「小肉」

「初代」

肥前國住武藏大掾藤原忠廣

寛永六年八月吉日

「角ム子」

右同銘ニテ年号此ノ如シ

寛永八年二月吉日

新刊

卷六

二八

水戸藩

角公子小肉 寛永五年八月吉日

又長二尺四寸九分 中綴理ツヨシ

肥前國住武藏大掾藤原忠廣

肥前國住藤原忠廣

「ウラ」 寛永八年八月吉日

肥前國住近江大掾藤原忠廣

角峯小肉細直又強ク見事ナリ 二代目也

「角峯キリヤスリ

近江大掾藤原忠廣

二代目平作郎之代目新之郎五作也 ツヨクシテ 見事ナリ

肥前國陸奥守忠吉

「角峯

肥前國陸奥守忠吉

肥前國住陸奥守忠吉

「角公子

肥前國住人忠吉作

四代目

肥前國近江守忠吉

九公子

五代目

近江守忠吉

九公子

肥前國忠廣

角公子

六代目

肥前國近江大掾藤原忠吉

小肉

角公子

今ノ忠吉若年ノ作ナルベシ

肥前國忠吉

九峯

肥前國近江大掾藤原忠吉

今ノ近江大掾ノ嫡子ナルベシ

安永二景二月日
行年三拾又七造之

忠吉ハ肥前國佐賀城下位慶長比ヨリ聖數代連綿ノ乳養シ元祖新左
 衛門次長中平安城埋忠即壽重吉ツク人と承て忠吉と切後武藏大
 掾と承て忠廣と改仕作地鉄細小籠多く自深し友友ハ至極の不
 ち得て能く出来たるハ聖國の物又又忠少籠の上立也氣文ハ修理又
 ハ方又忠少籠を籠ハ埋忠の遺子てせの之強ハ兄一承一孫道々
 の姿能位あり然ハ父中七子ハ字ツクく切て一掾あらず切後又
 て中心の仕立師のの姿と守り中心の先忠吉と切ハ忠少忠廣と切
 一ハ山形も者老後録ハ一ハ偶あるといふ物也

一書又依其系圖ハ弟ニ弟ノ信宗近の末流建曆中弟五弟功ツ掾
 本立弟爲允宗弘才此弘弟築前國一ト守子生嫡孫弟十郎の爲中紀
 弟代守一ト弟中弟爲本新方ハ忠吉其弟長元弟上弟一ト埋忠宗吉
 ツクと承埋忠のつとを承て代ハ忠吉忠廣と切元和十年二月十八日

武藏大掾と受仕守寛永九年八月十五日死時又六十歳云弟
 允宗弘才ト武藏大掾忠廣と七代と之ツクと掾又埋忠宗吉又明
 壽重吉と之ツクハ初ハ宗吉と号し後ハ重吉と改一ト又ハ重
 吉と号と誤リ一ト又弟ハ祥と云ず

忠廣ハ武藏大掾ト妾服の子平作郎と号し弟事又ハ忠吉と切父
 武藏大掾寛永九年二月死す存ハ忠廣と改仕寛永十八年五月大掾
 と受仕守之孫ハ事死時又ハ十歳仕作地鉄細小籠理細細理の
 上手也小籠多く自深し帽子能志まりて青江のぬく之ゆり元
 祖の次ある能た物不ク嫡子陸奥守ハ祖父ハ越ぎ名人存生
 位父子を先也

忠吉ハ平作郎ハ嫡子トシ新三郎ト云弟治三弟陸奥大掾ト云凡
 守寛文二年守又替す名吉子二年死す存ハ忠少弟父ハ先立て死す故

忠廣と改すは作公祖河内位の名人にて地録の志ありみの孫きり父祖
又越より経理は古板は田にもあらずてゆるき帽子子仲て忠廣ふ似り
免文又八犯前録治の得せざるふあま先は忠吉と初代以後の免文もハ
能物有四代五代六代安あて事の作孫五郎と切し若し弟又男里そ土佐
忠吉ハ元祖の門人也又初代の河内守若年の比ハ忠吉と切るは孫七郎
南吉信の子とて元祖の外孫平作郎家督せしまでハ忠吉と切しと之由

肥前國河内大掾藤原正廣

小肉

中直又強し又長二尺五寸四分埋患助壽正廣ニ贈按スルニヤスリハ切鑪中心

肥前河内守藤原正廣

角ニテ小メントル

ハ鉏ノ掛ヨキヤウ又ノ廣キハ好
マストアルナレハ忠吉同事ニ
門人トナリシナルベシ

肥前河内大掾正廣嫡子武截守藤原正永

角小肉 富士山星雁ヲヤキ入タリ 又長二尺三寸五分

正廣の初代ハ元祖忠廣の智孫七郎吉行の嫡子左傳治と稱す元祖
武截大掾外孫左傳治ハ忠吉の孫を譲る故ハ二代目平作郎家督と
承し忠吉ハ正廣忠吉の二代目也寛弘二年太守の命ハ仍て正廣と改
同十八年河内大掾と承し作上あふして平作郎河内位の物也二代目ハ河
内守と切て代目ハ正永の代目ハ正廣也切也ハ弟ふあま山吉

出羽守行廣

以阿蘭陀銀作

行廣ハ右正廣の弟少して正廣の事の上弟也切し免文又ハ隆興寺に

おろろる物也同國長崎小つ河葉比の報方を字ひて辨し
也初ハ出羽大掾後ハちり持す二代目も出羽ちり初ハあつる



播磨守藤原忠國

ヒタツラ又 鉏ノ上ニ葉ヲ切



以真之鍛作

小肉アリ

肥前住廣貞

斯ノ如クナルモアリ

廣貞ハ元祖忠吉ノ弟子ニ師ト作ル似テ今少シ及む物アリ
女國ハ右廣貞ノ子ニ播磨大掾又文信スハ作地鉄細又小籠多ク

白い深し初度より男々々々の也二代目播磨おと切三代目播磨大
掾と初ハ赤い少く少く小里牡丹と初ハ二代目也初代の中心毎集ふ及ゆ

青木氏藤原永央
享保〇三年八月吉日

廣直又ニシテツヨキ出来也

肥前國住遠江守藤原魚廣

以南蠻瓢草鐵真鍛作之

角峯

角小字

遠江守藤原魚廣
以南蠻鉄真鍛作之

西人ノ作也
ウラ

同住越中掾藤原吉住

肥前国住人吉家

伊豫掾宗次ニ似テヲトレリ
白フカクヨハキ出来也

肥前国住人廣則

角出 幼代忠廣時代ナルベシ古ク見ユ

肥前刀 於唐津高田河内并源行平

紀新大夫末

鬼神大夫末河内并源行平作

ウラ 南蠻以鐵銀



豊後太郎次竹 七十余歳

小肉アリ

小肉

初代也

土肥真了

刃長一尺三寸六分 大湾鏡多ク白深シ

小肉アリ作之趣ナルヘシ

土肥真了

ウラ 元禄十四ノ夏二月ハ

真了、井上出及う人及紀前國神崎郡平戸ノ中里松浦の家ノ
成るは作地鏡細又是鏡小鏡多ク白深シ及及ゆくうのやり守心

○主水正三清

角塚

長二尺一寸五分

○主水正三清

○主水正三清

正清ハ薩州住人宮原法方園のとき後ハ覺ちまると改む享保五年七月十二日薨つたを記して紐元一切主水正三清と切也此作地録細く書く處より小机をて薦出菜録小籠多く自深しと又大のり地の中より一乃て記す或より小籠かゞ花やうさハ大坂出改助成

とも越ぐと起りと疑ふ程ふ思ゆる也帽子大太の如く立伸て丸く志まるとも、稀也切録とてた務まつたゆ違のさあり角を録して峯の録も平のすり又同一中心の四方峯方共ふ面録かゝ取る部て録る丸めりて極好よりハ重し又地録とも小机とも記丸田伊豆正房門人也

薩州住藤原正房

正房ハ薩州の住人父ハ美濃國冥丸田若狭守氏房薩州へ往りて園つと稱す嫡子正房又其子つと云然ハ薩州住正房或ハ丸田伊豆正房切此作地録細く書く録多く自深しと又大のり地録とも記丸田伊豆正房門人也

薩○列住三良

「九ム子左ヤスリ

「ウラ安永二癸巳八月

薩○列住三良

薩○列住三良

「九ム子

薩○列住三良

「ウラ明和七庚寅八月

正良ハ正清ガ子西迫ウ弟子伊地嘉平字と号す也鉄研小幡

多く自深しと耐の銀治の中までハ海内の上ホ也正清不能似下

波平大和守平安国

「九ム子スジカイヤスリ

安國ハ波平大和守平安坊ウ四男ヨテ家督セシト兄ハナリ地鉄引
強シ荒程少籠自方テ強キ出年多し上子也格ハ一字と屬ト云

ム子ノスリ出シ園ノ如シカ方ノメンスコシスルナリ

一平安代

又長二尺二寸五分 深一尺

主馬首一平安代

ウラ享保十己年於薩易給黎那作

新刊御成敗式目 卷之六 九ノ字



主馬首一平安代

九ノ字



主馬首一平安代

大版七切斷

寛延二年己巳十月五日

九ノ字



主馬首藤原朝臣一平安代

ウラニ享保拾三年二月日

安代ハ大和守平安行々ハ人薩州給部郡喜入ノ位ニ墨小布郎後
ハ一平と云銘初ハ一平安代後又主ノ首一平安代或ハ藤原朝臣と切
レヨリハ作地鉄細キ墨様小瓶多ク有リテ深シ帽子大キヨリテ
鑑マテ有リ。この多し九ノ字多し。ハ穉也中心の光九ノ輪目の上
善極ヤ直里あり。ハ一平と云事也。子保五事正徳と同ノ深淵敷
ヨリテ御刀を銘ハ仍テ葵一葉とハ一平ハ正徳安代ハ东山美平
の次来屋也。此ハ世上者ノ賞受ス。ハ一平ノ字ノ次来屋也。ハ一平ノ字ノ次来屋也。

大刀銘片平作リ

奥和泉守谷山波平忠重作

ウラ 薩列住

奥和泉守忠重作

新刊御成敗式目 卷之六 九ノ字

筆すり出し浅ノ如シ小シ肉ヤスリアラシ

○奥和泉守忠重作

又長一尺九寸三分直刃白深ク鋭ク

○薩州住人

「小肉アリ

「小肉アリ

○奥和泉守忠重作

忠重ハ薩摩國住人奥和泉守也初ハ秀興と切及忠重と切庶也皆球
下又佐す國人奥と稱す地鉄細く鋭自深く正法也代正房は忠重同
位の上多也方銘も切物多し強あゝゝ也

一書よはハ大隅國一住て秀興と切保年号アリ

「小肉アリ

○波平安廣

「小肉アリ

寛保年号アリ

○波平安明

安廣ハ安正の子にて安正ハ嫡孫也安正ハ安正の子にて安廣ハ
弟也兄弟同位ノ作也地鉄強く切し鋭て正法の中葉鉄丸列りて
上あり

○波平安常

小肉アリ

安常ハ安國ノ子トシテ樞ノ四郎ト稱スハ作也誤父不似トカシカ
此里保書羽安常ノ子ハ安氏樞ノ弟ト稱スハ作
未詳アリ



伊勢守藤原清方

地金強ク出来カクシ 「ウラニ」薩列住

清方ハ安貞ノ子トシテ安代ノ孫也此作也誤細ク少シ軋キテ誤多シ
父祖ヨハおと山代トシテ上ノ事也

安永六丁酉八月日

又此ニ足守ノ事
大ノタレ 混多シ切先誤ニテ
サケ誤シコノ事アリ

薩陽士元平

小肉アリ

薩陽士元平

或ハ忠重孫トシテ元貞ノ子也
又ハハ一里

安永五二月日

元平ハ其傳未ダ詳カズ作ノ位正良又同シ一平安代ノ作也似里
傍水ナルトキ也ハ人稱ト誤トシテ自誤要トセハ當時海内ノ達人
未ダ一國遠ク中ノ利害を説ク能クモハ誤恨むのみ

薩列平依之住に次作

ウラニ 八月吉日

正次ハ新刀ニあるが天正以の治工といつた世ふ多かりざるが
又圖す中氣文より鑑者氣きたるより忠也中心の長ハ寸五分
ハ少し肉アリ長五分ハ寸餘も上ありあべ

國不知

丸ム子

彦五郎壽命

壽命ハ國の壽家の一族ありしと云ふ事あり田舎にありし
至る迄鑑者より大鑑者の事也

角ム子

行高入道下扇

小肉行高ハ遠ハ仙若信高ハ隠鑑あり能似つる也

播磨守藤原國清

和泉守盛經

一竿子忠綱ニヨク似多リ門人ナル歟
ウラ 元禄十三年八月十日

大黒信重作

築紫信國ノ一家歟

藤原貞利

忠道作

井上良忠

稻荷丸 魚道

丁子ミダレツヨシ

角ノ子大坂丹後守二代目カク切シ歟

角ノ子

小肉アリ

相模守藤原泰幸

又長一尺七寸五分出来ツヨシ
小肉アリ

國良

寛文延寶ノ作ナルベシ

源 矢野將監忠宗造之

永重

角ノ子

小肉アリ

藏守藤原和通

友集子よつ書も又つが大坂御給あり

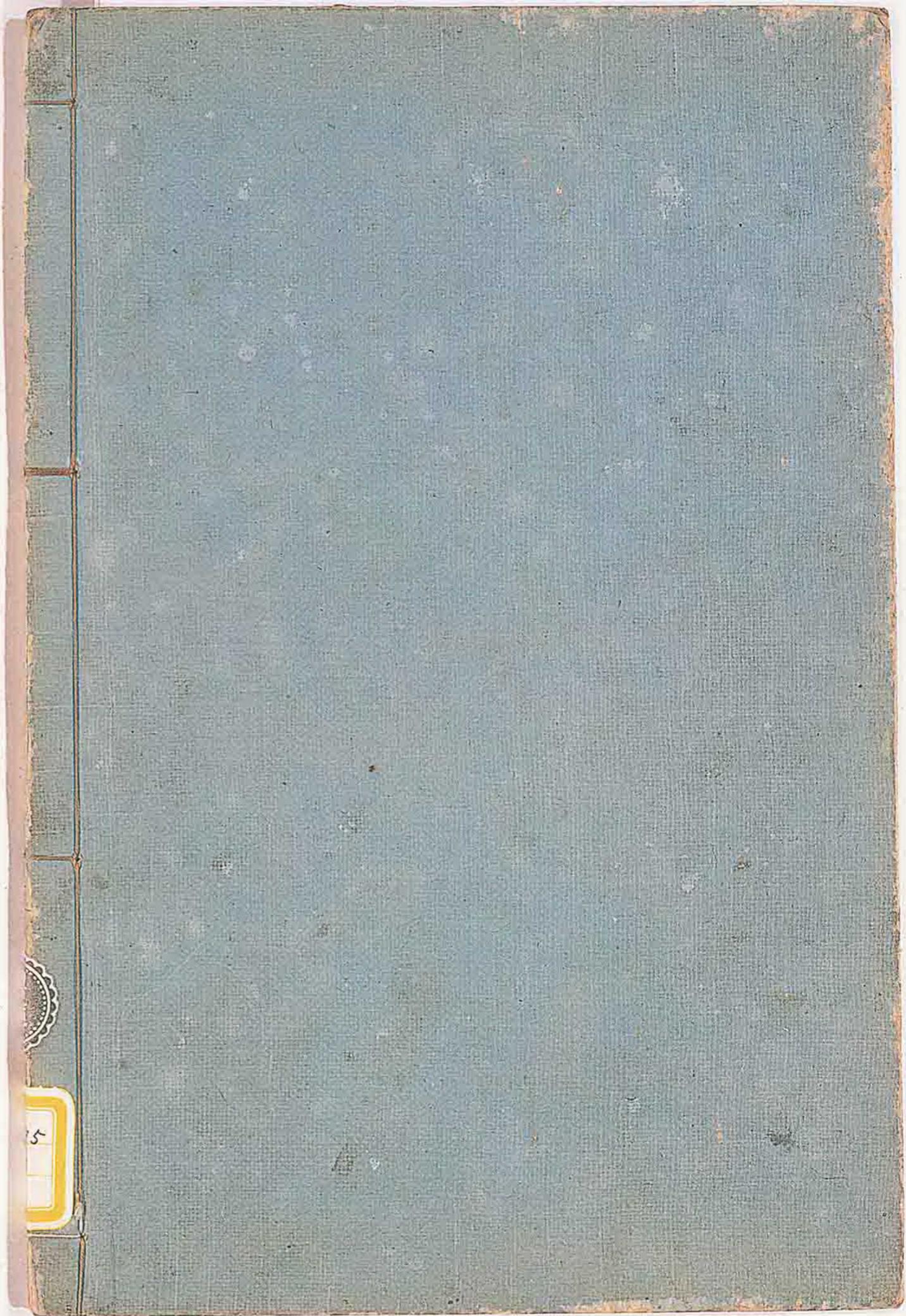
小録自の上より

心 夏六未 文八 乃 刃

九八子

越後守藤原助廣

越後守助廣ハ大津ヲ又小〜大坂初代助廣ヲ作シ能似リ城
海守と銘ヤ〜守も有〜海守出〜海の識者を候
新刀辨疑卷之六終



20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4



LA 1

慶長
以來
新刀辨疑

六之下

新刀辨疑卷六下索引

十一丁	國義	國廣	吉道	埋忠之矢根		
十丁	國貞	良忠	真改	國光	吉光	
九丁	安在	元直	良時	實澄	元安	助廣 <small>刀小</small>
八丁	弘幸	廣助	義長	一英	武永	安國
七丁	蕪光	國廣	包保	助宗	行廣	正廣
六丁	清綱	震作	大陸奧	彦作	慶榮	宗永
五丁	國平	永重	永朝	明久		
四丁	國輝 <small>州豫</small>	國豐	貞幸	安當		
三丁	清一	廣隆	鷹謀	吉永	長義	國輝 <small>州豫</small>
二丁	正清	寶榮	冬貫	蕪房	秋房	安貞
一丁	明壽	同彫物	稻荷住	國輝	國助	兩作
						蕪道



6208



十二丁	埋忠之矢根	義國	國安	久道久次兩作
十三丁	忠國 <small>代三</small> 兼先			
十四丁	兼次 兼先 <small>工三</small> 壽格			
十五丁	重行 <small>形山</small> 長信	高廣	卜傳	
十六丁	鷲 安次	安英安貞兩作	光正	國佐
十七丁	友道 久國	輝廣	清重	國宗 忠金
十八丁	祐定 <small>作三</small> 清重	國平 <small>坂大</small> 國重	盛國	國平 <small>州薩</small> 重信
十九丁	包國 昌常	國包	廣隆 <small>鎗</small> 安倫	虎徹 長旨
廿丁	忠綱彫物	助廣 <small>角</small>	助廣真改兩作	
廿一丁	兩作之記			

索引終

新刀辨疑卷之六下

山城國西陣住人埋忠明壽
 ○慶長三年二月日

辨持○埋忠及八郎重代



世不埋忠明壽作彫物子長其漸と銘せし者又今不持埋忠其長其漸
 重代とせし者案とるより長其漸と銘せし者又今不持埋忠其長其漸
 久道男之男之又八郎重代と銘せし者案とるより長其漸と銘せし者又今不持埋忠其長其漸

「はこマテ小肉アリ未ハ角ム子

○濃羽古鬮無別五休傳
山城國伏見稻荷住

「ウラ 慶長五年二月日

此工の名入るふふ一関龜文小毛大辨の作也

小肉

○伊勢守國麴又子

國助ハ四代目あり

○河内守國助兩作

「角ム子

○丹後守無道

「無道初代の異銘也

上ケ残り二尺九寸六分

中丸ム子

○山清

地狭強く重なる龜
文出羽守助重に似
たる大坂濃羽ありん

「角ム子

石州住藤原寶榮作

「無道ありぬの如し

「角ム子ニノキ高シ

「ウラ 寛永十九年二月吉日

○豊後 三佐住藤原冬貫

「ウラ 安永七年二月十日

冬貫ハ豊後國中川の銘治今の人也地狭強く重なる龜文出羽守助重に似たる大坂濃羽ありん

初代忠吉父子五左衛門吉長永も切一掃する上もや初代忠吉出来

肥前國佐賀住吉永

角子

陸奥會津住長義

上子や忠吉かこの如く切一掃する上もや初代忠吉出来

小泉又ふして
長通う出来の如し

豫○初來山住三好藤四郎事

和○大榎藤原國輝作

藤四郎國輝ハ二代目よりして享保中の人也其後細小能自いあり
上子也國と切一掃初代輝故々老後の銘國と切一ハ二代目名也

角子

豫州松山住藤原國輝

○明和九年壬辰八月吉日

先祖三好六右衛門清長寛永中孫お松山城主孫お侯の家祖也其
其子孫四郎合長寛文中和泉大榎藤原國輝と名付す三代目ハ松
州大坂小林伊勢守國輝ハ門人陸奥守榎輝政と和泉大榎國輝と名
子として元禄中孫あつた白江おち和泉大榎國輝と改む四代目
は伊勢守榎輝と名付す父小泉守中太坂ハ往伊勢守國輝ハ從
之孫也其後五代目亦忠吉子として孫は伊勢守國輝と名付す父小泉
守中太坂の如く伊勢守源之進お松守ハ後孫おつた白江圖守
おすふりて其子也其孫お松守上子也六代目ハ三好忠吉
ハ長次と云作父お同し

河内守國豐

按する小國豐ハ
中河内住來の

諸ある一城狭くして強くまゝと云ふ處又白川一中心の仕立懸る所也

角子

河内守深來貞華

ある事少くは海より大坂進出と云へて長華小似て傍也

さる上あり

救平安當

此治工多集一書并小國人の書も漏りり然るに此を作お常お廣
き不能似て薩州飯沼ふるさとの色あはるに安當かく切しりや

薩摩國住國平

國平の作後集小又一りりといふ中心の出流仍る今交り國す

小肉アリ

根津守藤原永重



奥列仙墓住和田半之助房長依貴僧修三七日護摩命
永重造○之附與○從五位下兼山氏兼丹後守藤原
貞政即落二脛常帶焉 貳ハ脛

永重ハ奥州仙臺の以工やあはる集に足らず地狭細小松目湖ハ
小川流多し水より仙臺より物代國包みあはる物も足るを傍り

九〇子

永朝

羽山形の城を新元彦の作也地味細小ゆ縁あり器もくを以て
足る能出するあり西より之を君ゆして刀劍を造るは好まら
大九〇子

○寶曆十四甲申年三月月関氏爲源晴久造

九〇子
○蓋藏元吉英真十五枚申伏造之

古器を多原國より也地味細小少く器好くは焼くたは縁後
松新あふり作又同一疑くハ九〇子ある也

角〇子

山城國住藤原清經

清經ハ國侍り出来は趣もて位劣なり寛文比と云へり
九〇子

○震作之
寛文九年八月日

刃一尺七寸五分 鋸元式寸餘 縁理走り上り信お急又
先三四寸餘 程地味強し 内一震の言を云ふらん
於信列松本以君命鍛

甲割
殘一折故慎除銘所持
團代子

角〇子

右陸奥守信州松本小切力と云へり

小肉

○三宅作○

ウラ二月日

地味素く小流多し一廣經理末の子代齋の如く芝長の比と
丸ム子 八んたま

○慶榮

慶榮ハ寛永此の流治と見へし一廣經理守
カクム子 其氣流の志を之系の末尾房の如く或ハ江戸の吉正
小毛似し上

○根良住藤原宗永

宗永ハ大坂の住角野書より見ゆる其集より
海より經理初代たけふ並ぶべき上りなり

小ニク

越後住無光

ウラ○文禄二年二月日

地味強く細經理関の奈良太郎兼常小似し上りと云べし
丸ム子 三書に道漏す

自信濃丹波目國廣

予見る所の物ハ結身よ位の甲乙辨すべし一形堀川りのと
同し國廣の末集べし一書の大坂の國廣あるも知るべし
小肉 評を待耳

○濃列住包保

陸奥より別人あるべし地味細に細經理奉命
一家の住小似し稱と
ぶら

○加任助宗
ワラ 廢○安貞年初冬目

後集子云助宗ハ津田助廣ノ門人ありと今此記慶安の事
号河多氏以て名好を初代助廣の門人某べしと書封に
して甚く惡回付也也流ひしあらん某又二代をてれ書
と云く者の父あるも知づくべし掃きたるもの也某安二より
延寶元まを二十三年と

小肉

肥前國行廣

あ工古に今世人ふく位も今の右吉忠廣に同

肥前國正廣

小肉

角ム子キリヤスリ

又長二尺三寸一分

平安城藤原弘幸

弘幸ハ後集子云如く堀川住居切る中心某と出さるる如く後に

河上



島田小十郎廣助於信列

九子

サシ表

負享二年二月六日

島田小十郎助宗と同人あるべし津田助廣寛文中の化
をアんとす如き大壺又も掃きたる上と云

小肉アリ

於榎乃羽平安城源義長

大権程の丁子島又大坂出羽も助信位の治と云ん
たも寛文延寶の比あるん

筑前國住入英造

同國吉國ホの一
新集べし其出来
位在ふ終似り
延寧と和比こ

武永

武永ハ高集一書不見へ
む地鉄細は極目無い
加多鉄子の治工あらん
上子ちあて

出月大藤原國路

元和八年二月吉日

此國路ハ初代の治手号を以て記
す

戸川達富使武藏太郎安因
於武及麻布真丸鍛作之

ウラ室永七庚寅年八月吉日

小龜又又
稀とびき
にあらず

薩列任一平藤原安在

ウラ 應藤原義正之雷而作之

安在ハ寛平以来の治治し正良元平亦同佐のゆゑこ

薩州住元直

ウラ 安永四乙未八月日

元直ハ奥小左衛門と号し和泉守忠重の孫とて元直の子こ
元平元武元安三人の父とて佐父子同列こ

隅州住良時

良時ハ薩州守良の門人あらん

其出来より似たり明和安永の人の人といふ

薩列任 實 澄

又長二尺一寸二分

松月肌廣スクホツシ系純後
正良元年元武亦同位也

安永七年二月日

薩陽士元安

ウラ 安永八年八月日

元直々の男也元年元武の才也同位也

越前 守 助廣

中肉

和泉守藤原國貞

元禄九年八月吉日

世不其改の銘不出来あるを國者國の銘せしむるは
改國者國の銘改と号す然れども是は銘のたぐひは
其改子乃そとるなり 應改すべし 強はるる
不あり 國者國の銘改の銘すの事

肉ヲキ改ニ因

其上良忠

安永七年八月日

或云良忠の出来改く改男ふして國者國の銘す
もあるべし其出来改のわし弱きも銘す
其改と号す今此銘にふつて重てなり 出也

和泉守真改

按するに寛文十二年終るの儀あらん

小肉

ハシウラ
ハキ元



揚別住吉光

角字

吳ある中の故重光 友小出の正作

中河内小終
る物有

揚別住吉光

大坂丹波吉原の二代目金右衛門門人小く作師あり
此地狭細不すうれ又白の津く穢もたる上又の中
仕立とも小吉の書不終るを
切しとも不終るを

小肉

和田駿河守平國義

國義ハ百集及角野一書

寛文八年二月吉日

小も尺の儀大坂の治あらん於中のすれ小て位大坂長

小はる

城川住國廣

慶長十八月日

右ウラ
流

和泉守十道

ウラ 寛文十一年八月吉日

系初代吉道とある集英子は本集あも出さといへ
東のまじりてはるるに足るるの成はて後に出さ

日月二十一年六月

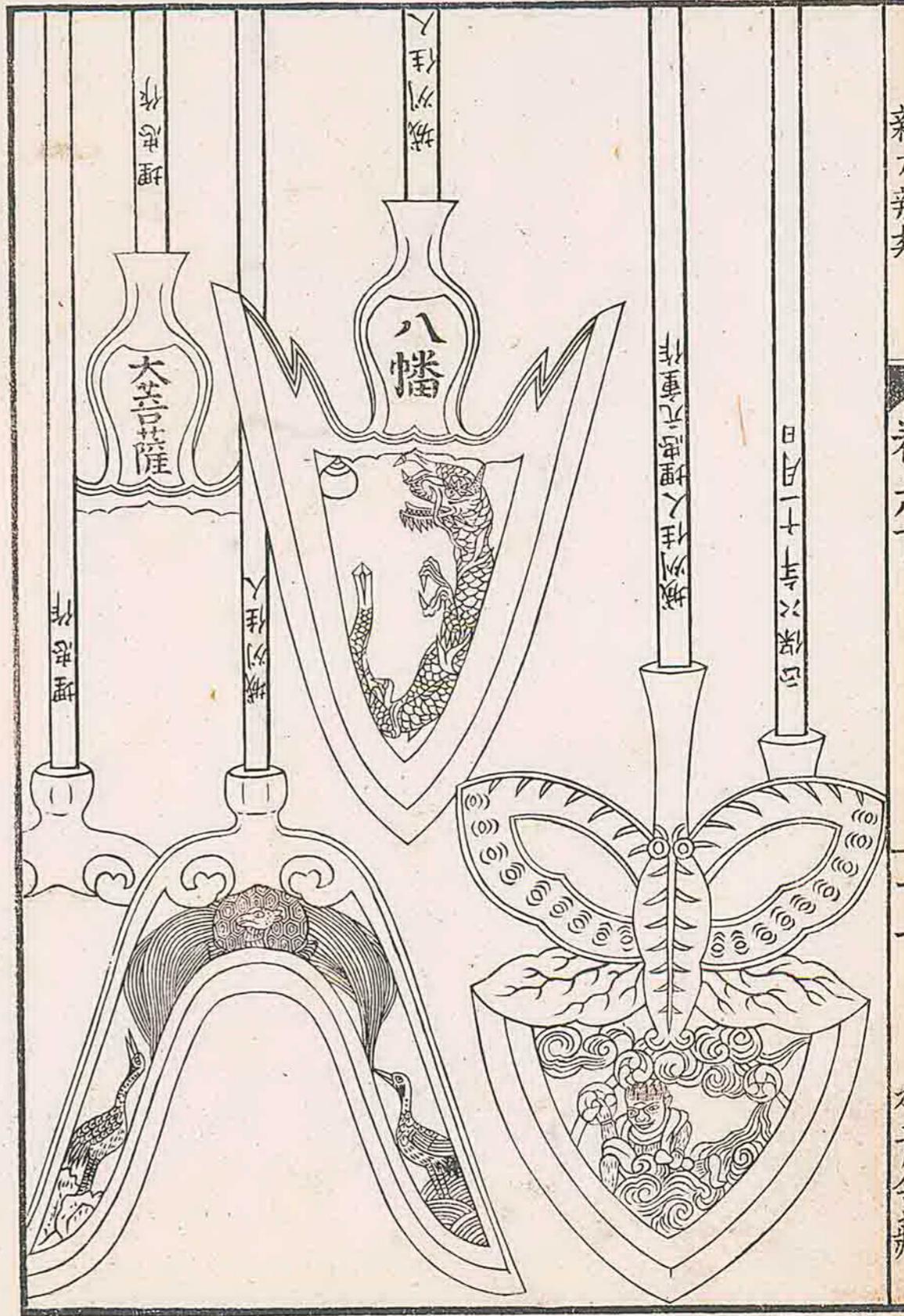
城別入埋元重作

城別入

埋忠作

埋忠作

城別入



は一本ハシ路
あり

城別入埋元重作

此五本の矢根ハ弓家

安富景山元輝翁所持

あり

日月二十一年六月

幡

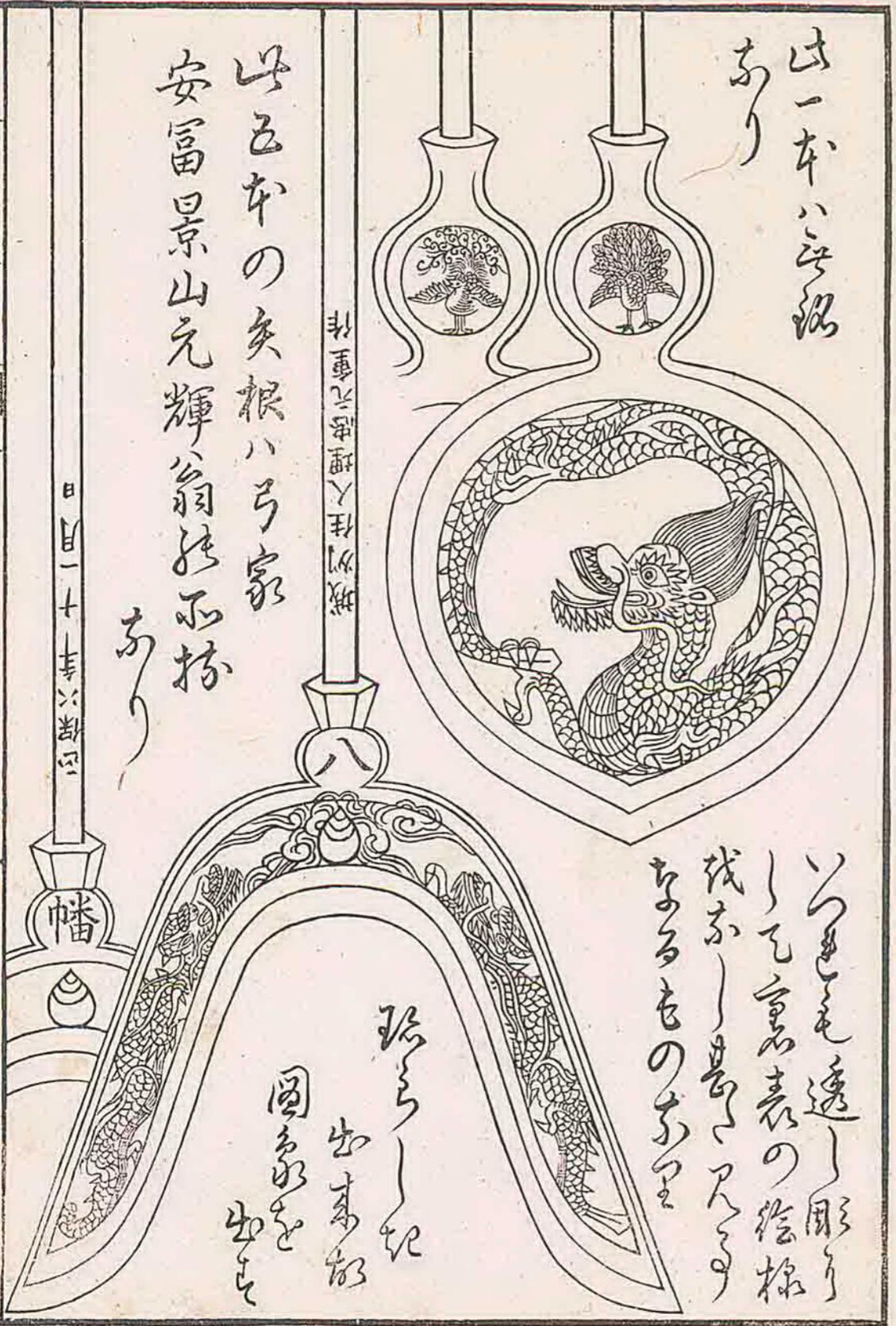
いづれも透し彫り
して重なるの絵柄
残る一書ハア
なるものあり

珍らし

出書部

図を

あり



豐後守義國

ウラ三茶堀川住人

吾一刀片平化子して地狭大辨
小龜文地刃砂流堀川國安小のりおと里ふるものこ

國安

勝れ言出事加まて出立

西面元ヤスリ大切先
長二尺五寸一分半

國安

はのこま
流もろ



近江守源久道
嫡子源金四郎

中心ノム子ニ

金四郎 生年未ハ山業ニ作之

運者有天 善戦者不死

元禄二年八月吉日 久道六拾四歳ニ造之

小肉

信濃大掾藤原忠國

刃方九シ

二代目

因幡國之先代國者其後及集花子予も其に出立とい
つとて未だ家系成詳不せ凡は此ころハ人蓮花吉承流乃
正を石を以て尺れを元祖忠國と云は勝國と銘一系出
羽大掾國治門人とあり又刻國と改寛永九申年因幡國
多取つ切忠國と改同十一年ハ有信濃大掾不文殿を山本
ハ郎右衛門といふ寛文六年迄存る故之後に忠國ハ山本
ハ二代目不しく又山本ハ信長と云地狭能志あり復理ハ
三系の如く勝れ言出事加まて出立あり寛永七年輕解信仗
つ下さるる薙刀太刀を能る言保正年迄存命あり薙
刀二尺中心二尺太刀之尺八寸ハツ尺

信濃大掾藤原忠國

刃方九シ

三代目も山本ハ
信冬史と云父祖
小方ね上上云

忠國

四代目も山本ハ信冬史
と云初ハ信濃大掾
と切を身二字銘云
今六十餘年之代々
上云と云云

丸ム子

因幡息取住藤原魚先

三代目

魚先の先祖ハ日
並伊助と云關の

魚元ウツ人ともある天正の比信前ハ信冬と云云二代目ハ
信前出生日並越前守と云云魚先と云云二代目ハ信冬史云
我々信濃之慶長の比と云傳ハ信冬史見之代目ハ日並宗
十郎之世に初代の魚先といハ信冬史ハ信宗十郎あり

「マルム子

因列住魚次作

四代目ハ因幡出
生云日並魚
若衛門と云云

あこ年ハヨリ魚次と云初ハ魚先と切ハあや後集の九
右衛門と云ハ兵右衛門ト云也

「丸ム子セシメ

因州住三兼先

刃方面トル

小島文ハ地漢強ク上云

小肉

因州住藤原魚先

六代目ハ今の治上にして上云也信冬と云年實云有也
日並改メ若掛並也云

因幡國住藤原兼光

兼光の
子兼光
孫兼光

作兵助小同「小肉セシメタツ」ありし出因幡國者系兼光ハ其子兼光ト云ク

因幡國鳥取工濱部壽格

天明四甲辰歲二月日於
武蔵國江戸鍛

因州蓮花寺承欽ハ予ハ相劔の門人也其國工濱部格
左衛門代ハ鍛冶を業として其子兼光ハ其子兼光ハ其子兼光
江府より出川ハ其子兼光ハ其子兼光ハ其子兼光ハ其子兼光

以て予ハ其子兼光ハ其子兼光ハ其子兼光ハ其子兼光
駿あり其子兼光ハ其子兼光ハ其子兼光ハ其子兼光
初ハ其子兼光ハ其子兼光ハ其子兼光ハ其子兼光
又壽格ハ其子兼光ハ其子兼光ハ其子兼光ハ其子兼光
其子兼光ハ其子兼光ハ其子兼光ハ其子兼光
貞平貞佐貞藏あり

山形家士山口昆右衛門重行

ウラ天明三年二月日

重行ハ其子
の人も其子
米澤任正通

同不吉山子英代山形任正通ハ其子兼光ハ其子兼光
位のりのも也○近世ハ其子兼光ハ其子兼光ハ其子兼光
ハ其子兼光ハ其子兼光ハ其子兼光ハ其子兼光
小弱後のみ好む人多キ故其子兼光ハ其子兼光

○奥列會洋住長信

長信ハ本集
及角野々書
不も尺三寸

其出来系二代目如相大振國返々角又よ似て地狭潤以を
と弱きことあり信也系に同

角ム子

○米澤住高廣

信々く地狭細小自ひ有て系系々々田の如く上と

カシム子

○常列水久住坂東太郎鎮正八道卜傳

為集に出る如し此流と種々々々なる如く不出と

○獲

小肉

ウラ

○矢田作十郎源助心非就劔

尾張國名護屋の相劔家矢田作十郎なる者あり
六十餘歳なるべし此非就劔其人の佩るあらん
此流の作劔刀をアムにさの上とハ見らる加卜の風情を
のみ好高に鷹も知るべし

マルム子

○大和守安次

經理又強々見
るありお徳同
人ありや

ウラ金象眼ニテ

山野嘉衛門永久判
參ッ胴截断

寛文二年霜月十三日

新編 武藏野 卷之六

新編 武藏野 卷之六

新編 武藏野 卷之六

新編 武藏野 卷之六

○武刃刃住 安英 安貞

ウラ以南蠻鐵真上 鍛作之 武藏太郎安國の製

煉於八幡燈 淬於瓜割泉

三郎兵衛光三造

ウラ ○安永八年冬廣

光正ハ名棟國小濱の治工也國物惣先と同位

藝州住源國佐

國佐ハ常陸 國ノ戸小佐

則房の門人の名潮と云廣島に住 此ノ保手留の工にして大解の上也小龜又多し

角ム子

○紀伊國藤原友道

其集束の出と 之田重行乃 如きもの也

土佐住上野大掾藤原久國

ウラ 享保十三甲午二月吉日

久國ハ上野大掾 國益う子小と系 金四郎久造の門 人ヤ其集束

角ム子

肥後守藤原輝廣

刃長一尺七寸五分

角ム子

肥後守輝廣

異銘ありし再い 後に由と

新編 武藏野 卷之六

新編 武藏野 卷之六

新編 武藏野 卷之六

新編 武藏野 卷之六

新編 卷六下 十一

角ム子

長州住藤原清重

物も他形も其の古小者もつぎにあつては程業を勵まむべし
後乾子のついで

「フモテ」天下 ○泰平國士安人 直信重代



山城守藤原國宗作

細慢理

越前の國清國宗とも銘せしや中心作位も今く同じ又國
清山城大掾と切しつるあり

小肉アリ

忠重の忠重の弟子ありんかおるといふは

薩刀加住忠金

よく似たあり

「ウラ

延喜の初八月日

角ム子メントリ

備前長船住

七兵衛尉 宗光衛尉尉

祐定作

此三人ハ永正祐定の三代の末まで寛永
よりいふ治寛文は其工也上

八幡大菩薩

末世劔子孫寶

周防長門の二王位ありありし
あつて其末裔あり清光祐定
ホのこせし

備前國住二王清重

模刀羽住國平

「ウラ」 延喜七年二月日

其及の川崎の住無湯長船の所を國とる如し

新編

卷六下

十一

水音舎藏

新刊辨疑 卷六下 十一

南中國水田侯々々國重作

九ム子

和泉守子本院盛國作

薩摩國住國平作

國重國國平作
工中ハ續々ニ終部
ニ申出也

小肉

武列住藤原重信

奥州振あの重信亦武州より又別人ありや詳あはれ申出
美州の冬屋小似て美味終小島文と書集一書も申出也

カクム子

越中守包國

カクム子
カサ子アワシ

包國の中心支集の銘正し〜〜〜故不交不國也

德永式部卿法印壽昌
嫡流藤原昌常慰鍛之

德永氏の作

カクム子
ヒラセシメ

ウラ 天明四甲辰年二月日 地味出本在
に正秀不似て後理其ものをより〜〜〜せん

於東武 奥列住人藤原国包作之

今の國包ハ

人ハ〜〜〜海も亦同〜〜〜理のそはハ又味終もあて今の
海治より〜〜〜統のりはら又味河〜〜〜と志る〜〜〜あり

藝列住藤原廣隆作

新刊辨疑

卷六下

十一

大正四年

寛文六年ハ國邊なる如し同七年二月と切りハ津田被ある物廣
 少切を鑿能抽出し國邊の鑿不同し同八年以後の鑿を
 ハたよ出た處他の鑿也極そ中心は双方九きたん出た物也

津田被刃守助廣
 延寶三の二月日

刃方九ク面取

長二尺四寸一分濤瀾龜文

中心先
面取

井上真政
 延寶三の二月日

寶曆年中平系師に在り何丹波國の嘉慶也此に生政と
 助廣や此處他をよきと比せば仕して急あらず往て見
 り何のよきと後遂小關東に在る天明二年此初冬刀商

鑿能新六の形者一刀被携りあり中心を包多鑿之を
 乞是を見はる事被磨る破靴不入研ハおれ人為能目
 録る意と記能工鑿研ありて急務志録事に或ハ地ある
 の如き極清を先出鑿也能不見留志むれを先録ハ村書
 忠賜廣ある人志能録能直家上の出来あらんといふ事
 是を能る事んあらん地録する事也や剛潤大極小鑿
 録録として自然録する事也能る事也山の如く
 又大あらむと小あらむと極そ玉を一つ録ぬる如く寛文の
 末迄寶の初此能録廣家の逸文子録ふととと二人の
 見録不る如く即ち刀鑿を録る事也此處他也三十とある
 已不此能の刀ある事也聞今初て見録事をも録る事也
 此處他也研阿内海依者此能録志と録志むれハ一

然も何れも文鏡の事あり終に新刀の事あり是れは
 傑の作者なる所あり一日門人問て曰先生此刀に遇りて
 相剣は感名や相相絶り於多事其改の上も助廣を
 以ては直化津田の表不認し井上學名に認ざるを
 先生の相お於新刀ある事予言曰然らば此一刀は位
 別能出る所あり是れ是れは先生改に當新者も其改
 是れとあり助廣を容として作也然も此新刀は比
 何持言下傍ありんは直化のみにあらむ他も亦是
 所新刀の事ありんは直化のみにあらむ他も亦是

新刀辨疑六下終

家君弟に門弟子小教と曰新刀をおせんる古刀
 是則は其來あぶし今能お習古刀は天國宗近を替
 是先傳あり栗田口也相新刀は助廣故弟一と一
 志を以て今も其次出新物は其改國廣ホの數二あり
 ○門人問曰薩摩の正房お負を其改目標と云説を
 本より信せば其いふ先生は評をすんお君答曰
 以説ゆ廣を其改に及るはといふお似たりお法未
 熟の言も其説を以し○一人曰曰小林國輝數代あり
 對て曰其系を以て其いふを即ち其々浪兼不捨を
 を能るも其末也刀叙不承も其集進一人而已也
 末も故其は其系元志津量氏長者孫木の嫡流也
 是刀を其流を以て又其末也則は其末も其系也

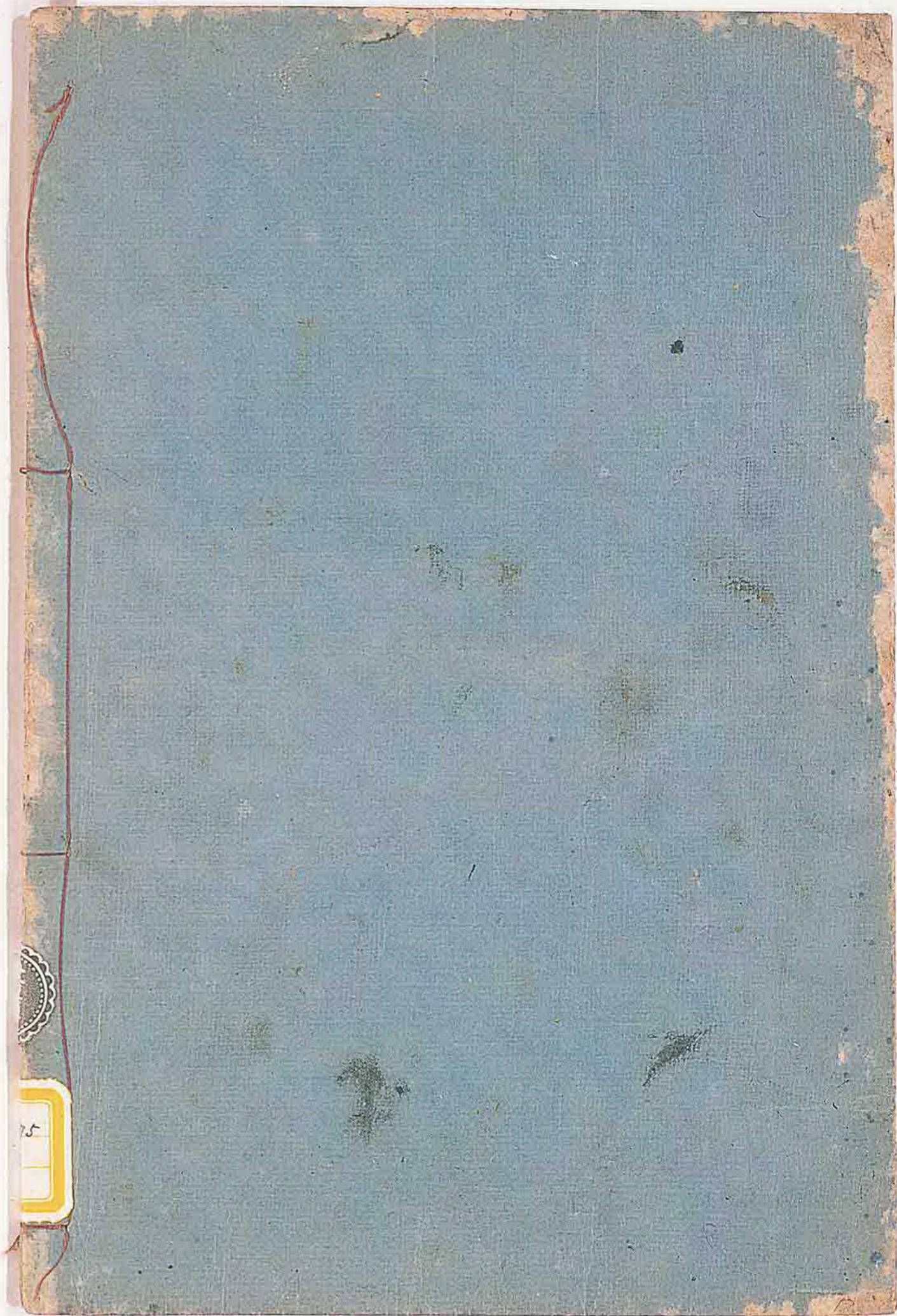
浪華と比ふ不亦在岩城浪木ハ二代刀劔を海に流
 華鈴木ハ小刀成化朝のこころの類ハ國々少々
 多う取而る唯刀劔不在○同上化毛打卸也又
 の強り甚く強く却て切を研製度乃至多漸く切
 出るやい少況も然るも者や答曰子の強物
 不始より切ぎ軽ハあし是研を知らざる者の言
 那輕ぶし ○又問を者し今從て造物無所打
 又も土増打して造我出るもや答曰是痛を瘡
 志て廢人やあるが如し剛強ハ淨は種よ記物を何
 哉其は輕くものあらんや○一人曰は比羅波の友よ
 其書を贈る席徹お愛其及ハ真の化不て世に多
 う〜び〜も入るの難むは故也又定まると云又系

浪治ハ系人が能見大坂浪治ハ大坂人が能見江戸
 加治ハ江戸人が能見るを謂者多と云希ハ先生
 の評を待多是も答む家也曰予東武小下りて
 予り日に數刀成見造る系少増れ其是故
 此三子を見るも亦少の如く造て業無増るざれ
 たるを多況や其國工ハ其の國人が知製と其説
 於多おや○又曰浪華に銘六と云者其は濼一連
 して新刀の銘多く其は銘六切輕制ち家も其
 寫しを多しおはを者や答曰銘六ハ楊弓少ハ其
 と云其物仕めて世に是を銘六を呼打此物
 たるるに銘六ハ自ら銘六也又次郎其島孫其島
 ハ浪島小其島三島其島其島と云七ハ人其島其島

澗やう同く新打は臨切也其比東河子毛系あ味夷
 川住長吉と云存物海流も其是毛依名ハ六兵衛と云
 是木の鞘と室町の比より諸國往々これと云
 詳不其鞘に及もは唯刀細ハ諸國の要意たる事
 を旨やとて其温定する時を存の教づるに
 神は如しや其の刀教をもつて一可否を示
 亦不其諸弟子候て曰小子亦亦あ
 此に至るるは皆先生の力也と云
 於甲辰年暮二月

男 總田吉徳識

新刀辨類追加終



新刀辯疑

七
終

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5



LA
5



6209

新刀辨疑卷之七

附録上



吉信

山城國住人埋忠大和方源吉信大和吉信源吉集の寛永中の
吉信とい別人輩べし元禄比の源吉とよま也

彦兵衛

伊豆彦兵衛小山誠住人あまぶしあひ吉信を彦兵衛と云ふ一寛
永比の右工と云ふ一り彦兵衛と彦信の誤を入しと云ふ

彦市

埋忠彦弟八郎彦の忠彦彦作小形物彦市と彦刀細おも造れる彦
形りののみ彦や未詳

鬼道

日向國福家山伊豆彦と源吉後集の伊豆彦金道あまや又二代目
あまやの伊豆彦とあ彦彦

菊廣

山陽國平田彦十あまの彦を切板目の形あまよま也

廣信

海防佐藤彦彦彦弟の村彦信と源吉地鉄あまよまあま
彦彦集の彦彦あまの二代目彦彦彦彦

國道

車あ隣任持系國道伊豫國宇和郡吉田の郷居すて宗師あり任
せしと也上よりあり

國光

山城任國光元福宮宇西浦氏の郷居すて一子ありの上より
ハありん或ハ歳長つて數まで二村た近也印也

金道

伊賀守系系金道の四代目世任父の郷の如し龜又みおし上
より

金道

右田部系代目也父お目し少ハあり也伊賀守ハ代ハ日本海
治也近也印あり

金道

六代目今時の金道雷際の小刀多し日本海治家道と印も生
来りあり上より

金道

系部の任人伊賀守系金道は代て居ると郷す地漢御ふ古龜又を
上より日向國へ下向すとしり

正俊

戦守の四代目或云伊賀守の流男として伊賀守同存す作ハ代
目伊賀守と印也

義道

相摸守系道ハ近江守二代目系四房の一人又和泉守の二代目の弟子
たり上より也之代目之道小似たり

吉道

系丹波守吉道の四代目は作父同位也地家能志ありて守ハ其
の上より也

吉道

系丹波守の五代目世任父ありて守ハ其の上より也作世
より

吉道

系丹波守の六代目と時の郷治すて地漢白く守ありて守
より上より也

國光

大坂中河内守系武系國光次子系の比ハ御州任國光と稱し
小林つと左ありと稱すと一書ふんつかり上より也

吉道

大坂丹波守の三代目世任父也職御ふすて守ハ其の上より也
す其の係集りも守りあり

吉道

大和守の三代目初代の郷のとし小郷ありて守ハ其の上より也
祖父よりありあり丁子龜又の上より也

廣高

振州大坂任河内守系高き子系守子と稱す父ハ其の上より也
源白いあり上より也

廣重

系守子の子ありて守ハ其の上より也守子と守作又古松丸守重と稱せし物
多し郷御ありて守ハ其の上より也

宗次

孫あり大坂人但る當宗次と誤り此作地決細ありて弱く地
細ありて卑し上よりあり

光雄

根拠方極強味を良光雄と仰る然宗子より少お目し能く
多し上より

貞弘

尾陽任本國治地決強く能くありし務之に國志ありと仰る
仍て多お載すむ上より

國治

遠江吉野國任孫系忠廣ハ遠州の地ありてし能く數人の如き
上よりあり

忠廣

和州を掃の任包國於孫府造之仕任坂川國廣よりて上より
或首紀年國よりとつ

包國

甲州の任兼會天正比の地治りて銀中心より出まるとも實の流
つて上より

兼會

武州任安利ハ大和守安定より出まるとも如く大とて上より
て務れり上より

安利

於江戸系曲ハ南東決造之地ありて和曲江戸よりて上より
上より

義助

常陸守宗重方坂の二代目より出まるとも和曲江戸より上より
能く又又父よりあり上より

宗重

行徳子の二代目文珠市ハ南江戸より任す父松文珠よりあり小
能く又又父よりあり

弘包

小笠原昌高ハ別人ありて戸川家蕃助の仕也と一書にあり
ありし書よりありあり

松齋

一書小云但る國出石弘系庄後城也國光東流より弘より
ありし國出江戸土著あり任書子ハ城あり國任山崎也孫國次
後ハ山城守國清と改む坂川國廣より國光より孫子傳治と
承て傳國光と改二代目書ハ國正三代目書ハ國正四代目書
村國正ハ下坂あり孫子孫系昌高より子と承承系と切嫡子
孫系正光と承す其潮河より任上よりあり

國正

一書云石道ハ傳系一書云の書云其長明中直江國藩生郡系傳
太子開基石堂寺のつぎに任地名を以稱号とて諸國の石堂傳

是一

一書云石道ハ傳系一書云の書云其長明中直江國藩生郡系傳
太子開基石堂寺のつぎに任地名を以稱号とて諸國の石堂傳

兼辰

澁州上者知任兼辰地務細小黒く小龍又少く方藤の作也

壽命

澁州任壽命家系保中の作也地務細小隠理少く弱き也

信舎

行州任信舎任信舎地務細小細直女よき也其直女より直女く

長治

行州任長治地務細小細直理多し小十郎細直同く

助宗

行州任助宗小十郎助宗代より一子あり録りて花やう赤太龍

國包

奥州任國包其任初代ハ直集小出より二代目の任ハよ手ハあり

安倫

右同任安倫代より初代ハ直集小出より

兼定

奥州任兼定ハ關和泉守兼定より兼定代奥州任す

長道

奥州任長道有兼小も出兼代あり

國義

奥州任國義ハ直集比の任也地務細小隠理少く弱き也

義正

右同任義正保中事の任を直集國義より直集のよ手ありあり大

國虎

東奥任國虎任根中和泉守初代ハ直集有兼小も出兼代ありと云

貞則

形木加賀守貞則任初代ハ直集有兼代より一子あり二代の任也

貞平

東奥任貞平任貞平と稱す中心直集有兼小も出兼代より一子あり

貞資

東奥任貞資任貞資と稱す中心直集有兼小も出兼代より一子あり

康氏

代河任康氏と稱す直集有兼小も出兼代より一子あり

勝國

加州此後尼勝國幼代ハ爾集力也了り當時と代連孫す之祖と如く上よりいあらん

兼若

加州此後兼若代有享保の旨あり此後細くして是後自い多孫れり上より元祖ありと云ふ也

高平

加州此後高平代有享保景平清平と云ふ連孫の治工数戸ありと云ふ皆中作を足すありと云ふ也

國清

此後國住山清と國清當時の國清ハ凡七代目歿し上よりいありと云ふ

康繼

此後康繼作之と云ふ當時の康繼何代目あるは作國清同位のりの上よりいありと云ふ

重高

同國播磨重高原重高と云ふ時の重高中作を足すと云ふ一幼代ハ其の後兼若出兼代連孫す

國次

同國伊勢重高原國次若小田一兼代きん孫す

宗道

上総大掾重高宗道元祖より兼代目なるや々の宗道中作を足らん

信仍

ろ兒重高原信仍若小田大井氏の寫し贈ふふ一國清康繼の外ハ中作を足す印陸降しかつし

忠國

同播國住信濃大掾忠國兼代ありと云ふ書ハ兒ハ延享の由國ハ上よりいあらん

兼先

同阿の若先兼代有先祖の如く上よりいあらん兼先兼次一書小兼一之記あり由國よりハ孫れり能

氏繁

播磨國於山播山氏繁と云ふ兼代有延享の氏重ハの代目兼一し之祖あり及之祖と云ふ大由也との氏繁も上由也

秋弘

播磨住人秋弘秋弘孫孫と云ふ上州より酒井重高傳て播磨一孫と云ふに孫弘弘一と云ふ孫孫と云ふ

秋盈

日赤の住み秋盈と四中より一住外秋弘一と云ふ兼一

重貞

播磨住人重貞播國住重貞と云ふ地廣神志能又其由の如くあり孫自いりて孫れり上由也

祐定

播山由那大掾と付の人源重貞と稱す幼代上野大掾より五代目兼一し上由也

祐定

壽光

壽守

祐定

弘吉

正吉

正盛

國重

河内守祐定ハ其の源治ニテ源ハ成ト号スル也又源ハ成者次
ト印テ其の作名ハ河内守壽次ト改メテ號シ河内守トハ印シテ
七ノ御尉祐定或云ニ代目ト野古孫三代大和守孫四代ト進立代
源ト進立代ト云々祐定ハ壽光ト改メ和歌山守の治ト上ル也
佐阿國其孫任人トシテ河内守の源治ト云々祐定ハ其の孫也

佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其の孫也

佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其の孫也

佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其の孫也

佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其の孫也

佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其の孫也

盛行

輝廣

廣隆

慶幸

方清

家次

重國

康光

佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其の孫也

佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其の孫也

佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其の孫也

佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其の孫也

佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其の孫也

佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其の孫也

佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其の孫也

佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其の孫也

藤原の辨業
卷七
七
水滸録

天狗

廣宣

國道

國正

國房

國輝

辰仲

光昌

伊豫國佐天狗作と落す初代の重國少似て上も也又の根の名
人せしふも不也何刀劔者をして紫衣すやふもあらず初代は
伊豫國古所の佐人也上あふも不也又古所小治と書くと刀劔
もは産まざるも能くあふも國道と云海路伊村と云ふ不任す
伊豫國守事都吉國佐人也事都も任す仍て京の都も出たり

一書云に戸法味と弟子強向古國正者あつと云藤原守和治位
事都比より兼代お務す初代以上も末は八勢を成八國使末と云

一書伊豫守和治國林に能く治政の人後國房と及大和守吉通つ人と兼治
と兼守二代目回路を治者治つ人三代目もを治者守子小市郎と云と守子の國房
和守大孫ハ伊豫國松山佐大坂輝政の孫也今の國輝ハ四代目孫一書
小市郎中二好孫向郎國輝ハ三代目孫一と云

辰仲ハ越前後治つては能く事辰守子也兄弟弟あふ也元ハ
下坂の一家也直也の上も也

光昌國佐光昌と付の治工信國の末也予ハ兄ハ上あふハあふ
と云一と云

重包

朝家

實行

冬貫

忠吉

忠廣

正廣

正永

能く任る田助左衛門の二代目今付の能く治つて父ハ能く上も不
は世奉行國一家の末あふと云

朝家國中は能く孫系朝家ハ近實美和以事一し能く強く白ひあ
上も也

實行國之能く任人との能く治つて能く集あふと云家坊ハ子孫あ
屋し忠り實り二人の外ハ能く農具の能く治つと事一と云

冬貫國之能く任人との能く治つて能く集あふと云家坊ハ子孫あ
りの也

忠吉國之能く任人能く治つて能く集あふと云切忠廣と仰しも同ん事
能く治つて能く集あふと云三代目能く治つて能く集あふと云

忠廣國之能く任人能く治つて能く集あふと云切忠廣と仰しも同ん事
能く治つて能く集あふと云三代目能く治つて能く集あふと云

正廣國之能く任人能く治つて能く集あふと云切忠廣と仰しも同ん事
能く治つて能く集あふと云三代目能く治つて能く集あふと云

正永國之能く任人能く治つて能く集あふと云切忠廣と仰しも同ん事
能く治つて能く集あふと云三代目能く治つて能く集あふと云

行の辨業
卷七
六
水滸録

行高

以高入道ト高也後細不古飛文高徳屋張の級治高ぶし伯考
古行高かとの如くも切し也

壽命

産五高壽命ハ及徳の壽常来ぶし地後而て孫と高まると
因の如くあり後高まるとけし孫れてと高也

助廣

戦後高孫系助廣ハ地後細不古孫自い孫く古坂代の戦高
作の如し戦後高と孫せし高もや不富

新兵衛

策を切高也或云戦高の國信也とたも高ぶし高し高し高し高し
り如し中心も似たり孫まると高ぶる高し高し高し高し高し
を候の

新刀辨疑卷之七

附録下

享保の比角野正久と云者天心の中より享保の末より高ぶる高の治工
の傳來及び居所を記して一書と高予適見ると神澤小平上下の
品をわび又高る若少くす作も世其志の敦厚なる神感にて高
集の事漏を採録する高省き名を以ていらは小配當し愛小追加一
の助と高す又人幸又高及高まると高を採て予に高ると高と高れ

い 家

同名小く高人高者ハ○を以て高を別つ高と高不傲

家時播磨國住人 **家廣**加あ金澤住孫系寛文○近江國住 **家次**津州末

初住源○播磨姫路住高系、正孫利高衛の父子二代 **家自**高あ高是那

は和野住又播磨○高あ仁田高あ高仙七郎孫系 **家道**上高高孫系

家門播州住寛文 **家勝**近江高高系 **家船**播州住 **家永**播州住寛文 **家升**

行辨疑

卷七

十一

水音舎辨

二代目ハ右左衛門と云○但州出石松弘系任孫系○尾州大止位○作
 州倉委任**兼門**尾州大止位○甲州遠見御台村位ハ二井又右と
 称子也院立光と云一山伏の弟子と云て立光也其定兼門大切實の
 子波吉熊門の子と云し惣右衛門と云す子同銘金右左の二代目も
 同銘三井又右衛門ハ其孫**兼清**尾州鹿見崎位父より未詳但文ハ清次
 と号、其孫ハ宗一日本右衛門と稱す、兼貞也切○按州位○按州實任
 同國神戶も位○**兼常**越前國丸宮位○同國一乘位○按州
 大坂御所位ハ京都も位○**兼道**濃州改卒位○**兼家**
 前國下総大塚**兼峯**國不知**兼英**按州位吉屋大坂も位寛文**兼家**
 京都位○按州大坂寛文**兼房**尾州大止位○**兼實**波平も位○**兼**
 州大坂位和州大和也ハ陸奥守と云也、又右衛門と稱す○
 越前國高田位ハ右衛門と云○**兼**和州實任正以与大和右衛門切○**兼**

州東條庄下も位○**兼**尾州倉津位肥後守孫系**兼貞**濃州實任小少將
 津路守、其系實永○**兼**尾州位寛永**兼明**國不知**兼**和州天正**兼定**也
 江守實任人分守**兼氏**按州大坂位○**兼**京都位○**兼**尾州大止位○**兼**大
 坂位ハ多氣郡小倉郡位、志津之郎二十二代志津又左衛門と稱す、子
 治之衛門子也志津之郎と切治之衛門ハ其孫**兼信**按州大坂位寛文
兼辰越前國春日山位、天文○**兼**尾州小倉位○**兼**國位常陸守其長○**兼**州
 同國位**兼友**尾州大止位○**兼**尾州倉津位下坂守之衛門及て其友也切
兼坂越後も位**兼有**三州宮崎位○**兼**尾州國室尾州大止位ハ改卒
 子也位**兼植**越後守條位其長**兼高**按州位○**兼**山陽國位**兼**越前也左
 任實の陸奥守と同一也**兼行**尾州國位江守其長も位**兼路**山陽國
 孫系**兼陸**尾州國位、文祿○**兼**多丹國位ハ子也其長**兼春**尾州大止位、寛
 文○**兼**尾州大坂位寛文**兼真**濃州實任**兼康**按州大坂位ハ河内守國助

東村の如く、字保。○豊州金津の如く、大塚大、又國字寺印。○城州、字保
國長 龍谷の如く、字保。○豊州大坂寛文。○豊州若菜 **國廣** 相模國隠念元
 和豊後國土國府村松平、城前福井、下坂山城、藤原寛永。○豊州中村
 と保、字保、人、事、し。○日、水、國、高、保 **國助** 豊州仙臺、字保、林、國、好、
 中、及、持、築、石、免、字、藤、原、字、保、只、六、非、戸、國、四、戸、下、向、し、平、藤、原、好、
 本 **國綱** 信、中、山、内、大、和、字、國、信、と、斗、も、切、芝、也。○城、前、大、塚、藤、原。○山城
 國、栗、田、口。○相、州、大、坂、藤、原、八、上、段、の、門、人、本、國、隠、盡、信、之、威、音、万、元、和
 元、永、八、月、吉、白、と、名 **國光** 勢、州、之、重、郡、伊、勢、吉、日、本、藤、原、宗、通、本。○但、言
 出、石、法、城、古、橋、名、字。 研、師、半、六、と、名、其、は、東、の、形、能、を、説、て、宗、業、藤、原
 四、若、原、の、と、名、し、吉、野、可、小、位。○大、坂、武、老、吉、清、の、國、次、と、切、小、林、の、如、若
 藤、の、**國次** 城、前、吉、野、郡、相、模、伊、勢、藤、原、字、保。○同、福、井、下、坂、山城、大、塚
 吉、野、切、寛、永。○同、亦、相、模、古、藤、原。○筑、後、柳、川、尾、塚、古、藤、原。○龍、谷、藤、

本、山城、古。○江戸、河、内、も、入、道、藤、原、と、言、ふ、父、也、入、道、子、重、次、大
 和、吉、安、定、の、門、人、也、子、重、次、の、奥、州、國、包、の、門、人、之、氏、目、重、次、の、安、備
 の、門、人、之、保、の、國、次、八、段、十、段、と、名。○同、亦、山城、古、藤、原、大、塚、切。○同
 法、城、古、お、橋、古、橋。○竹、州、相、代、山城、古、藤、原。○和、田、山、出、本、お、山、也。○城、後
 之、田、山、河、内、之、田、臺、河、**國義** 宗、部、橋。○日、向、國、保、龍、和、宗、字、保。○陸
 奥、藤、原、信、行、國、中、隠、念、元、藤、原、和、新、若、大、和、宗、詳、小、行、國、小、元、す **國弘** 相
 州、大、坂、寛、文 **國吉** 相、州、大、坂、伊、勢、字、保、寛、文。○信、前、之、保、保、保、之、次、五、白
 本、吉、野、の、字、保。○信、州、江、後、高、倉、上、段、吉、後、五、段、と、名。○石、州、邑、和
 那、之、免、倉、字 **國久** 龍、谷、之、重、郡、戸、治、部、小、捕、藤、原、伊、勢、吉、野、と、名、八、段、忠、門
 人。○相、州、大、坂、源。○信、州、如、田、大、月、安、江、門、尉 **國佐** 常、州、如、戸、如、房、の、
 弟、之、三、段、と、名、信、州、如、田、如、房、字、保 **國元** 相、州、大、坂、寛、文。○同、亦、如、若、古、
 源、字、保 **國山** 奥、州、仙、臺、**國包** 勢、州、仙、臺、山城、入、道、用、重、藤、原、是、之、如、若、古、

後安備と改○武州江戸不川子保**安次**武州仙香住為原ハ江都正富
うつら毛**安清**武州江戸源元文御原永井町**安貞**武州江戸麻布武原
太郎門人清右衛門子保**安國**紀伊國**安綱**武州又江戸仙香住為原長
安光武州國**安友**國不知**安信**紀伊又平安陣**安儀**武州**安繩**國不知
泰光紀伊國紀伊守為長**泰綱**紀伊國大和守源**泰行**お探者能やちち
人子保泰幸うる孫第(一)し**泰近**能也(一)上少自**安弘**為守の銘寛永

政 正 昌 當 雅

政種考前小倉孫系紀古切寛永(一)田與七郎と稱政平(一)子也**政道**下
傳わくも打也○赤石道一人有**政國**孫お古坂寛文○石州為守の比
政辰美濃大坂同人寛文**政廣**河内大坂為長○甲州大石和筋為孫
政則尾州活海**政長**豫州松山江ハ為守為長人少(一)上系為長と改
寛永(一)事相山(一)お友喜為小堀(一)田與(一)會(一)後二代目長道(一)代

目長四代目之孫孫四郎為長五代目宗長或云初代長國為子為長
初ハ正長(一)代目陸奥大坂(一)吉吉道(一)四代通長(一)五代為の(一)為長也(一)
政次相州○筑前源田○**政包**羽後**政房**國不知**正道**武州江戸為孫
之(一)○薩州給勢郡赤入弓削為作(一)孫元文**正則**武州江戸大和為孫
姓前同人(一)之系吉(一)子(一)及(一)吉(一)津(一)左(一)為(一)孫(一)初(一)光(一)江(一)戸(一)一(一)り(一)向(一)平(一)子(一)大(一)和(一)大
孫(一)正(一)為(一)孫(一)一(一)切(一)正(一)子(一)山(一)城(一)大(一)孫(一)國(一)次(一)山(一)田(一)七(一)郎(一)之(一)孫(一)子(一)父(一)と(一)自(一)稱(一)法
橋(一)之(一)孫(一)山(一)田(一)忠(一)由(一)二(一)子(一)同(一)孫(一)七(一)郎(一)之(一)孫(一)為(一)子(一)ハ(一)江(一)戸(一)吉(一)武(一)○**紀伊**平(一)戸(一)姓
中(一)古(一)ハ(一)系(一)正(一)俊(一)之(一)子(一)子(一)正(一)重(一)八(一)作(一)左(一)之(一)孫(一)延(一)實(一)八(一)系(一)井(一)上(一)為(一)政(一)
一(一)ノ(一)人(一)と(一)稱(一)して(一)和(一)二(一)系(一)平(一)戸(一)一(一)孫(一)是(一)即(一)土(一)肥(一)守(一)之(一)初(一)代(一)也(一)子(一)作(一)
孫(一)も(一)少(一)く(一)と(一)切(一)正(一)孫(一)五(一)年(一)四(一)十(一)八(一)系(一)○**肥前**佐(一)志(一)播(一)磨(一)大(一)孫(一)ハ(一)忠(一)政(一)之(一)孫
子(一)之(一)孫(一)久(一)之(一)子(一)○**奥州**會(一)津(一)伊(一)豆(一)守(一)○**但馬**山(一)本(一)法(一)傳(一)為(一)孫(一)寛(一)永(一)○**尾州**
為(一)孫(一)○**播磨**お(一)古(一)坂**正清**武州二為孫(一)父(一)也(一)玉(一)井(一)系(一)お(一)之(一)孫(一)字(一)保

○振州大坂實文○和泉吉源國子志○南郡金房久遠**正守**七子振
 石堂高保○江戸石道元文長州自人石道興之左衛門宗者三子人志
正武長州石道高保**正盛**豐後**正行**城後新發田正家如くも打し元
保正次長之友高保○法城高保信高ハ吉次兼し○城信高之友
 以城高和泉吉源高長崎和泉吉も同人高人○或云江戸西次ハ長
 州二王信正末方信江戸一王信才ハ初西次高和泉吉也室高史と稱
 ○或云丹波高○相摸高**正廣**振高五代目あり西永孫也河内大孫高
 保五事四十六事○城後新發田源高保○紀後河内高實文○備前高
 山長長○和泉高實高城後高白江○城高國**正國**或高ハ皇子○月
 法城高信○振後國中下慶長○防後源○南東高系ハ高信高保し
正永薩高平依高保○豊高高津伊高**正之**防高信高月山孫高言
保正弘但高法城高○江戸高信高ハ高戸一高保○但高言高保元孫

正實播高姫高正家高子月信二代**正春**播高姫高者高**正勝**播高姫高
 振高太孫高孫高高保振高太孫高實文**正真**高保一人**正利**武高下高**正辰**
 伊高○武高下高**正友**高保高之友延高**正俊**備高之系高孫**正昌**大高門
 左高正安高切**正平**高保國**正久**甲州高郡高平井村二代目ハ正信と稱す
正滿**正富**武高法城高實文**正重**振高平高上高正高延高延高是高保高
 初高○防高信高月山高保○加州高孫高之友**正真**播高太孫高者高**正礼**
 江戸高孫高太孫高實文**昌國**振高五高郡高兼也石高**當行**高保高内高
田當光武高國高者高**雅久**武高江戸武高太孫高四高各
不 冬 房 藤
久廣同高者高○高保高三人高其高屬高之高長高左衛門高之孫高
 高取代高心し皆高若高太孫高切高保ハ一高保高より別高たり國ハ高
 高孫高多し**房泉**振高高孫高孫高高利ハ高保高解高吉高七と稱高保高延

元和

正宗 山切小十郎 寶榮 國不知 銘長 國不知 牡丹 子及國田
美濃大進也

新刀辨疑卷之七大尾

新刀二種辨後

并年二名年。東國力。多法。亦山。
安。以。百。七。第。不。及。法。時。能。勉。持。何。
為。形。安。在。懷。字。數。子。人。可。去。急。恨。
子。應。第。字。隱。毛。多。支。刀。初。之。名。
難。去。也。是。氣。玉。生。能。子。臨。手。相。新。第。

安永八年亥歲九月吉日

十河長純撰



鎌田三郎太夫著



2800

鎌田三郎太夫著

安永八年亥歲九月吉日

印刷師

井上新七



井上清藏



日本橋通三丁目

前川六左衛門

書肆

芝神明之前

山田屋三四郎

日本橋通三丁目

山田屋藤助

